

## 会 議 録（第 1 回妙高市総合計画審議会）

- 1 会議の名称：第 1 回妙高市総合計画審議会
- 2 開催日時：令和 5 年 7 月 1 8 日（火） 1 5 時から 1 7 時 1 5 分まで
- 3 開催場所：妙高市役所 3 0 3 会議室
- 4 出席した者の氏名（敬称略・傍聴者を除く）

（委員 1 5 人）

吉田昌幸、池田和資、上村岳、関原一義、佐藤義明、関貴史、勝島和明、伊藤寿尚、鶴見幸恵、望月卓裕、桑山宗大、伊藤民子、佐藤久美子、堀俊介、小川夕子

（事務局 1 5 人）※関係課職員含む

岡田企画政策課長、宮川課長補佐、岸本政策調整グループ係長、竹田政策調整グループ係長、道下主査、今井主査、小山主事、吉越総務課長、宮下環境生活課長補佐、斉藤環境生活課 SDGs 推進室長、西澤建設課長補佐、大野地域共生課長補佐、池田観光商工課長補佐、大沢農林課長補佐、保坂健康保険課長補佐

- 5 議題・発言の内容（要旨）

(1) 副市長あいさつ

【西澤澄男副市長】

第 1 回の総合計画審査会の開催にあたり、ご多用の中お集まりいただき感謝申し上げます。また、審議会委員への就任を快くお引き受けいただき、厚く御礼を申し上げます。

現在の第 3 次総合計画は、生命地域の創造を基本理念とし、令和 2 年度から令和 6 年度までの 5 カ年計画として作成したが、スタートの年である令和 2 年には、新型コロナウイルス感染症が世界的に蔓延し、非常に難しい時代の中で動いてきた。

特に、ここ数年は市としても市民の皆様に様々な形で行動規制やワクチン接種等の感染症対策をお願いし、考え方や価値観、働き方、生活様式が多様変わったと感じる。そうした中で、市民の皆様のニーズの変化を第 4 次総合計画にどのように反映していくかということが大きな課題である。

また、今年 5 月には、妙高市の人口が 3 万人を切った。想定よりもかなり早いペースで人口減少が進んできている。一番の要因は、少子化が凄まじいスピードで進んできているということである。人口減少対策にどのように挑戦していくべきか、有効性のある持続発展的な計画づくりを進めていきたい。

委員の皆様のご知見をいただく中で、より市民が幸せな生活を送れるような計画づくりをお願い申し上げます。

- (2) 自己紹介  
委員名簿の順に委員、事務局自己紹介
- (3) 第3次総合計画の評価及び第4次総合計画の策定について諮問  
市長から吉田会長に評価及び策定を諮問
- (4) 審議事項等
  - ①第3次総合計画における令和4年度施策評価について  
資料1により事務局から説明。会議の進め方を説明後、評価を実施。

### 【令和4年度施策評価（第3次総合計画）評価】

#### 《まちづくりの大綱1 快適で安全・安心に暮らせるまちづくり》

##### ＜基本施策1＞

- 委員→AIを活用したデマンド交通について、実証実験の車両はタクシー会社の乗用車を使用しているのか。それとも大型バスを使用しているのか。
- 事務局→乗用車タイプの車両を使用している。
- 委員→今後の方向性に持続可能な公共交通の再編とあるが、コミュニティバスでいうと、乗車人数が減ってきている中で車両は変わらず、20人乗りのマイクロバスに1人乗るか乗らないかというような状況もある。小型車両に変更することで、車両自体の購入価格やメンテナンスの部分でもコストダウンが図れるため、利用しやすく、運営しやすい方法を検討いただきたい。
- 事務局→所管課に伝え、検討していきたい。

##### 【審議会評価】

- ・今後の方向性の評価は、「I. 事業拡大（追加・発展）」
- ・コメント案は、AIによるシェア型デマンド交通システムについて、「車両の小型化を含めた」という文言を追記すること。

##### ＜基本施策2＞

- 委員→指標3の地域（共助）の防災力の向上について、このポイントが下がっているということは、ポイントが向上した自主防災組織の数が減ったということで、頭打ちになっていると理解すれば良いか。
- 事務局→各地域で行っていただく自主防災訓練において、例えば、訓練で避難所の受付をしたら何点、情報伝達訓練をしたら何点というようにポイント化している。昨年度は、コロナの影響を受け、自主防災組織の訓練自体がなかなか実施されず、訓練内容まで高めることができないところが多く、こうしたパーセンテージとなっている。
- 委員→年々やっていると、やる事がなくなってしまい、やればやるほどポイントの上がり方が少なくなる。この指標の仕方で良いのか検討いただきたい。
- 委員→今後の方向性の選択区分がIとなっているが、施策を構成する主な事業の評価

を見ると、全て維持となっている。評価の付け方について教えていただきたい。

また防災については、自助、共助、公助の3つが融合することで安心して暮らせるまちづくりになると思うが、公助の部分がどの指標にあたるのか教えていただきたい。

- 事務局→各事業の評価は維持となっているが、今後の方向性の内容を見たときに、コロナ禍により実施できていなかった自主防災組織の活動を発展させていくことや、空き家についても現状維持ではなく、特定空き家の増加を抑制していくなど、事業の追加・発展の必要性があることからIとさせていただいている。
- 事務局→防災関連の指標については、自助、共助の部分が多くなっているが、指標4の消防団員の充足率に関連する部分で言うと、消防団の設備関係等は公費で賄わせていただいている。また、有事の際に必要な備蓄品の貯蔵を市で用意しているほか、各避難所については、地域の皆様、施設を管理されている方、防災士、市職員が共同で運営することになっており、そういった方々と一緒になって運営できるような訓練を全体で行い、有事に向けて動ける体制を作っていることも市全体の公助として動かさせていただいている部分ではないかと思う。
- 委員→指標9の有害鳥獣による農作物被害額について、数字の出所は被害に遭った方からの報告によるものか。
- 事務局→農作物共済から報告があった額となる。
- 委員→実績値の被害額はあまり高くないが、ここに隠れている被害というのも結構あると思う。企業関係で農業を行っているところは報告の体制もきちっと取れていると思うが、個人の畑などの被害については情報が上がってない現状もあると感じる。今後の方向性の部分で、地区と市の更なる連携強化とあるが、細かい部分も把握できる良い案があればと思う。
- 事務局→個人レベルでの被害についても、把握できる仕組みを所管課と検討する。
- 委員→指標7の管理不全な特定空き家等とあるが、実績値が増えたとしても、そもそもの空き家の件数も増えているのではないか。割合を示したパーセンテージの方がより目標達成値が分かりやすいと思う。
- 事務局→おっしゃる通り、空き家の件数自体も増えているのが実情であるため、パーセンテージでの指標設定について検討していきたい。
- 委員→現状で空き家の把握は正確にできているか。
- 事務局→特定空き家の件数については、地域ごとに把握しており、現在は89件となっている。
- 委員→空き家数の増加を抑制することと、先ほどの1-1の優良宅地造成支援事業は、相反するところがある。宅地造成をして新しい家に住んでもらうということは、空き家の増加にもつながってしまう。宅地造成を含めた包括的な形で見ていかないと、本当の意味での空き家の増加抑制は難しいと感じる。

## 【審議会評価】

- ・今後の方向性の評価は、「Ⅰ．事業拡大（追加・発展）」
- ・コメント案は、包括的な視点から空き家の増加をどう抑えていくかが重要であるため、単に空き家の登録を積極的に呼びかけるだけではなく、宅地造成を含め、広い視点での取り組み内容に修正すること。

## 《まちづくりの大綱 2 美しい自然と共に生きるまちづくり》

### ＜基本施策 1＞

- 委員→妙高市はSDGsに非常に積極的に取り組んでいると理解している。市民や商工業者の皆さんも、ベクトルを合わせて進んでいく必要がある。特に商工業者の皆さんのSDGsに対する取組を後押しする方法として、ゼロカーボンチャレンジ事業所登録制度などがあるが、その他にどのような啓発活動に取り組んでいるか。妙高市には大きな企業もあるが、家族で事業を営んでいる方々も多く、人もお金もなかなかSDGsには振り向けられず、踏み出せていない事業所の方もたくさんいらっしゃる認識している。今後の方向性では、普及啓発と理解の醸成を図るとなっているが、これまでの啓発活動においてはどういったものがあつたか教えていただきたい。
- 事務局→昨年度はSDGsの条例制定や実行計画策定のほか、地域や学校を中心に市の職員が講師となり出前講座を行った。今年度は、事業所向けの取組に力を入れ、ゼロカーボンチャレンジ事業所登録制度とあわせて出前講座を周知し、中堅企業を中心に申し込みをいただいている。また、財務課では公共施設の入札関係においてSDGs視点での公共工事事業を推進するなど、市の制度も活用する中で、事業所向けの啓発を進めている。
- 委員→銀行もSDGsに関しては積極的に取り組む姿勢である。事業者とも一緒に取り組んでいきたいと思っているので、タッグを組んで取組を進めていきたい。
- 委員→一般廃棄物処理手数料が値上げされたが、ごみの減量に因果関係があるのか。ごみの減量を促進するために手数料を上げたと書かれているが、そのような理解で良いか。
- 事務局→手数料を値上げさせていただいたのは、コストが上がっているごみ処理に係る経費を適正に市民の皆さんに負担いただくことが目的である。あわせて、ごみが増えてきているということもあり、リサイクルを推進していく必要があるため、これを機会に、ごみの減量に取り組んでいただきたいということで、説明会では説明をさせていただいた。こちらの文章が適切でない部分もあるので、修正をさせていただく。
- 委員→ごみの減量と資源化について、地域説明会の開催により理解を得たということで評価されているが、参加者が少数だったところも正直あつたかと思う。そういった中で、説明会を行ったことで理解が得られたと言い切れるのか。まだ市民には浸透していないように思う。

もう1点、この項目の大綱は、美しい自然と共に生きるまちづくりとなっているが、市の花や木、鳥などはあるのか。市の花があれば全面に押し出して、市民の皆さんでプランタ

一などで育ててみるといった活動をするのも良いのではないか。

- 委員→私が住む地域では参加者が大変多かった。新たにプラスチック製品の区分ができたこともあり、質問もたくさん出ていた。あわせて、SDGsに関するDVDを視聴し、SDGsを身近に感じていただく良い機会となったと思う。参加者が少ない地域もあったかもしれないが、地域説明会は十分効果があったのではないかと思う。
- 委員→私が住む地域もかなりの参加者がいて、特にお母さん世代の参加者が多かった。こうした啓発活動は定期的に行っていく必要がある。何か改定するからやるのではなく、毎年続けてやることで浸透していく。生ごみの処理の仕方やキューロの使い方など、実際に持ってきて見せながら説明するという取組は定期的に行っていくべきだと思う。
- 事務局→昨年度、手数料改定やプラスチックごみの改定について全地域で説明をさせていただいた。その中で、やはり参加者数の地域差はあったが、今年度もう一度説明をして欲しいという地域や団体もあり、実際に説明会を開かせていただいたところもある。市民の皆さんが関心を持たれていることは重々承知しており、まだ説明が足りないというところがあれば、説明を行っていききたい。
- 事務局→妙高市の花はシラネアオイという花で、国立公園地内に生息している。また、妙高市の木はブナ、鳥はオオルリとなっており、これらの動植物を発信し、妙高市の自然を身近に感じていただけるようなきっかけを作っていきたいと思う。
- 委員→指標の3の環境サポーターズの登録者数について、実績値は登録者数が329人という、かなり大規模なボランティア団体に見えるが、実際に活動に参加してくださる方は、限定されているように感じる。参加できていない方に、どのように周知して参加していただくかというのが、これからのこの団体の活動の重要性を左右するものになるかと思う。そういった面で見ると、目標値を登録者数としているが、今後は、参加者数や参加率等に変えるべきではないか。また、どうやって参加者を集めるかということになると、なかなか行政だけでは制限がある。民間のCSRに取り組んでいる企業が周知をかけて、ボランティアは楽しいということを広報で流すなど、イメージ戦略を企業とタイアップをして一緒にやっていくと環境サポーターズも生きてくると感じる。
- 事務局→環境サポーターズの数は年々増えており、活動への参加者も年々増えている。ただ、重労働な作業も多く、協力できる範囲でということをお願いをしている。指標設定については、実際の参加者数ということも検討していきたいと思う。  
また、CSRの企業とのタイアップについては、昨年度からYAMAPというアプリとタイアップを行っており、関係人口の創出や登山道の整備などにご協力いただいている。引き続き、新たな企業の開拓をしていきたいと考えている。
- 委員→アパレル業界など全く違う分野でも意外と環境保全に関心の高い企業が多いので、他分野にも目を向けてみるのも良いかと思う。

#### 【審議会評価】

- ・今後の方向性の評価は、「I. 事業拡大（追加・発展）」

- ・コメント案は、SDGs 推進条例の文面について、「市全体が一丸となって」の部分「市、市民、事業者」に修正すること。

### 《まちづくりの大綱3 にぎわいと交流を生み出すまちづくり》

#### ＜基本施策1＞

- 委員→今後の方向性の1つ目について、市の施策としては何をやるかということが書かれていない。妙高ツーリズムマネジメントの課題ではあるが、この課題を解決していくために、市としてどういうことをするのかを書くべき。
- 事務局→課題を解決するうえで、市としても誘客の体制や消費額の向上について対策を行うなどの文言を入れるよう修正する。
- 委員→その場合、今後の方向性はⅡの改善で良いか。Ⅰの事業拡大にするべきか。
- 委員→具体的にⅠではなくⅡにした理由はあるのか。
- 事務局→選択区分としては、実施方法等を見直していくというのが改善、ある程度抜本的な見直しをしながら、経営資源も拡大しながら行っていくべきものは拡大としている。こちらの分野では、これまで体制づくりについてツーリズムマネジメントと市で連携し、必要な支援をしながら行ってきたが、より充実した体制確立に向けて、今までのやり方を改善することで成果につなげていくためⅡの改善を選択している。
- 委員→指標6の二次交通路線数はバスを示すものか。これはどこを回っている路線になるのか。
- 事務局→こちらはバスの路線を示すものであり、8路線となっているが、主な路線としては、妙高高原地域を走る市営バスや笹ヶ峰へ行く直行バス、バス事業者で冬期運行しているスキー場間を結ぶ路線などがある。
- 委員→スキー場間を結ぶバス路線について、去年は1人当たり片道1,000円かかっていた。宿を利用したお客さん6人が、スキー場に行って帰ってくるだけで1万2,000円かかる。これではタクシーを使った方が安い、タクシーも捕まらないし、市内の循環バスでもたどり着けない状況でこれは問題だと思った。
- 事務局→市営バスは、交通空白地帯を解消するために市が主体となって運行しているバスになるため、あくまで生活路線という捉え方になる。一方で、スキー場間を結ぶ路線バスに関しては、どちらかというと、観光客をターゲットにしたものになり、運輸局の許可の関係もあるため、市のバスを走らせることは現段階では難しい。ただ、料金の問題など課題もあるので、今シーズンは反省を生かしていきたい。
- 委員→施策を構成する主な事業について、決算額が予算に対して大幅に少ない事業についても維持や拡大といった評価になっているものがある。決算額が低くなったのはコロナの影響があつてなのか。それとも、今後も必要な内容であるため、維持や拡大にしているのか。
- 事務局→施策を構成する主な事業の2つ目の観光施設整備事業については、予算1,300万

に対して 280 万円の決算額となっているが、施設の工事をを行う予定だったものが令和 4 年度中にはできず、令和 5 年度に予算を繰り越している。それ以外にも、決算額が極端に少なくなっているものがあるが、予算を繰り越して使っているものや、再度検討し、状況の変化等により未執行となったものがある。それでも拡大しなければいけないものとして、例えばゼロカーボンについては、国全体で推進していかなければいけないため、拡大の評価区分をつけさせていただいている。

- 委員→広域連携という記載があるが、どのようなところと連携していく動きがあるのか。
- 事務局→観光分野においては、上越市、糸魚川市との上越 3 市の連携がある。また、信濃町、飯綱町、長野市との信越高原での連携もある。さらに、飯山市や中野市など北信濃の 9 市町村との連携もある。現在の広域連携は、そういった上越地域と長野県を中心に組み組んでいる。
- 委員→近隣の市町村との連携が非常に多いと思うので、そのようなワードも追加であっても良いかと思う。
- 委員→近隣の市町村との連携については、上越地域振興局としても関わっており、アウトドアスポーツをもう少し活性化していきたいという話が出ている。先般開催した SEA TO SUMMIT のように、3 市が連携して、全国各地から人が集まってくれるイベントを打ち出していきたい。

#### **【審議会評価】**

- ・今後の方向性の評価は、「Ⅱ. 改善（事業内容見直し）」
- ・コメント案は、妙高ツーリズムマネジメントの体制について、市としては何をどう改善するのかという点について追記すること。また、広域連携について具体的に連携する地域を追記すること。さらに、二次交通の問題についての文言を追記すること。

#### **<基本施策 2>**

- 委員→主食用米の作付面積の目標達成率について、304%というのはどのように算出しているのか。
- 事務局→平成 30 年度の現況値 1,591ha から令和 4 年度には 1,570ha まで減らすという目標値になっており、この減らし幅が 21ha となっている。それに対して令和 4 年度の実績値が 1,527ha ということで、平成 30 年度の現況値から令和 4 年度の実績値の差を取ると、64ha となる。21ha 落としたいところ、面積増加の抑制がかなり図られ、64ha まで抑えられたということで目標達成率は 304%となっている。
- 事務局→主食用米の作付面積については、国が各都道府県の主食用米の生産目標を出し、その後、農業再生協議会で新潟県に割り当てられている作付面積を市町村ごとに割り振る。人口減少の中で、毎年 10 万トンほど需要が減少しており、国からは主食用米の作付面積を抑えるように指示がある。

- 委員→先日の六・十朝市に大道芸人が来ていたが、今年から呼んだのか。
- 事務局→大道芸人をいつから呼んでいたかは不明だが、朝市のにぎわいや町中のにぎわいの創出のためにコラボした取組だと認識している。六・十朝市は昔からある市であるため、存続させていきたいと思う。
- 委員→商工会議所が事務局となる、街なかにぎわい推進委員会の中で、市の開催日が土日祝日に当たった時に大道芸人の方に2回ほど公演を依頼した。
- 委員→テレワーク研修交流施設について、ワーケーションを兼ねて妙高の良さを知っていただき、そのうえで妙高市に定住していただくというきっかけづくりとして非常に素晴らしい施設だと思う。利用された方のうち、市内或いは県内、県外、特に首都圏など、どのくらいの割合で利用されているのか。
- 事務局→令和4年度に関しては、利用者のうち半分以上は市内の方、それ以外は首都圏から来られる方が多い。
- 委員→施策を構成する主な事業の3番目の就労支援事業について、市内事業所実態調査の結果、人手不足を感じている事業所が半数近くいるということだが、この実態調査は、どのくらいの規模で行った調査なのか。
- 事務局→昨年6月から8月の間で新井商工会議所、妙高商工会、妙高高原商工会の会員事業所を対象に行った。対象事業所1,066件のうち回答のあったのが228件で回答率は21.4%という結果が出ている。
- 委員→主食用米の作付面積について、お客さんの需要や妙高市産のお米の評価を聞くと、減らすというのは難しい。減った分は、ただ単に減っているのか、転作がうまくいつているのか。また、高齢化による担い手不足についても関連しながら進めていく必要があると感じる。
- 事務局→生産目標を達成するために、国でも水田リノベーション事業を行い、輸出米や備蓄米への転換に対して支援をしている。JAや大黒屋と連携し転換できないかという話をする中で、昨年は生産目標を達成することができた。また、国からの支援を活用する中で、主食用米を作った場合と同程度の単価で買い取りができたという報告もあった。また、大豆や蕎麦を作る場合は、水田農業経営所得安定対策事業で上乗せ補助を行っており、減らすだけでなく、それに伴う費用負担の部分も支援する中で生産調整をしている。また、新たな担い手の確保については、移住定住フェアや就農フェアに出向きPRをしている。ただ、ここ数年で新規就農者として妙高市に来て自分で新たに農業やるという方はおらず、まずは、法人や企業に就業されるという方が20名程いる。そういった方が、技術を身につけて農地等を確保したうえで、就農するという流れができるよう、市としても取組を進めている。
- 委員→今後の方向性のスマート農業の普及等について、実際にスマート農業を農家さんが取り組んでいくとなるとハード面が高価であり、ソフト面の整備も必要になってくる。また、環境面や整備も必要になってくる中で、こういう文言を記載するのであれば、

もう少し細かく書いた方が丁寧かと感じる。また、これだけ水が豊富な妙高市では、水田は圧倒的に作るのが楽な作物であり、水田を園芸に変えることは非常に大変なことである。大豆や蕎麦は、国では園芸指定にならないので、そういったことも含めて、もう少し踏み込んだことを記載しても良いと思う。

- 事務局→令和 5 年度から次世代農業の確立支援事業ということで、新たにスマート農業に取りかかる農家への支援を行っている。また、県でも同様の事業があるので、そういった取組を踏まえて内容を修正する。

#### 【審議会評価】

- ・今後の方向性の評価は、「Ⅰ. 事業拡大（追加・発展）」
- ・コメント案は、スマート農業と転作に関する文面について、もう少し具体的に踏み込んだ書き方に修正すること。また、担い手の確保・育成について、加工用ブドウについてだけでなく、幅広く農業全体の中でという文言に修正すること。

### 《まちづくりの大綱 4 全ての人が元気に活躍できるまちづくり》

#### ＜基本施策 1＞

- 委員→指標 2 について、65 歳以上の男性の運動定着率は、問診票などにより数字が出るのか。
- 事務局→国保特定健診や市民健診を受診された 65 歳以上の方にアンケートをとっており、それを集計したものになる。
- 委員→健康づくりリーダーは、どういう方がなられて、どのくらいいらっしゃるのか。
- 事務局→各地域にリーダー役となる方の推薦を依頼しており、現在 70 名程の方からリーダーとなっただいている。当市の課題となっている運動習慣の定着やガン検診の受診率等の実態をお伝えしながら、地域とどのように解決していけば良いかということと一緒に考えている。地域の他の役をやっていらっしゃる方が兼任されていることが多いため、負担感があるという声もあるが、地域ぐるみで活動していくためには重要な位置付けになるということで、年に 2 回ほどの研修を実施している。
- 委員→地域によって様々な役員や推進委員の方がいるかと思うが、なり手がいないものについては、選任をしていないものもある。分野ごとに役員を統合して一緒の方向性で考えていかないと、役員ばかりが増えて仕事も分散してしまう。
- 委員→持続可能なかたちで活動をしていくためにも、統合できる場所があれば検討いただきたい。

#### 【審議会評価】

- ・今後の方向性の評価は、「Ⅲ. 継続（現状維持）」
- ・コメント案は、役員や推進委員の統合について検討する旨を追記すること。

(5) その他

事務局より、次回の会議日程について連絡。

6 会議資料の名称

- ・令和5年度 第1回妙高市総合計画審議会次第
- ・資料1：第3次総合計画における令和4年度施策評価について

上記に相違ないことを確認する。

令和5年8月22日

妙高市総合計画審議会  
会 長 吉田 昌幸

## 会 議 録 (第 2 回妙高市総合計画審議会)

- 1 会議の名称：第 2 回妙高市総合計画審議会
- 2 開催日時：令和 5 年 7 月 1 9 日 (水) 1 5 時から 1 7 時まで
- 3 開催場所：妙高市役所 3 0 3 会議室
- 4 出席した者の氏名 (敬称略・傍聴者を除く)

(委員 1 1 人)

吉田昌幸、池田和資、関原一義、佐藤義明、勝島和明、望月卓裕、桑山宗大、伊藤民子、佐藤久美子、堀俊介、小川夕子

※欠席：上村岳、関貴史、伊藤寿尚、鶴見幸恵

(事務局 1 2 人) ※関係課職員含む

岡田企画政策課長、宮川課長補佐、岸本政策調整グループ係長、竹田政策調整グループ係長、道下主査、丸山主事、小山主事

丸山福祉介護課長補佐、大野地域共生課長補佐、小林生涯学習課長補佐、余野子ども教育課長補佐、保坂健康保険課長補佐

- 5 議題・発言の内容 (要旨)

(1) 審議事項等

①第 3 次総合計画における令和 4 年度施策評価について

### 【令和 4 年度施策評価 (第 3 次総合計画) 評価】

◀まちづくりの大綱 4 全ての人が元気に活躍できるまちづくり▶

#### <基本施策 2>

- 委 員→地域の茶の間の実施回数の状況はどのようなか。
- 事務局→実績値の 22 は、月 2 回以上実施している会場数を示している。トータルの自治会数は、延べで大体 100 から 200 箇所となっており、月に 1、2 回以上の頻度で開催している。
- 委 員→22 会場を進めていく上で、地域で活動をリードしていく方は、それぞれ仕事もされている中で大変である。昨日も話があったが、地域での役員の統合など負担のないかたちにするのが良いと感じる。
- 委 員→私の地域でも地域の茶の間を受け持っているが、前年度に比べて 13 地区も減ったというのは非常にショックである。減った理由は何か。
- 事務局→コロナ禍の影響が大きいことに加え、高齢化に伴い解散する茶の間が増えているということも関係していると思われる。
- 委 員→地域の茶の間が減っていく中、増やしていくための考えはあるか。
- 事務局→地域の茶の間は、地域主体で運営していただく以上、その地域のリーダーとなる

方の存在が非常に重要になっている。うまくいっている茶の間は、リーダーの方が活発で、いろいろな住民に声かけ、頻繁に開催していただいている。本来であれば地区ごとに開催できると良いが、人口減少や高齢化に伴い、開催できないところも出てきているため、近隣の地区同士で連携する中で、複数の集落が集まれる茶の間を今後検討していかなければならないと考えている。

- 委員→地域の茶の間ではなく、社会福祉協議会でも元気茶屋を開催されているが、年間10回以上開催すると助成金が出ていた。元気茶屋と市の地域の茶の間とは、別のものなのか重複しているものもあるのか。
- 事務局→社会福祉協議会の事業も含めて、地域の茶の間と呼んでいる。地域で呼び方が違っているが、それらを総称して地域の茶の間としている。
- 委員→だんだん高齢化していくと、なかなか徒歩で会場まで行くのが難しくなってくる。そうすると、誰かが迎えに行くなどの支援があれば参加できるという状況もある。行きたい気持ちはあっても行けないという方が、随分いらっしゃると思うので、そうした手だてなどは、今後を見据えたうえで検討いただきたい。
- 事務局→今年度から茶の間に通うための送迎支援を地域で運営しているところもある。そういった情報を地域の皆さんにも提供しながら働きかけていきたい。
- 委員→規模が大きくなると、やはり会場が遠くなり送迎も必要になるが、地域の茶の間は地区ごとにある公民館で行うのが本来の姿かと思う。それであれば、高齢者の方も歩いていける。規模が小さければ小さいなりに、集まりやすい面もあると思う。
- 事務局→我々も地域をジャンル分けして、高齢者の方のためだけではなく、子どもから大人、高齢者の方までそこで暮らしているすべての方が気軽に集まれる場になれば良いと思っている。それを実現するのはハードルが高いが検討していきたい。

#### **【審議会評価】**

- ・今後の方向性の評価は、「Ⅱ. 改善（事業内容の見直し）」
- ・コメント案は、循環の仕組みを構築するという部分について、関係団体と協力し可能な範囲でやっていくことが大切であるため、「持続可能な仕組みを構築する」という文言に修正すること。

#### **<基本施策3>**

- 委員→指標3について、この部分は地域づくりを長期的な視点で考えたときに、非常に重要な部分になる。この指標が上手く達成できていないと、自分たちの地域をどういうふうにしていきたいのか自分たちで決められないということになってしまう。新しい工夫をして、この目標が達成できるように努力をする必要があるため、単に事業拡大というよりは、事業内容の見直しも含めた改善でも良いかなと感じる。
- 事務局→実際にこのビジョンを作られたのは、矢代地区のみとなっている。今までは、行政が引っ張って進めることが多く、地域が主導となった計画づくりができていなかった。

地域が主体となるよう背中を押す取組を続けていきたいと思っている。

- 委員→アンケートは取っているが、ビジョンを作るところまではしていない地域については、スタートとゴールだけを示すのではなく、ここまで出来ているということを指標としてきめ細やかに示すことが大切である。また、ビジョンを作成する上でアドバイスをするコーディネーターやファシリテーターなどの人材をもっと入れる機会を作っていくとより良いかと思う。
- 事務局→現在、水上地区と新井南部地区の2地区を先行モデルとして、コーディネーターの方を入れて話を始めているので、ご指摘のとおり進めていきたいと思う。
- 委員→地域ごとに人口規模が違う中で、100人いる地区と10人いる地区に同じお願い事をしても上手くいかない。そういったところから見直ししていかないと、地域自ら立ち上がるというような気はなかなか出てこない。また、こうした取組を進める上でコーディネーターが入った場合、その時のメンバーは気運が高まり、盛り上がる場所があるかと思うが、きちんとした引き継ぎがなされなければ、動きも終わってしまう傾向があるように感じる。
- 事務局→おっしゃる通りで、引っ張る力のある人がいる地域は話がどんどん進むが、その人がなくなった途端に、その流れが終わるということも実際にある。地域が、同じ目標や同じ気持ちで物事を進めていくことが大切なので、その中で、続けていくことや止めることの判断をしていただき、出来ることを続けていただけたら良いのではないかと思います。
- 委員→様々な場面で人員ということが問題になっているのであれば、新たに組織を設立するのではなく、すでに問題意識があり、毎月話し合いをしている地域もあるので、その中の改善を少しずつしていく方が良いのではないかと。各地域でやっていることにおいてコーディネーターが見直しをかける方が現実的かと思うので検討していただきたい。
- 事務局→コロナ禍が終わり、今までできなかった行事を再開しようという動きが各地域であるかと思うが、今の役員の方は、コロナ禍で何もできなかった時と今まで活動ができていた時の両方を知っているため、続けていくべきものを選択するのが非常に分かりやすいのかなと思う。今が変えていくチャンスだと思うので、ご提案いただいた内容については検討していきたい。
- 委員→移住定住という言葉がある中で、日本全国で人の奪い合いになっている印象がある。この地から外に出られる方もある中で、学生が東京に行くようなケースではなくて、妙高で仕事をしている人が上越や長野に移るケースも多いと思う。移住者についてだけでなく、地元にいる方たちが外に行かないような仕組みづくりについて追記があっても良いのではないかと思います。
- 事務局→地元の方を逃さないといった文言についても追記を検討させていただきたい。

#### 【審議会評価】

- ・今後の方向性の評価は、「Ⅰ．事業拡大（追加・発展）」
- ・コメント案は、地元の方が生活しやすい環境づくりを行い、他の地域に出て行かないような仕組みづくりについて追記すること。また、地域の将来ビジョンを積極的に作っていかなければならないという課題を踏まえた形で文言を入れること。

#### <基本施策4>

- 委員→主な事業のところ、1番目と2番目の評価がない理由は何か。
- 事務局→市の主要事業については、それぞれ評価が入っているが、経常事業については、評価の部分が空欄となっている。
- 委員→いじめが解消された割合について、発生件数のデータはあるか。
- 事務局→令和4年度末で小学校が94件、中学校が78件、合計172件となっている。

#### 【審議会評価】

- ・今後の方向性の評価は、「Ⅰ．事業拡大（追加・発展）」
- ・コメント案は、修正なし。

#### 《まちづくりの大綱5 郷土を築く人と文化を育むまちづくり》

#### <基本施策1>

- 委員→待機児童の発生人数について、平成30年も令和4年度もゼロとなっており、恐らく近年は発生してないかと思うが、それ以前は待機児童が問題になっていたのか。
- 事務局→問題になっていたことはないと認識している。園についても、最寄りの園のほか、近場の園での受け入れについて保護者の方のご意見・ご意向をお聞きしながら割り振りさせていただいている。
- 委員→そうするとこの項目は必要であるのか。
- 事務局→ここでは、待機児童を発生させないことを目標に掲げ、受け皿の整備など行政として必要な対策をしていくということで項目を上げさせていただいている。
- 委員→標準的な体格の園児の割合について、肥満度の数字も標記があるが、対策などはあるのか。
- 事務局→肥満度がオーバーしている、もしくは、マイナスになっている園児の保護者の方に、市の管理栄養士や保健師がヒアリングを行い、食生活や運動習慣について改善指導を実施している。園の食事に関しては管理栄養士が献立を作って、園で作っているが、何かご指摘があった際は、現場や管理者にもお伝えして共有していきたいと思う。

#### 【審議会評価】

- ・今後の方向性の評価は、「Ⅰ．事業拡大（追加・発展）」
- ・コメント案は、修正なし。

## <基本施策2>

- 委員→指標3、4、5は学校単位で計算しているのか。
- 事務局→確認し、後ほど回答させていただく。
- 委員→昨年度もこの部分は数値が低かったように記憶している。その時は、学年や年度によって子どもたちの成績にばらつきがあるという回答であったが、毎年続いているとなると、やはり問題があるのではないかと感じる。英語はALTの先生方を増員していくなど改善策があるが、ベテランの方が異動になった後の対応も含めて、改善方法を考えていくべきだと思う。
- 事務局→英語に関してはALTを8名配置することや専門の指導主事を配置するなどの対応をしている。数学に関してはタブレットを1人1台配布し活用していくとともに、教職員の指導力アップに向けた取り組みも必要になると感じる。
- 委員→学校間で差が出ているためという文言は保護者が見たときに、学校によって教育の質が違うのではないかを考えられる方もいらっしゃると思う。この文言を丁寧にしていただけたら良いのかなと思う。
- 事務局→対応したいと思う。
- 委員→ロイロノートの導入やGIGAスクール構想といった記載があるが、おそらく第3次総合計画の策定時はこういった話は無く、途中から出てきたので、これらに対して適切な達成状況を表すものは無いと思う。協働的な学習ができたからと言って指標3、4、5の得点率が上がるということでもないし、協働的な学習はまた違う目的があると思う。今後、タブレット活用した学習はスタンダードになってくると思うので、第4次総合計画では、それに合わせた形で、単にテストの点数が良かったということ以外の達成目標を置いた方がより良いかと思う。
- 事務局→先ほどの指標3・4・5の全国標準学力検査については、全国平均を上回った市内小中学校数になる。
- 委員→学校数でなく、個々の生徒がどれくらい習得したかということで、平均を上回った生徒が全体で何人いるといった数値の出し方が良いのではないか。
- 事務局→全国標準学力検査の集計方法が学校単位のみなのか、また、妙高市内の個々の生徒の結果を積み上げて公開することが可能なか確認をさせていただく。

### 【審議会評価】

- ・今後の方向性の評価は、「Ⅱ. 改善（事業内容の見直し）」
- ・コメント案は、修正なし。

## <基本施策3>

- 委員→指標7の実績値が入っていないが、この部分説明をお願いしたい。
- 事務局→成人における週1回以上のスポーツや運動の実施率は、5年に1回実施する市民意識調査により集計しているため、資料には平成30年の27.4%という数字が入っている。

市民意識調査以外で直近のデータとしては、令和2年度に同様の項目で調査をしており、51.2%という結果になっている。

- 委員→社会教育施設利用者数について、令和4年の実績値が16万5,541人ということだが、どういう施設が対象なのか。
- 事務局→主なものとしては、体育館や新井総合コミュニティセンター、文化ホールなどの利用者数となる。
- 委員→昨年度まではコロナ禍の影響を引きずっていたかと思うが、達成率が98.4%ということで目標に近い数字が出ている。おそらく令和5年度は、コロナ禍が明けて利用者数が戻ってくると思うので、その中でもきっちりと目標値に近づけていくような、丁寧な対応を取っていくということが重要だと思う。
- 委員→昨年度コシヒカリマラソンに参加させていただいたが、運営がスムーズで非常に良かった。今年度は走るコースが変わっているが、これはどういった理由なのか。
- 事務局→昨年までは、街中の北国街道を通るコースで実施させていただいていたが、令和5年度については、矢代地域のほうを走っていただくということで大きくコースが変わっている。コースを変えた理由としては、安全確保のための交通規制が難しいという点がある。交差点や信号機が多い街中での交通規制は、市民の皆様にもご不便をおかけする場面があり、警察の方からも改善をして欲しいというご意見をいただいたため、コースを見直し、雄大な妙高を眺めながら走っていただくというコースに変更させていただいた。
- 委員→コシヒカリマラソンの申し込みがネットのみとなっているが、スポーツ施設などでの申し込みはできないか。
- 事務局→現在のご案内については、ネットからのお申し込みということで統一させていただいているが、市民の方からのご意見があるとすれば今後検討させていただく。
- 委員→まなびの杜はオンライン講座も実施しているということだが、全体の何割程がオンラインなのか。
- 事務局→令和4年度については、オンライン対象のものが11講座あり、全体で20講座程なので、半数はオンラインで講座運営をさせていただいている。可能な限りオンライン講座という方法をとっていきたいと思うが、現地学習があるものや、著作権などの関係から申し込みをされた現場の方のみを対象としてほしいといった講師の先生の意向もあるため、調整のつくものについては、なるべくオンライン講座を開催していきたいと考えている。
- 委員→保育や介護をテーマとした講座で、参加者を増やしていくとなると、オンライン化をしていかないと、実際には忙しくて行けないということもあるので、検討いただきたい。
- 委員→まなびの杜は、ずっと同じ内容なのか。それともその時代のニーズに合わせて変化してきているのか。
- 事務局→当初は3年計画でカリキュラムを組んでいたが、3年は長いので単年で内容を変

えて欲しいという意見もあり、現在は単年度ごとに講座内容を変えながら運営している。妙高市内でのテーマとなると、自然環境や笹ヶ峰など内容がどうしてもマンネリ化してしまうという意見があったため、上越圏域に枠組みを広げて、近隣市も含めた中で進めていかなければいけないと感じている。ただ、地域のことを知っていただきたいという市としてのねらいもあるため、受講される皆さんのご意見等も聞きながらテーマ設定をしていきたいと考えている。

- 委員→市外にも広げていくことについては、何か制限や決まりはないのか。
- 事務局→特に制限はない。ただ、運営している市教育委員会としては、まずは地域のことを知っていただきたいということで、市内のことを優先的に講座のテーマに取り上げることが多い。

#### **【審議会評価】**

- ・今後の方向性の評価は、「Ⅱ．改善（事業内容の見直し）」
- ・コメント案は、修正なし。

#### **<基本施策4>**

- 委員→達成状況も良いので、施策評価はBでも良いのではないかと思います。また、今後の方向性は改善（事業内容の見直し）となっているが、どの点を見直しするのかというところが分かりづらい。事業拡大でも良いのではないかと思います。評価の理由を教えてください。
- 事務局→旧関山宝蔵院庭園が関山地区のシンボルとなったことから、宝蔵院御膳などを活用したコンテンツに改善し、より良い地域活性化の取組を行っていくということで、こちらの評価とさせていただきます。
- 委員→今後の方向性で宝蔵院御膳を活用した宿坊の里づくりとあるが、宿坊というのは、宿泊施設を伴うものか。
- 事務局→宿坊の里づくりというと、何か新しく施設を作るのかというイメージを持つかもしれないが、現時点では、そういうことではなくて、せつかくこの地域の資源としてある宝蔵院御膳を活かしてお客さんにおもてなしをする環境を作っていくという取組になる。その上で、関温泉の宿で商品化していく動きが出てきており、そうした取組を推進していくということで記載させていただいた。
- 委員→新・BS 日本のうたを誘致したということだが、誘致のためにどのような活動をしたのか。
- 事務局→NHK に対して、妙高市で公開収録事業をやって欲しいということで要望を上げている。番組名までは指定できないが、今回は新・BS 日本のうたという大きな事業が開催された。
- 委員→そういった要望は、何年も行うのか。
- 事務局→行っている。NHK は、各市町村の慶事に合わせて割り振りをしているようで、今

年も文化ホールが開館 40 周年記念ということで、要望したところ今年 10 月に、みんな DE どーもくん！という幼児向けの公開収録番組が来ることになった。そういった地道な活動を行いながら、盛り上げていきたいと考えている。

- 委員→アートステージは市内での発表だけか。せっかく制作したものなので、市内で終わりではなく評価された作品は次の大会や展示会で披露される機会があると、制作意欲もわくのではないかと思う。
- 事務局→妙高芸術祭ということで、3つの芸術展を同時期に開催しており、妙高市民の方の創作発表の場となる妙高市展のほか、全国公募で妙高市や妙高戸隠連山をモチーフとした芸術展を開催している。これは旧妙高高原町時代からやっている事業で妙高高原に観光に来た方に妙高のすばらしさを知っていただきたいという意味合いで作られた芸術展となる。また近年、来場するお客さんが減ってきていたことから、昨年は妙高高原ビジターセンターを会場に入賞作品だけを集めた展覧会を開催し、多くの方から作品を見ていただいた。今後も、市外の方にも発信していきたいと考えている。

#### 【審議会評価】

- ・今後の方向性の評価は、「Ⅱ. 改善（事業内容の見直し）」
- ・コメント案は、修正なし。

#### 【全ての施策評価が終了】

#### ②第4次総合計画の策定概要・策定体制・スケジュールについて

資料2により事務局から説明。質疑・意見等なし。

#### ③令和5年度まちづくり市民意識調査（市民向け）の結果について

資料3により事務局から説明。

<質疑・意見等>

- 委員→アンケートの回収率が非常に悪い。項目が多すぎると感じた。
- 事務局→前回の回答率は40.4%で、回答が少ない結果となったが、標本誤差を用いた統計的な計算に基づいた数値では、380件以上のサンプルがあれば、ある程度信憑性の高い数値であるということになる。アンケートの項目については、前回から見直しをさせていただき、前回は健康や福祉分野などの設問も入っていたが、今回は所管課でそれぞれ計画を策定する際に別でアンケート調査をするなど、できるだけ項目が多くならないように工夫した。ただ、まだ多いということでご意見をいただいたので、次回以降の参考にさせていただきたい。
- 委員→住みやすさについて回答する項目があるが、どういう理由で住みやすいと考えているかという項目はあるか。ポートフォリオ分析の満足度が高いものが該当するという考え方になるのか。
- 事務局→直接的にこういう理由があるので住みやすいという設問はないが、おっしゃる

ようにポートフォリオの満足度の部分で読み取りを行いたいと思う。

- 委員→今後も妙高市に住み続けたいかという項目について、しばらくは住むが、将来はわからないという回答が10～40代で一番高くなっている。次のページのところで移り住みたい理由について回答があるが、この理由をきめ細かく分析することで、重点を置くべき部分が見えてくると思う。
- 事務局→この質問については、ずっと住み続けたい・しばらく住むが、将来は分からない以外を回答した方に理由を聞いている。細かく分析を進めていきたい。
- 委員→ポートフォリオについて、平成30年度と令和5年度で必ずしも質問項目が同じではないので、正確な比較はできないと思うが、いくつか見ると、重要度が前は高いものが、今回は低くなっている項目もあるので、その部分をどう捉えるかということも、この5年間の経緯の中で分析する必要があるかと思う。

## 6 会議資料の名称

- ・資料1：第3次総合計画における令和4年度施策評価について
- ・資料2：第4次総合計画の策定概要・策定体制・スケジュールについて
- ・資料3：令和5年度まちづくり市民意識調査（市民向け）の結果について

上記に相違ないことを確認する。

令和5年8月22日

妙高市総合計画審議会

会 長 吉田 昌幸

## 令和5年度 第1回妙高市総合計画審議会次第

日 時： 令和5年7月18日（火）

15時～17時

場 所： 妙高市役所3階 303会議室

1. 開 会

2. 副市長あいさつ

3. 自己紹介

4. 第3次総合計画の評価及び第4次総合計画の策定について諮問

5. 審議事項等

①第3次総合計画における令和4年度施策評価について【資料1】

②第4次総合計画の策定概要・策定体制・スケジュールについて【資料2】

③令和5年度まちづくり市民意識調査（市民向け）の結果について【資料3】※当日配布

6. その他

次回会議：7月19日（水） 15時～17時

※18日（火）の審議状況を踏まえて、19日（水）の会議を行います。

7. 閉 会

## 妙高市総合計画審議会 委員名簿

### 1. 委員

氏 名	所 属 等
吉田 昌幸	上越教育大学 教授
池田 和資	新井商工会議所 副会頭
上村 岳	Pond (ポンド)
関原 一義	(一社)妙高ツーリズムマネジメント
佐藤 義明	上越地域振興局 企画振興部 副部長
関 貴史	環境省信越自然環境事務所 妙高高原自然保護官事務所 自然保護官
勝島 和明	第四北越銀行新井支店 支店長
伊藤 寿尚	連合新潟上越地域協議会 頸南支部 支部長
鶴見 幸恵	上越ケーブルビジョン(株)
望月 卓裕	NPO法人 ふるさとづくり妙高 事務局長
桑山 宗大	国立青少年自然の家 次長
伊藤 民子	介護予防サポーター (元民生委員)
佐藤久美子	新潟県地球温暖化防止活動推進員
堀 俊介	(一社)妙高青年会議所 理事長 元 わかもの会議 委員
小川 タ子	認定新規就農者 元 わかもの会議 委員

### 2. 事務局

氏 名	所 属 等
岡田 豊	企画政策課 課長
宮川 尚史	企画政策課 課長補佐
岸本 学	企画政策課 政策調整グループ 係長
竹田 敦子	企画政策課 政策調整グループ 係長
道下 進	企画政策課 政策調整グループ 主査
今井 英幸	企画政策課 政策調整グループ 主査
丸山 大樹	企画政策課 政策調整グループ 主事
小山 祥	企画政策課 政策調整グループ 主事

【表の見方(第3次総合計画)】

- ・13の基本施策ごとに施策の達成状況や成果と課題などを整理し、評価したものです。
- ・庁内評価委員会での評価を踏まえ、審議会として、施策の「今後の方向性」について議論・決定し、コメントを入れていきます。

令和4年度施策評価(第3次総合計画)

1 施策の概要	
まちづくりの大綱	1 快適で安全・安心に暮らせるまちづくり
基本施策	1 生活しやすい都市環境づくり【生活基盤】
関係課	総務課、企画政策課、環境生活課、市民税務課、観光商工課、建設課、こども教育課、生涯学習課、地域共生課、上下水道局
主要施策	1 コンパクトなまちづくりの推進 2 スマートシティ妙高の推進 3 道路ネットワークの強化 4 雪に強いまちづくりの推進 5 安全で安定したガス上下水道の維持
	    
R4予算額(千円)	#REF! R4決算額(千円) 397,328

①基本施策を構成する主要施策を記載しています

②施策の目標値として設定されている指標を記載しています

③現況値と目標値の関係  
 ▲:現況値の上昇を目指すもの  
 →:現況値の維持を目指すもの  
 ▼:現況値の下降を目指すもの

④目標値に対する達成率を記載しています

⑤達成率が70%未満の場合、考えられる要因を記載しています

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。  
 ※指標3、4は目標達成率がマイナスとなるため、0%と表記しています。

2 施策目標の達成状況							
指標名	単位	現況値	目標値	目標値の根拠	区分	R3年度	R4年度
1 都市機能・居住誘導区域内の人口密度	人/ha	24.3 (H30)	24.3 (R4)	現況値以上を目標とする(現況値)9,734人=400.5ha=24.3人/ha	実績値	22.6	22.4
指標の説明					目標達成率	93.0%	92.2%
2 都市機能施設の誘導件数	件	- (H30)	2 (R4)	①統合園 ②図書館 ③子育て支援施設 ④商業施設	実績値	2	2
指標の説明					目標達成率	100.0%	100.0%
3 えちごトキめき鉄道市内4駅における1日あたりの平均乗車人員	人	1,654 (H30)	1,620 (R4)	利用者は減少が見込まれるが、落ち込みを抑制(27-30:△4.3%→3%に抑制)	実績値	1,212	1,271
指標の説明					目標達成率	0.0%	0.0%
4 市営バス・コミュニティバスの1日あたりの平均乗車人員	人	267 (H30)	262 (R4)	利用者は減少が見込まれるが、落ち込みを抑制(26-30:△6%→3%に抑制)	実績値	205	220
指標の説明					目標達成率	0.0%	0.0%
5 ICTが活用された住民サービス事業数	事業	- (H30)	6 (R4)	年間2事業の活用増を目指す	実績値	4	6
指標の説明					目標達成率	100.0%	100.0%
6 ICTの導入による業務削減時間数	時間	- (H30)	1,500 (R4)	2,000時間以上の削減を目指す	実績値	821	2,078
指標の説明					目標達成率	68.4%	138.5%
7 市道整備率	%	57 (H30)	57.4 (R4)	(整備済延長:401,800m+整備計画延長800m)÷市道実延長:705,300m	実績値	57.3	57.3
指標の説明					目標達成率	100.0%	99.8%
8 国道292号整備率(道路改良)	%	12.8 (H30)	57.7 (R4)	(2018年まで整備延長 第2工区:500m+第1工区:960m+第3工区:800m)÷整備計画総延長:3,914m	実績値	33.2	57.7
指標の説明					目標達成率	175.7%	100.0%

⑥上記2に記載の指標の番号

⑦庁内における評価とその理

⑧令和4年度の目標値の達成状況を中心に、施策の総合的な

⑨施策の成果等を踏まえて、庁内評価委員会で示した今後の方向性について記載しています

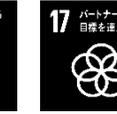
【審議会で議論】

3 施策を構成する主な事業				
No.	(事業通番) 事業名	関連する指標No.	評価	R4年度事務事業の事後評価 評価理由
1	(98972) 優良宅地造成支援事業	1	見直し	●造成事業1件に対して支援を行い、38区画の宅地造成に結びつけることができた。 ●居住誘導区域内で行う3,000㎡以上の宅地造成が可能な土地が限られてきていることから、制度のあり方について検討を行う必要がある。 R4予算額(千円) 10,000 R4決算額(千円) 10,000
2	(92102) 生活交通確保対策事業	4	維持	●市内の公共交通を維持し、市民の移動手段の確保を図った。持続可能な生活交通網の確立に向け、AIを活用したシェア型デマンド交通システムの実証運行を実施した。 ●市内の公共交通を維持するため、実証運行の結果を踏まえ運行範囲の拡充や利用者の利便性向上を図る必要がある。 R4予算額(千円) 137,795 R4決算額(千円) 130,742
3	(103616) スマート自治体推進事業	5, 6	維持	●RPA等のICT技術の活用や業務改善により年間1,257時間(令和2年度からの累計で2,078時間)の業務時間を削減した。また、先進技術社会実装計画に基づくドローンの緊急時物資配送に関する実証実験を実施した。 ●ドローンの市内産業化に向け、先進技術社会実装計画に基づいた山小屋配送に向けた基地局整備、講習機関の確保等の環境整備を行う必要がある。また、行政手続き等のDX化に向け、オンライン申請手続きの対象を拡大していく必要がある。 R4予算額(千円) 43,950 R4決算額(千円) 43,450
4	(130370) 道路新設改良事業	7	維持	●市道改良工事4路線のうち、3路線については、早期発注・早期完了に努め、年度内に全ての工事を完了することができた。 ●国の交付金など財源確保を図りながら、計画的に道路整備を進める。 R4予算額(千円) 262,604 R4決算額(千円) 180,522
5	(130480) 橋梁長寿命化事業	9	維持	●市道橋171橋の法定定期点検を実施し、健全度の確認を進めることができた。 ●国の交付金など財源確保を図りながら、計画的に維持修繕を進めるとともに、今後の維持管理を考慮し、通行量が少なく老朽化が著しい橋梁の集約化や撤去を検討する必要がある。 R4予算額(千円) 34,793 R4決算額(千円) 32,614

4 施策評価		
区分	選別区分	評価理由
	B	●居住誘導区域内に住宅等の立地を誘導してきたことで、区域内の人口密度の低下を緩やかにすることができた。 ●新図書館等複合施設の整備に向けて市民等との意見交換等を重ねながら施設の実施設計を完了した。 ●持続可能な公共交通網の確立に向け、AIを活用したシェア型デマンド交通システムの実証実験を行い、運行の需要に基づいた効率的な運行システムの効果検証を実施した。 ●先進技術社会実装計画に基づくドローンの緊急時物資配送に関する実証実験を行い、産業化に向けた環境整備の必要性を確認した。 ●雪処理に対する地域力が低下してきていることから、地域の負担軽減や安全確保を図るため、流雪溝クラウド監視制御システムの実証を行った。

5 今後の方向性		
区分	選別区分	今後の方向性
庁内評価委員会	I	●コンパクトなまちづくりを推進するため、宅地造成に対する支援について、より居住誘導効果が見込める制度の検討を行うこと。 ●新図書館等複合施設を中心としたまちなかの再構築を図っていくこと。 ●AIによるシェア型デマンド交通システムの実証運行の効果検証結果をもとに、運行範囲の拡充等により利用者の利便性向上や運行の効率化を図り、人口減少社会において持続可能な公共交通の再編を計画的に進めていくこと。 ●ドローンの市内産業化に向け、操縦者の育成に向けた講習機関の確保等の環境整備を進めること。 ●橋梁にかかる維持管理コストの負担軽減に向け、集約化等の検討を進めること。 ●流雪溝クラウド監視制御システムは設置効果を踏まえ拡大を図っていくこと。
審議会		I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了

# 令和4年度施策評価(第3次総合計画)

1 施策の概要	
まちづくりの大綱	1 快適で安全・安心に暮らせるまちづくり
基本施策	1 生活しやすい都市環境づくり【生活基盤】
関係課	総務課、企画政策課、環境生活課、市民税務課、観光商工課、建設課、こども教育課、生涯学習課、地域共生課、上下水道局
主要施策	1 コンパクトなまちづくりの推進 2 スマートシティ妙高の推進 3 道路ネットワークの強化 4 雪に強いまちづくりの推進 5 安全で安定したガス上下水道の維持
	    
	R4予算額(千円) 3,143,984   R4決算額(千円) 3,034,715

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。  
 ※指標3、4は目標達成率がマイナスとなるため、0%と表記しています。

2 施策目標の達成状況		指標名	単位	現況値	目標値	目標値の根拠	区分	R3年度	R4年度	目標達成率が70%未満の要因等
1	指標の説明	都市機能・居住誘導区域内の人口密度	人/ha	24.3 (H30)	24.3 (R4)	現況値以上を目標とする(現況値)9,734人÷400.5ha=24.3人/ha	実績値	22.6	22.4	
		都市機能や居住の誘導を図る区域の人口密度		→	目標達成率		93.0%	92.2%		
2	指標の説明	都市機能施設の誘導件数	件	— (H30)	2 (R4)	①統合園 ②図書館 ③子育て支援施設 ④商業施設	実績値	2	2	
		都市機能施設(統合園、図書館、子育て支援施設、商業施設等)の誘導件数		↗	目標達成率		100.0%	100.0%		
3	指標の説明	えちごトキめき鉄道市内4駅における1日あたりの平均乗車人員	人	1,654 (H30)	1,620 (R4)	利用者は減少が見込まれるが、落ち込みを抑制(27-30:△4.3%→3%に抑制)	実績値	1,212	1,271	人口減少の進展とコロナ禍の影響によるもの
		1日あたりの平均乗車人員(予測される減少を抑制)		↘	目標達成率		0.0%	0.0%		
4	指標の説明	市営バス・コミュニティバスの1日あたりの平均乗車人員	人	267 (H30)	262 (R4)	利用者は減少が見込まれるが、落ち込みを抑制(26-30:△6%→3%に抑制)	実績値	205	220	人口減少の進展とコロナ禍の影響によるもの
		1日あたりの平均乗車人員(予測される減少を抑制)		↘	目標達成率		0.0%	0.0%		
5	指標の説明	ICTが活用された住民サービス事業数	事業	— (H30)	6 (R4)	年間2事業の活用増を目指す	実績値	4	6	
		市が進める住民サービスでICTが活用された事業数		↗	目標達成率		100.0%	100.0%		
6	指標の説明	ICTの導入による業務削減時間数	時間	— (H30)	1,500 (R4)	2,000時間以上の削減を目指す	実績値	821	2,078	
		計画期間内に市役所でICTの導入により削減された業務時間数		↗	目標達成率		68.4%	138.5%		
7	指標の説明	市道整備率	%	57 (H30)	57.4 (R4)	(整備済延長:401,800m+整備計画延長800m)÷市道実延長:705,300m	実績値	57.3	57.3	
		市道延長に対し整備した市道の割合		↗	目標達成率		100.0%	99.8%		
8	指標の説明	国道292号整備率(道路改良)	%	12.8 (H30)	57.7 (R4)	(2018年まで整備延長 第2工区:500m+第1工区:960m+第3工区:800m)÷整備計画総延長:3,914m	実績値	33.2	57.7	
		国道292号改良計画延長に対し整備した割合		↗	目標達成率		175.7%	100.0%		
9	指標の説明	橋梁修繕率	%	19.4 (H30)	25.0 (R4)	修繕計画橋梁数:44橋÷修繕必要橋梁:160橋	実績値	21.9	21.9	
		修繕必要橋梁数に対し修繕した橋梁の割合		↗	目標達成率		92.0%	87.6%		
10	指標の説明	道路除雪満足度	%	80.3 (H30)	80.3 (R4)	道路除雪全般について「良好・ほぼ良好」と回答する割合	実績値	69.0	89.3	
		除雪支部長アンケート調査の結果による道路除雪の満足度(過去3カ年平均)		→	目標達成率		85.9%	111.2%		
11	指標の説明	新たな事業運営手法の導入事業数	事業	— (H30)	4 (R4)	ガス、水道、簡易水道、下水道の4事業における導入を目指す	実績値	0	4	
		官民連携手法等を導入した事業(ガス、水道、簡易水道、下水道)の数		↗	目標達成率		—	100.0%		

3 施策を構成する主な事業					
No.	(事業通番)	関連する 指標No.	R4年度事務事業の事後評価		
	事業名		評価	評価理由	
1	(98972)	1	見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>●造成事業1件に対して支援を行い、38区画の宅地造成に結びつけることができた。</li> <li>●居住誘導区域内で行う3,000㎡以上の宅地造成が可能な土地が限られてきていることから、制度のあり方について検討を行う必要がある。</li> </ul>	
	優良宅地造成支援事業			R4予算額(千円)	10,000
2	(92102)	4	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市内の公共交通を維持し、市民の移動手段の確保を図った。持続可能な生活交通網の確立に向け、AIを活用したシェア型デマンド交通システムの実証運行を実施した。</li> <li>●市内の公共交通を維持するため、実証運行の結果を踏まえ運行範囲の拡充や利用者の利便性向上を図る必要がある。</li> </ul>	
	生活交通確保対策事業			R4予算額(千円)	137,795
3	(103616)	5, 6	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●RPA等のICT技術の活用や業務改善により年間1,257時間(令和2年度からの累計で2,078時間)の業務時間を削減した。また、先進技術社会実装計画に基づくドローンの緊急時物資配送に関する実証実験を実施した。</li> <li>●ドローンの市内産業化に向け、先進技術社会実装事業計画に基づいた山小屋配送に向けた基地局整備、講習機関の確保等の環境整備を行う必要がある。また、行政手続き等のDX化に向け、オンライン申請手続きの対象を拡大していく必要がある。</li> </ul>	
	スマート自治体推進事業			R4予算額(千円)	43,950
4	(130370)	7	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市道改良工事4路線のうち、3路線については、早期発注・早期完了に努め、年度内に全ての工事を完了することができた。</li> <li>●国の交付金など財源確保を図りながら、計画的に道路整備を進める。</li> </ul>	
	道路新設改良事業			R4予算額(千円)	262,604
5	(130480)	9	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市道橋171橋の法令定期点検を実施し、健全度の確認を進めることができた。</li> <li>●国の交付金など財源確保を図りながら、計画的に維持修繕を進めるとともに、今後の維持管理を考慮し、通行量が少なく老朽化が著しい橋梁の集約化や撤去を検討する必要がある。</li> </ul>	
	橋梁長寿命化事業			R4予算額(千円)	34,793
6	(160130)	2	拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>●図書館整備構想や新図書館等複合施設整備計画に基づき、施設整備に向けて市民等との意見交換等を重ねながら施設の実設計を完了した。</li> <li>●施設のオープンに向けて、市民ボランティアの人材発掘や育成を進めるとともに、電子書籍の導入など新たなサービスの充実に取り組む必要がある。</li> </ul>	
	新図書館等複合施設整備事業 (繰越分を含む)			R4予算額(千円)	109,298
7	(130190)	10	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●除雪計画に基づき、地域と除雪受託業者、市が連携し、一体となって雪処理に取り組んだ結果、大雪時の影響も比較的少なく、冬期間の安全・安心な道路交通を確保することができた。</li> <li>●高齢化や核家族化などにより雪処理に対する地域力の低下や、除雪事業者の体制確保が難しくなっていることから、持続可能な除雪体制の構築を進める必要がある。</li> </ul>	
	除雪対策事業			R4予算額(千円)	1,240,452
8	(30070)	3	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人口減少やコロナ禍の影響等を受け、駅利用者数は目標値を下回っているが、投資・支援スキームに基づく財政支援に加え、原油価格高騰等の影響を受けたトキ鉄に対し、緊急的な財政支援を行ったことにより、年間を通じて安全で安定的な運行を確保することができた。</li> <li>●引き続き市民や観光客など鉄道利用を促進するとともに、変電所等の大規模設備の更新時期を控えていることから、国・県・沿線市が連携して財政支援を拡充し、トキ鉄の安定経営と維持・存続を図る必要がある。</li> </ul>	
	企画費			R4予算額(千円)	16,051
9	(130050)	8	-	(経常経費のため事後評価対象外)	
	道路橋梁総務費			R4予算額(千円)	53,660
10	(107884)	11	-	(経常経費のため事後評価対象外)	
	ガス事業清算費			R4予算額(千円)	1,235,381

4 施策評価		
区分	選択区分	評価理由
A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった	<b>B</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●居住誘導区域内に住宅等の立地を誘導してきたことで、区域内の人口密度の低下を緩やかにすることができた。</li> <li>●新図書館等複合施設の整備に向けて市民等との意見交換等を重ねながら施設の実施設設計を完了した。</li> <li>●持続可能な公共交通網の確立に向け、AIを活用したシェア型デマンド交通システムの実証実験を行い、運行の需要に基づいた効率的な運行システムの効果検証を実施した。</li> <li>●先進技術社会実装計画に基づくドローンの緊急時物資配送に関する実証実験を行い、産業化に向けた環境整備の必要性を確認した。</li> <li>●雪処理に対する地域力が低下してきていることから、地域の負担軽減や安全確保を図るため、流雪溝クラウド監視制御システムの実証を行った。</li> </ul>

5 今後の方向性		
区分	選択区分	今後の方向性
市内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	<b>I</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コンパクトなまちづくりを推進するため、宅地造成に対する支援について、より居住誘導効果が見込める制度の検討を行うこと。</li> <li>●新図書館等複合施設を中心としたまちなかの再構築を図っていくこと。</li> <li>●AIによるシェア型デマンド交通システムの実証運行の効果検証結果をもとに、運行範囲の拡充等により利用者の利便性向上や運行の効率化を図り、人口減少社会において持続可能な公共交通の再編を計画的に進めていくこと。</li> <li>●ドローンの市内産業化に向け、操縦者の育成に向けた講習機関の確保等の環境整備を進めること。</li> <li>●橋梁にかかる維持管理コストの負担軽減に向け、集約化等の検討を進めること。</li> <li>●流雪溝クラウド監視制御システムは設置効果を踏まえ拡大を図っていくこと。</li> </ul>
審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了		

# 令和4年度施策評価(第3次総合計画)

1 施策の概要	
まちづくりの大綱	1 快適で安全・安心に暮らせるまちづくり
基本施策	2 安全・安心な地域社会づくり【安全・安心】
関係課	総務課、地域共生課、環境生活課、農林課
主要施策	1 防災体制の確立 2 安全な市民生活の確保
	   
	R4予算額(千円) 80,686 R4決算額(千円) 68,394

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。

2 施策目標の達成状況		指標名	単位	現況値	目標値	目標値の根拠	区分	R3年度	R4年度	目標達成率が70%未満の要因等
1	指標の説明	自主防災組織において防災訓練を実施した割合	%	76.2 (H30)	90 (R4)	全組織での訓練実施を目標とする	実績値	40.8	50.4	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、実践的な訓練を控える団体が増加したため。
				↗	目標達成率			48.0%	56.0%	
2	指標の説明	防災研修会等に参加した延べ人数	人	300 (H30)	1,500 (R4)	現況値から年300人増を目標とする	実績値	1,062	2,133	
				↗	目標達成率			88.5%	142.2%	
3	指標の説明	災害対応力診断チェック表による災害対応力が向上した組織の割合	%	— (H30)	50 (R4)	現況値より災害対応力ポイントが向上した自主防災組織・自主防災組織(126団体)	実績値	55.2	37.6	
				↗	目標達成率			138.0%	75.2%	
4	指標の説明	定数に対する団員数の割合	%	94.3 (H30)	97 (R4)	自警消防団の消防団への編入や特別消防団員を充足することで定員確保を目指す	実績値	85.8	97.2	
				↗	目標達成率			89.4%	100.2%	
5	指標の説明	刑法犯罪の年間発生件数	件	152 (H30)	135 (R4)	前年比△5件を目指す	実績値	101	107	
				↘	目標達成率			138.6%	126.2%	
6	指標の説明	人身事故の年間発生件数	件	31 (H30)	21 (R4)	前年比△3件を目指す	実績値	28	19	
				↘	目標達成率			0.0%	110.5%	
7	指標の説明	解体・改修された特定空き家等の実数(年間)	戸	4 (H30)	4 (R4)	現況値ベースの堅持を目標とする	実績値	1	10	
				→	目標達成率			25.0%	250.0%	
8	指標の説明	イノシシ、ニホンジカの年間捕獲数	頭	150 (H30)	220 (R4)	鳥獣被害防止計画においてR2に200頭の捕獲を目標としており、R3以降は10頭/年増を目標とする	実績値	357	120	降雪の遅れ、小雪の影響により冬期間の捕獲が伸びなかったため。
				↗	目標達成率			170.0%	54.5%	
9	指標の説明	有害鳥獣により被害を受けた農作物の被害額	千円	1,154 (H30)	1,154 (R4)	現況値を超えないことを目標とする	実績値	634	1,001	
				→	目標達成率			182.0%	115.3%	

3 施策を構成する主な事業					
No.	(事業通番)	関連する 指標No.	R4年度事務事業の事後評価		
	事業名		評価	評価理由	
1	(21070)	1~3	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自主防災組織、防災士、施設管理者及び市職員合同による避難所運営研修を実施したほか、妙高市防災士会の協力を得ながら、実際の避難所を会場とした運営訓練を試験的に行った。</li> <li>●市内全体の避難所運営体制の強化を図るため、自主防災組織による実際の避難所を会場とした訓練をより多くの避難所において実施する必要がある。</li> </ul>	
	コミュニティ防災組織育成推進事業			R4予算額(千円)	6,337
2	(21130)	4	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●消防団再編に伴い、使用しなくなる車両や小型ポンプについて、資機材整理の考えや予定を分団に積極的に確認することにより消防団内で配置換えを行うなど、資機材を有効に活用することができた。</li> <li>●引き続き、資機材の有効活用について、分団による資機材の整理状況を注視していく必要がある。</li> </ul>	
	消防施設・資機材整備維持管理事業			R4予算額(千円)	52,230
3	(80020)	5	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●妙高市犯罪被害者見舞金を新たに創設し、市民が被害にあった際に支援を受けられるよう制度の整備を行った。</li> <li>●引き続き、防犯講座の実施や広報等による注意喚起により防犯の意識啓発を図る必要がある。</li> </ul>	
	犯罪のないまちづくり推進事業			R4予算額(千円)	3,633
4	(90030)	6	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●交通事故防止のため、市内の学校や園、町内会等において交通安全教室を実施し、交通安全意識の醸成を図った。また、R4年度の交通事故発生件数は19件となり、昨年度の28件から減少した。</li> <li>●関係機関と連携し、市民一人ひとりの交通安全意識を高めていくとともに、高齢者の運転免許の自主返納への理解促進に努めていく必要がある。</li> </ul>	
	交通安全対策事業			R4予算額(千円)	3,124
5	(90802)	7	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>●特定空き家を解体する所有者等に対し、補助金制度を設けることで、老朽空き家の解体の促進が図られた。(補助金活用件数:5件)</li> <li>●管理不全空家の増加を防ぐため、空き家バンクへの登録を促すなどの対策が必要である。</li> </ul>	
	空き家等適正管理事業			R4予算額(千円)	2,617
6	(90440)	8,9	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国交付金を活用し、くくりわなやわなセンサーなどの新しい猟具や技術を導入したことにより、効果的な有害鳥獣捕獲に繋がった。</li> <li>●地域と市(専門員、実施隊)の更なる協力・連携を図るため、地区からの情報提供に基づく被害状況の把握や現地確認、迅速な捕獲活動を実施する必要がある。また、国、県の関係機関と情報共有を図り、捕獲技術研修会等へも参加する中で、捕獲技術の向上を目指す。</li> </ul>	
	鳥獣対策事業			R4予算額(千円)	12,745

4 施策評価		
区分	選択区分	評価理由
A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自主防災組織、防災士、施設管理者及び市職員による避難所運営研修のほか、実際の避難所を会場とした運営訓練を試験的に行い、多くの参加を得るとともに、有効性を確認することができた。</li> <li>●刑法犯罪件数、交通事故発生件数とも、年度目標を達成することができた。また、妙高市犯罪被害者見舞金を新たに創設し、市民が被害にあった際に支援を受けられるよう制度の整備を行った。</li> <li>●特定空き家を解体する所有者等に対し、補助金制度を設けることで、老朽空き家の解体の促進が図られた。(全10戸のうち補助金活用件数:5件)</li> </ul>

5 今後の方向性		
区分	選択区分	今後の方向性
庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	I	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コロナ禍により実施出来なかった自主防災組織による実際の避難所を会場とした対面での訓練をより多く実施し、市内全体の避難所運営体制の強化を図ること。</li> <li>●R5年度以降も妙高市防災士会との連携や外部講師の招へいにより、実際の避難所における訓練を継続し、地域防災力を高めること。</li> <li>●利活用可能な空き家の登録を積極的に呼びかけ、特定空き家の増加を抑制していくこと。</li> <li>●鳥獣被害防止のため、地区と市(専門員、実施隊)の更なる連携強化を図ること。</li> </ul>
審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了		

# 令和4年度施策評価(第3次総合計画)

1 施策の概要			
まちづくりの大綱	2	美しい自然と共に生きるまちづくり	   
基本施策	1	豊かな生活環境づくり【環境保全】	
関係課	環境生活課		
主要施策	1 自然環境の保全と活用 2 地球温暖化対策の推進 3 資源循環のまちづくりの推進		

R4予算額(千円)	220,482	R4決算額(千円)	192,752
-----------	---------	-----------	---------

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。  
 ※指標7、8は目標達成率がマイナスとなるため、0%と表記しています。

2 施策目標の達成状況									
指標名		単位	現況値	目標値	目標値の根拠	区分	R3年度	R4年度	目標達成率が70%未満の要因等
1	ライチョウの確認数	羽	12 (H30)	18 (R4)	過去最大の確認数に増加させることを目標とする	実績値	18	27	
	指標の説明		頸城山麓に生息するライチョウの確認数	↑		目標達成率	112.5%	150.0%	
2	国立公園妙高利用者数	千人	1,660 (H30)	1,708 (R4)	現況値から5%増加を目標とする	実績値	1,022	1,276	
	指標の説明		自然公園等利用者調べによる妙高市域の利用者数	↑		目標達成率	60.4%	74.7%	
3	環境サポーター登録者数	人	67 (H30)	127 (R4)	20人/年の増加を目標とする	実績値	310	329	
	指標の説明		環境会議で募集している環境ボランティア登録者数	↑		目標達成率	289.7%	259.1%	
4	入域料協力金額	千円	1,460 (H30)	4,400 (R4)	毎年約1%増を目標とする	実績値	4,223	4,125	
	指標の説明		入域料に協力いただいた金額	↑		目標達成率	97.1%	93.8%	
5	妙高市温室効果ガス排出量	千t	313 (H30)	292 (R4)	第2次妙高市地球温暖化対策地域推進計画により、約6千t/年削減を目標とする	実績値	265	246	
	指標の説明		妙高市の温室効果ガスの約98%を占める二酸化炭素の量(当該年度に把握できる数値)※3年前年度の実績	↓		目標達成率	320.0%	319.0%	
6	公共施設における再生可能エネルギー導入件数	施設	8 (H30)	10 (R4)	4件増を目標とする	実績値	8	28	
	指標の説明		市内公共施設における導入件数	↑		目標達成率	80.0%	280.0%	
7	ごみ排出総量	t/年	14,761 (H30)	13,301 (R4)	(家庭系排出予測値×人口予測値×年間日数)+(事業系排出予測値×年間日数)	実績値	14,230	14,552	家庭系可燃ごみの駆け込み排出の増加及びコロナ禍を経て人の流れが戻ったことによる事業系廃棄物の排出が増加したため
	指標の説明		市内から発生する廃棄物の総量	↓		目標達成率	0.0%	0.0%	
8	家庭系可燃ごみ1人1日あたり排出量	g	467 (H30)	422 (R4)	H26年度比40g減量を目標とする	実績値	479	489	令和5年4月からの指定ごみ袋の変更及び価格改定を受けて、駆け込みでごみの排出量が増えたため
	指標の説明		家庭から発生した燃えるごみの1人1日あたり排出量	↓		目標達成率	0.0%	0.0%	
9	事業系可燃ごみ1日あたり排出量	kg	11,893 (H30)	11,100 (R4)	H26年度比0.4t減量を目標とする	実績値	10,361	10,715	
	指標の説明		事業所から発生した燃えるごみの1日あたり排出量	↓		目標達成率	221.1%	148.5%	
10	資源化率	%	30.7 (H30)	31.4 (R4)	R7年度32.0%を目標とする	実績値	34.6	32.7	
	指標の説明		一般廃棄物の総量の内資源化された量の割合	↑		目標達成率	110.9%	104.1%	

3 施策を構成する主な事業				
No.	(事業通番)	関連する 指標No.	R4年度事務事業の事後評価	
	事業名		評価	評価理由
1	(97574)	1~4	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境サポーターズの登録者数の増加や、クラウドファンディングの寄附金額や入域料の収受額の確保、ライチョウ生育地保護事業や外来植物の駆除をはじめとする生物多様性の保全などについて計画どおり実施できた。</li> <li>●自然環境保全への関心や意識を高めるため、入域料の収受状況や取組を広く周知するとともに、寄付者に対して報告を行う必要がある。あわせて、環境サポーターズの活動の充実を図る必要がある。</li> </ul>
	生命地域妙高環境会議事業			R4予算額(千円)   14,707   R4決算額(千円)   14,002
2	(97248)	5	拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生命地域妙高ゼロカーボン推進条例に基づき、その実現に向けた「ゼロカーボン実行計画」を策定した。また、市内全小学校を対象に森林学習など環境学習の場の提供を行い、自然環境保護に向けた意識啓発を図ることができた。</li> <li>●ゼロカーボン実行計画に基づく取組を推進するため、市民や事業所への周知に合わせて、より実践に繋がる工夫をする必要がある。また、環境学習について、小学校低学年から中学生まで幅広く活用できるよう提供メニューの充実を図る必要がある。</li> </ul>
	2050ゼロカーボン推進事業			R4予算額(千円)   19,533   R4決算額(千円)   1,255
3	(90510)	7~10	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ごみの減量と資源化を促進するために、一般廃棄物処理手数料の改定を行い、令和5年からの指定ごみ袋の変更、可燃ごみの収集回数等の統一、プラスチック製品の分別収集開始に向けた準備を行った。</li> <li>●可燃ごみ一人1日当たりの排出量の削減と資源化率の拡大のため、引き続き市報等や地域説明会の開催による周知を行い、ごみ減量と資源化の促進を図る必要がある。</li> </ul>
	ごみ減量・リサイクル推進事業			R4予算額(千円)   136,268   R4決算額(千円)   134,701
4	(100537)	1~10	拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市民、事業所等から具体的な実践活動に繋げてもらうための「SDGs推進条例」の制定及び「SDGs推進実行計画」の策定を行った。</li> <li>●「SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業選定都市」として、庁内各課がそれぞれの役割を認識しつつ、横断的な取組を引き続き進めるとともに、官民共創の理念のもと市全体が一丸となって波及と実践につなげていく必要がある。</li> </ul>
	総合計画・SDGs推進事業			R4予算額(千円)   16,207   R4決算額(千円)   12,329
5	(106074)	1~4	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●展示をはじめ休憩室やショップ全てにおいて高い評価をいただいた結果、開館1年目で目標をはるかに超える約17万人の来館者を達成することができた。</li> <li>●国立公園妙高の魅力や自然資源の大切さを伝える施設として、これまで以上に来訪者への適切な対応や情報発信を充実していく必要がある。</li> </ul>
	妙高高原ビジターセンター管理運営事業			R4予算額(千円)   33,767   R4決算額(千円)   30,465

4 施策評価		
区分	選択区分	評価理由
A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった	<b>B</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境サポーターズ登録者数の増加及び入域料やクラウドファンディングによる環境保全活動資金の確保により、国立公園妙高の自然環境に対する保全意識の醸成が進んでいるものと評価できる。</li> <li>●「ゼロカーボン実行計画」を策定し、地域の脱炭素化を実現するための目標と具体的取組を明らかにした。また、市役所をはじめ公共施設20施設に再エネ電気を導入し、二酸化炭素排出抑制に努めた。</li> <li>●新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、事業活動及び人の流れが戻りつつあることもあり、ごみの排出総量は増加したが、ごみの減量と資源化を促進するため、地域説明会の開催により理解を得るなかで一般廃棄物処理手数料の改定などを行った。</li> <li>●市民、事業所及び市等の相互の連携・協働により具体的な実践活動に繋げていくための「SDGs推進条例」の制定及び「SDGs推進実行計画」の策定を行った。</li> </ul>

5 今後の方向性		
区分	選択区分	今後の方向性
庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	<b>I</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●持続可能な自然保護活動となるよう、自主財源の確保に努めるとともに、自然環境保全への関心や意識を高めるため、取組の発信や活動の充実及び人材の確保・育成を進めること。</li> <li>●2050年二酸化炭素排出量実質ゼロの実現に向けて「ゼロカーボン実行計画」に基づき、市、市民、事業者が協働し、具体的取組を加速・拡大していくこと。</li> <li>●市民一人ひとりが行う3Rの取組の推進や脱プラスチックの生活スタイルへの転換に向け、ごみ減量リサイクル説明会や市報等を通じ、市民や事業所への普及啓発を強化すること。</li> <li>●「SDGs推進条例」に基づき、官民共創の理念のもと市全体が一丸となって浸透と実践につなげていくために、普及啓発と理解の醸成を図ること。</li> </ul>
審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了		

# 令和4年度施策評価(第3次総合計画)

1 施策の概要			
まちづくりの大綱	3	にぎわいと交流を生みだすまちづくり	
基本施策	1	世界に誇れる観光地域づくり【交流促進】	
関係課	観光商工課		
主要施策	1 観光地域づくりの実践 2 国際観光都市としての基盤整備		
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>8 働きがいも経済成長も</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>11 住み続けられるまちづくりを</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>17 パートナシップで目標を達成しよう</p> </div> </div>		
R4予算額(千円)		157,971	R4決算額(千円) 108,264

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。

2 施策目標の達成状況									
指標名		単位	現況値	目標値	目標値の根拠	区分	R3年度	R4年度	目標達成率が70%未満の要因等
1	観光売上額	百万円	11,643 (H30)	13,214 (R4)	現況値から20%増を目標とする	実績値	8,987	18,038	
	指標の説明 年間観光消費額		↗			目標達成率	70.1%	136.5%	
2	観光入込客数	万人	578 (H30)	592 (R4)	現況値から4%の増を目標とする	実績値	360	463	
	指標の説明 年間観光入込客数		↗			目標達成率	61.3%	78.2%	
3	観光コーディネーター数	人	1 (H30)	3 (R4)	総合、マーケティング、旅行商品のそれぞれのコーディネーター数を目標とする	実績値	2	2	新型コロナウイルス感染症の影響により、人員の確保が難しかったため
	指標の説明 観光コーディネーター数		↗			目標達成率	100.0%	66.7%	
4	域内循環額	百万円	1,979 (H30)	2,600 (R4)	現況値から50%の増を目標とする	実績値	1,528	3,066	
	指標の説明 観光産業による域内循環額		↗			目標達成率	63.7%	117.9%	
5	外国人観光宿泊客数	人	59,721 (H30)	68,000 (R4)	現況値から20%の増を目標とする	実績値	1,648	2,695	新型コロナウイルス感染症の影響によるもの
	指標の説明 外国人観光客の年間延べ宿泊数		↗			目標達成率	2.5%	4.0%	
6	二次交通路線数	路線	10 (H30)	13 (R4)	新たに3路線の運行を目標とする	実績値	4	8	コロナ禍による乗車人数の減少により路線数が回復していないもの
	指標の説明 妙高への来訪や市内を周遊する二次交通路線数		↗			目標達成率	33.3%	61.5%	
7	主要な観光施設の利用者数	人	165,130 (H30)	184,852 (R4)	現況値から20%の増を目標とする	実績値	112,077	188,623	
	指標の説明 国立公園施設年間施設利用者数(苗名滝、高谷池ヒュッテ、妙高原ビジターセンター)		↗			目標達成率	63.0%	102.0%	
8	観光施設整備数	箇所	— (H30)	4 (R4)	5箇所増を目標とする	実績値	2	4	
	指標の説明 計画期間内に整備した施設の数		↗			目標達成率	66.7%	100.0%	

3 施策を構成する主な事業				
No.	(事業通番)	関連する 指標No.	R4年度事務事業の事後評価	
	事業名		評価	評価理由
1	(100584)	1~5	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●外部の専門人材の登用により、妙高ツーリズムマネジメントを主体とした域内観光消費額の増加及び観光地域づくり団体の自主財源化に向けた事業のコーディネート支援を実施し、機能強化を図った。</li> <li>●妙高ツーリズムマネジメントと連携し、SNSの活用による誘客プロモーションやインバウンドが周遊しやすい環境整備、観光消費額の増加に向けた取り組みを計画的に進める必要がある。</li> </ul>
	観光地域づくり団体支援事業			R4予算額(千円)   46,458   R4決算額(千円)   39,343
2	(180330)	7, 8	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●いもり池遊歩道のウッドデッキ補修工事を実施し、観光客の安全確保と自然景観の保全を図った。また、ソーラーパネルと大容量バッテリーの整備により、高谷池ヒュッテの給排水設備への必要な電力を確保した。</li> <li>●高谷池周辺の環境負荷軽減に向けて、再生可能エネルギーの活用などを視野に雨水利用による水源確保や電源確保に取り組む必要がある。</li> </ul>
	観光施設整備事業			R4予算額(千円)   13,024   R4決算額(千円)   2,871
3	(100587)	1,2,5,6	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コロナ禍により中止となっていたスポーツイベントが再開したことで、アウトドアメーカーとの協働による誘客・宣伝を行った。また、青山学院大学との連携の一環として「限定モデルの磁気ネックレス」を作成し、クラウドファンディングの返礼品や市民限定での販売を行うことで、シティープロモーションの推進を図った。</li> <li>●増加傾向にあるインバウンド需要を確実に取り込むため、インバウンド向けの誘客支援を強化する必要がある。</li> </ul>
	観光誘客推進事業			R4予算額(千円)   98,489   R4決算額(千円)   66,050

4 施策評価		
区分	選択区分	評価理由
A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>●外部専門人材を登用し、妙高ツーリズムマネジメントを主体とした域内観光消費額の増加等に向けた事業のコーディネート支援を実施した結果、観光売上額や域内循環額は大きく回復した。</li> <li>●コロナ禍により中止となっていたアウトドアメーカーとの協働によるスポーツイベントや青山学院大学と連携した認知度向上の取組により、一定のプロモーション効果が得られた。</li> </ul>

5 今後の方向性		
区分	選択区分	今後の方向性
庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	II	<ul style="list-style-type: none"> <li>●妙高ツーリズムマネジメントが、自身の会員と目指すべき方向性について共通認識を持ったうえで、マーケティングデータに基づく主体的な取組を進めることができる体制を早期につくること。</li> <li>●新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、妙高ツーリズムマネジメントが中心となり、観光資源の発展・磨き上げを行うとともに、広域連携による通年観光を推進し、観光入込客数と観光消費額、域内循環額の増加を図ること。</li> <li>●増加傾向にあるインバウンド需要を確実に取り込むため、広域連携により魅力的な観光地域をつくることともに、誘客プロモーションを強化すること。</li> </ul>
審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了		

# 令和4年度施策評価(第3次総合計画)

1 施策の概要	
まちづくりの大綱	3 にぎわいと交流を生みだすまちづくり
基本施策	2 活力ある地域経済づくり【産業振興】
関係課	観光商工課、農林課、企画政策課
主要施策	1 商工業の振興と中心市街地の賑わいの創出 2 安定して働きやすい雇用の創出 3 持続可能な農業の振興



R4予算額(千円)	496,651	R4決算額(千円)	315,942
-----------	---------	-----------	---------

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。

2 施策目標の達成状況									
指標名		単位	現況値	目標値	目標値の根拠	区分	R3年度	R4年度	目標達成率が70%未満の要因等
1	市内事業所数	事業所	957 (H30)	887 (R4)	予測される減少の抑制を目標とする(Δ12%→Δ10%)	実績値	967	960	
	指標の説明		市内の事業所数(予想される減少を抑制)	↓		目標達成率	107.3%	108.2%	
2	企業の立地・業務拡張等数	件	42 (H30)	57 (R4)	年間5件の増を目標とする	実績値	47	47	
	指標の説明		企業振興奨励条例等に基づく固定資産税免除・賃借料補助金指定件数(平成27年度からの累計)	↑		目標達成率	90.4%	82.5%	
3	賑わいづくりのイベント・朝市入込数	人	169,459 (H30)	174,800 (R4)	毎年約1%(1,600人)の増を目標とする	実績値	117,690	130,200	
	指標の説明		商工会議所・各商工会等が主体となるイベントと朝市の入込数	↑		目標達成率	68.0%	74.5%	
4	企業の雇用創出数	人	75 (H30)	94 (R4)	年間6人の増を目標とする	実績値	147	147	
	指標の説明		企業振興奨励条例等における新規雇用創出数(平成27年度からの累計)	↑		目標達成率	167.0%	156.4%	
5	地元就職率	%	73.9 (H30)	80 (R4)	80%以上を目標とする	実績値	75.4	83.8	
	指標の説明		就職した高校生のうち妙高市、上越市の事業所に就職した割合	↑		目標達成率	94.3%	104.8%	
6	市内での新規起業数	件	25 (H30)	34 (R4)	年間3件の増を目標とする	実績値	37	45	
	指標の説明		市の補助制度を活用し、新たに起業した事業所の数(平成27年度からの累計)	↑		目標達成率	119.4%	132.4%	
7	コーディネート組織を通じた市内企業と都市部のビジネスマッチング件数	件	0 (H30)	15 (R4)	計画期間内に20件を目標とする	実績値	15	12	
	指標の説明		コーディネート組織を通じたビジネスマッチングの件数	↑		目標達成率	150.0%	80.0%	
8	主食用米の作付面積	ha	1,591 (H30)	1,570 (R4)	R2年以降は全国的な需要の減少を勘案して、面積増加の抑制(維持)を目標とする	実績値	1,596	1,527	
	指標の説明		水田フル活用ビジョンにおける主食用米の作付面積	↓		目標達成率	0.0%	304.8%	
9	経営耕地面積が20ha以上の法人の割合	%	52.9 (H30)	56 (R4)	法人の新設、統合等により20ha以上の法人数を9、全数を15と想定し目標値を設定し、経過値は規模拡大傾向を表すものとする	実績値	62.5	62.5	
	指標の説明		農地所有適格法人に占める経営耕地面積が20ha以上の法人の割合	↑		目標達成率	115.7%	111.6%	

3 施策を構成する主な事業				
No.	(事業通番)	関連する 指標No.	R4年度事務事業の事後評価	
	事業名		評価	評価理由
1	(94195)	1,3	拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業所の規模や業種、成長段階にあわせた「がんばる企業応援補助金」等により、販路開拓や海外需要の取り込みなど中小企業の新たな取組を支援した。</li> <li>●コロナ禍後の地域経済の活性化に向け、商工業者の経営基盤の強化や魅力向上支援のほか、地域内消費の促進・喚起に繋がる取組を継続する必要がある。</li> </ul>
	地域経済活性化支援事業 (繰越分を含む)			R4予算額(千円)   237,741   R4決算額(千円)   130,807
2	(120935)	2,4,6	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●企業振興奨励条例に基づく課税免除17件、中小企業向けの支援策である夢をかなえる企業応援補助金21件の利用があり、新規創業と空き店舗の有効活用等に繋がった。</li> <li>●引き続き固定資産税課税免除や補助金交付等により、企業誘致や既存企業の業務拡張を促進するために必要な優遇措置を講じ、産業振興や雇用機会の拡充を図る必要がある。</li> </ul>
	企業立地促進事業 (繰越分を含む)			R4予算額(千円)   72,038   R4決算額(千円)   25,250
3	(120240)	5	拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域人材育成支援助成制度は、市報を活用した周知に努めた結果24件の申請があり、多くの市民のスキルアップ等を支援することができた。ジョブウォッチングでは新井高校生6名の参加があり、市内企業を知ってもらう機会となった。</li> <li>●有効求人倍率が未だに高い状況が続いていること、また、市内事業所実態調査の結果、人手不足を感じている事業所が半数近くいることから、就労人材の育成支援や関係機関と連携したジョブウォッチングの就労事業を拡大する必要がある。</li> </ul>
	就労支援事業			R4予算額(千円)   1,933   R4決算額(千円)   658
4	(102545)	7	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●テレワーク研修交流施設がオープンし、首都圏等から多くの方に利用していただいたほか、SDGsを切り口としたワーケーション等を実施することで関係人口の創出につなげることができた。</li> <li>●首都圏企業、市民との交流促進を図り、地域課題の解決につながる関係人口の創出・拡大を進める必要がある。</li> </ul>
	関係人口創出・拡大事業			R4予算額(千円)   139,418   R4決算額(千円)   125,737
5	(110030)	8	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全国的に米の消費量が減少する中、妙高市農業再生協議会を主体として、需要に応じた米生産に向けた取組みを進めた結果、令和4年産の主食用米作付面積は、前年から69ha減少し1,527haとなった。</li> <li>●水田活用の交付金の減少が見込まれることから、従来の非主食用米に加え、生産物収入が見込める園芸作物等への転換を農業者が検討できるよう、引き続き米の需給情報や交付金等について、情報提供する必要がある。</li> </ul>
	水田農業経営安定対策事業			R4予算額(千円)   30,047   R4決算額(千円)   25,116
6	(110050)	9	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●農業次世代人材投資事業の経営開始資金により、新規就農者へ資金面の支援を実施した。また、「実質化された人・農地プラン」の策定地域である和田地区(柳井田)に対して、農地中間管理機構集積協力金事業の地域集積協力金を交付した。</li> <li>●高齢により担い手が減少傾向にあることから、新たな担い手の確保に努める必要がある。</li> </ul>
	担い手確保支援事業			R4予算額(千円)   10,964   R4決算額(千円)   4,060
7	(91581)	-	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●加工用ブドウの栽培について、約4.5tの収量を確保でき、出荷したブドウを活用し1,200本のワインを醸造することができた。</li> <li>●加工用ブドウの品質向上と収量確保のため、栽培技術の向上と栽培を行う人材の確保が必要である。</li> </ul>
	六次産業化推進事業			R4予算額(千円)   4,510   R4決算額(千円)   4,314

4 施策評価		
区分	選択区分	評価理由
A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>●夢をかなえる企業応援補助金の活用により平成27年度からの累計では、起業・創業数が45件と目標よりも多い件数で推移しており、一定の成果が上がっている。</li> <li>●ジョブウォッチングでは新井高校生6名の参加にとどまったが、市内事業所や関係機関の協力により地元就職率は約8ポイント上昇した。また、地域人材育成支援助成制度に24件の申請があり、就労に必要なスキルアップを支援することができた。</li> <li>●テレワーク研修交流施設をオープンし、首都圏等を中心とした企業や個人ワーカーの利用を促進するとともに、SDGsを切り口としたワーケーション等を実施することで関係人口の創出・拡大に一定の成果が得られた。</li> <li>●全国的に米の消費量が減少する中、妙高市農業再生協議会を主体として、需要に応じた米生産に向けた取組を進めた結果、令和4年産の主食用米作付面積は、前年から69ha減少し1,527haとなった。</li> <li>●約4.5tの加工用ブドウの収量を確保し、出荷したブドウを活用して1,200本のワインを醸造することができた。</li> </ul>

5 今後の方向性		
区分	選択区分	今後の方向性
庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	I	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市内事業者の販路開拓や創業、生産性向上などの取組を支援し、空き家や空き店舗を活用した民間の取組とも連携して地域産業の振興を図ること。</li> <li>●市内事業者の人手不足解消に向け、市内事業者の魅力向上と情報発信を強化するとともに、「特定地域づくり事業協同組合」の運営を支援すること。</li> <li>●テレワーク研修交流施設を拠点として、首都圏企業、市内事業者、市民との交流促進を図り、地域課題の解決につながる関係人口の創出・拡大を進めること。</li> <li>●スマート農業の普及等による農作業の効率化・省力化の推進や米の転作に向けて新たに園芸などの生産拡大に取り組む農業者の支援を充実すること。</li> <li>●加工用ブドウの品質向上と収量確保のため、栽培技術の向上と作付面積の拡大に向けた担い手の確保及び育成を強化すること。</li> </ul>
審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了		

# 令和4年度施策評価(第3次総合計画)

1 施策の概要			
まちづくりの大綱	4	全ての人が元気に活躍できるまちづくり	
基本施策	1	市民主体の健康づくり【健康・医療】	
関係課	健康保険課		
主要施策	1 健康づくりの推進 2 地域医療体制の確保		



R4予算額(千円)	427,714	R4決算額(千円)	364,581
-----------	---------	-----------	---------

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。  
※指標3は目標達成率がマイナスとなるため、0%と表記しています。

2 施策目標の達成状況									
指標名		単位	現況値	目標値	目標値の根拠	区分	R3年度	R4年度	目標達成率が70%未満の要因等
1	健康寿命と平均寿命の差	歳	男性1.8歳 女性3.7歳	男性1.8歳 女性3.7歳	現況値よりも差を減少させる	実績値	男性1.7歳 女性3.4歳	男性1.0歳 女性3.4歳	【参考】 ○男性(A)79.3歳 (B)81.1歳 ○女性(A)84.1歳 (B)87.8歳
	指標の説明		市民の健康寿命(A)と平均寿命(B)の差	→		目標達成率	100.0%	100.0%	
2	生活習慣病予防のための運動習慣の定着率(65歳以上の男性)	%	43.3	52	年平均3%増を目指す	実績値	44.1	44.9	
	指標の説明		国保特定健診及び市民健診を受診した65歳以上の男性のうち、1日30分以上の運動を週2回以上実施し1年以上持続している人の割合	↗		目標達成率	90.0%	86.3%	
3	肥満者の割合(20~69歳の男性)	%	31	31	現況値よりも差を減少させる	実績値	31.3	31.7	
	指標の説明		国保特定健診及び市民健診を受診した20~69歳の男性のうちBMI25以上の者の割合	→		目標達成率	0.0%	0.0%	
4	特定健診受診率	%	58.3	60	国の市町村国保の目標値に準ずる	実績値	55.6	55	
	指標の説明		国保加入者のうち特定健診を受診した者の割合	↗		目標達成率	92.7%	92.2%	
5	特定保健指導実施率	%	61.4	64	H29年度以前に国の目標値である60%を達成している実績があることから、年1ポイント程度の伸びを目標とする	実績値	59.3	64	
	指標の説明		特定保健指導該当者のうち保健指導終了者の割合	↗		目標達成率	94.1%	100.0%	
6	市内病院数	病院	2	2	現状を維持することを目標とする	実績値	2	2	
	指標の説明		市内における病院数(けいなん総合病院、県立妙高病院)	→		目標達成率	100.0%	100.0%	
7	市内病院の常勤医師数	人	15	16	過去5年間の増減数をもとに目標値を設定	実績値	12	12	
	指標の説明		安定した診療体制維持のためのけいなん総合病院及び県立妙高病院における常勤医師数(研修医除く)	↗		目標達成率	80.0%	75.0%	
8	市内病院の診療科目数	科目	13	13	現況値以上を目標とする	実績値	14	14	
	指標の説明		けいなん総合病院・県立妙高病院で開設されている外来診療科目とリハビリテーション科の合計	→		目標達成率	107.7%	107.7%	
9	救急医療を担う病院の数(第二次救急医療体制)	病院	7	7	医師の負担増大を防ぎ、安定して体制継続させるため現状維持を目標とする	実績値	7	7	
	指標の説明		妙高市・上越市において救急医療を輪番制で担う病院の数	→		目標達成率	100.0%	100.0%	

3 施策を構成する主な事業					
No.	(事業通番)	関連する 指標No.	R4年度事務事業の事後評価		
	事業名		評価	評価理由	
1	(91415)	1,2,3	維持	<p>●食生活改善推進委員の育成研修会は計画通り実施し、会員自身が知識を習得することができたが、委員による地域活動は、町内会の活動自粛の意向もあり、活動回数は縮小となった。ウォーキングの推進は、関係課と連携し、クアオルトウォーキング講座やイベントを実施した。</p> <p>●健康づくり推進協議会を開催し、意見を聴取することで、健康づくり施策を見直し、関係課と連携した毎週ウォーキングの実施や県健康アプリの活用など、コロナ禍でも市民が実践できる健康づくりを推進した。</p> <p>●町内会の状況を見ながら、各種活動を拡大できるよう支援を行う必要がある。また、R5年度の各種計画の改定に向け、健康づくり推進協議会委員へ市の健康実態や施策の実施状況をわかりやすく伝え、市民の主体的な健康づくりの実現につながる意見がもらえるよう、準備を進める必要がある。</p>	
	R4予算額(千円)				
2	(71850)	4,5	維持	<p>●新型コロナウイルス対策を講じて各種健(検)診、健診結果説明会を実施することができ、大腸がん検診、肺がん検診においては、受診率が増加した。また、特定保健指導実施率は64%となり、昨年の59.3%を上回った。</p> <p>●健(検)診受診率は、コロナ禍以前の水準には戻っていないため、引き続き、健診受診率の向上のため、受診しやすい環境づくりと個別受診勧奨等により健(検)診への関心を高めていく必要がある。また、糖尿病性腎症重症化予防プログラム等に基づく継続した支援を行うことで、生活習慣の改善や医療機関受診に繋げていく必要がある。</p>	
	R4予算額(千円)				
3	(71770)	6,7,8,9	維持	<p>●寄附講座の継続設置(R4～R6)を通じて、新潟大学消化器内科医局との関係がさらに強化され、常勤の消化器内科医師1名をR4年4月に厚生連けいなん総合病院へ招致することができた。また、R4年4月から1名に医師養成修学資金の貸与を開始し、将来の医師確保につなげることができた。</p> <p>●市内医療機関の医師確保は、まだ十分とは言えないことから、引き続き地域医療体制の確保のため、医師確保対策を進めるとともに、医師養成修学資金についても、関係先への制度PRに努め、修学生の確保を図っていく必要がある。</p>	
	R4予算額(千円)				
4	(71730)	—	—	(経常経費のため事後評価対象外)	
	R4予算額(千円)			2,710	R4決算額(千円)
5	(71930)	—	—	(経常経費のため事後評価対象外)	
	R4予算額(千円)			130,676	R4決算額(千円)

4 施策評価		
区分	選択区分	評価理由
A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関係課と連携し、クアオルトウォーキング講座やイベントを実施した。また、健康づくり推進協議会を開催し、意見を聴取することで、健康づくり施策を見直し、関係課と連携した毎週ウォーキングの実施や県健康アプリの活用など、コロナ禍でも市民が実践できる健康づくりを推進した。</li> <li>●新型コロナウイルス対策を講じて各種健(検)診、健診結果説明会を実施することができ、大腸がん検診、肺がん検診においては、受診率が増加した。また、特定保健指導実施率は64%となり、昨年(2020年)の59.3%を上回った。</li> <li>●寄附講座の継続設置を通じて、消化器系疾患の予防事業に関する研究・啓発など健康増進に取り組んだほか、厚生連けいなん総合病院へ常勤の消化器内科医師を招致することができた。また、R4年4月から1名に医師養成修学資金の貸与を開始し、将来の医師確保につなげることができた。</li> </ul>

5 今後の方向性		
区分	選択区分	今後の方向性
庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	III	<ul style="list-style-type: none"> <li>●健康づくりリーダーや食生活改善推進委員と連携し、市民が主体となった運動習慣の定着とバランスのとれた食生活の実践につながる取組を推進すること。</li> <li>●受診しやすい環境づくりと個別受診勧奨等により健(検)診受診率をコロナ禍以前の水準に戻し、生活習慣病の発症と重症化を予防するとともに、疾病の早期発見、早期治療につなげること。</li> <li>●診療所開設支援補助金制度や医師養成修学資金制度の周知を継続し、市内医療機関における短期的・長期的の両面での医師確保に努めていくこと。</li> <li>●県立妙高病院を存続するための取組を進めていくこと。</li> </ul>
審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了		

# 令和4年度施策評価(第3次総合計画)

1 施策の概要	
まちづくりの大綱	4 全ての人々が元気に活躍できるまちづくり
基本施策	2 全てを支える地域福祉づくり【福祉介護】
関係課	福祉介護課
主要施策	1 介護予防・高齢者福祉の充実 2 障がい者福祉の充実 3 生活困窮者等の自立支援
	   
	R4予算額(千円) 180,766   R4決算額(千円) 155,812

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。

2 施策目標の達成状況		単位	現況値	目標値	目標値の根拠	区分	R3年度	R4年度	目標達成率が70%未満の要因等
1	要介護認定率	%	20.1 (H30)	21.3 (R4)	R7年度22.8%の将来推計であるため、これを下回ることを目指す	実績値	19.5	19.0	
	指標の説明		65歳以上人口における要介護認定者数の割合(予測される増加を抑制)	↓		目標達成率	107.7%	112.1%	
2	訪問型サービス・通所型サービス利用者の改善・維持率	%	97.5 (H30)	97.5 (R4)	現況値以上を目標とする	実績値	95.2	93.2	
	指標の説明		訪問型サービス・通所型サービス利用者のうち状態が改善・維持している人の割合	→		目標達成率	97.6%	95.6%	
3	地域の茶の間実施数	地区	32 (H30)	36 (R4)	毎年度1地区ずつの増加を目指す	実績値	35	22	新型コロナウイルス感染症の影響で休止した茶の間が多い。また、参加者の高齢化に伴い解散した茶の間も見られるため。
	指標の説明		月2回以上開催している地域の茶の間の実施箇所数	↗		目標達成率	100.0%	61.1%	
4	生活支援ボランティアの登録支援者数	人	55 (H30)	70 (R4)	毎年5人ずつの増加を目指す	実績値	61	70	
	指標の説明		社会福祉協議会において生活支援サービスを提供する有償ボランティア数	↗		目標達成率	93.8%	100.0%	
5	障がい者のサービス利用割合	%	21.5 (H30)	25 (R3)	手帳保持者数は人口ピジョンの将来推定人口を基に1,805に設定 サービス等利用計画作成件数は障がい福祉計画に定めた目標値472を上回る480に設定	実績値	23.8	23.2	
	指標の説明		手帳保持者のうちサービス等利用計画を作成した人数の割合	↗		目標達成率	98.3%	92.8%	
6	手話奉仕員の人数	人	3 (H30)	4 (R4)	現況値から2人増を目標とする	実績値	4	4	
	指標の説明		妙高市手話奉仕員認定者数	↗		目標達成率	100.0%	100.0%	
7	市内就労支援施設利用者の工賃月額	円	16,245 (H30)	18,080 (R4)	年間約460円増を目標とする ※新潟県工賃向上計画に示す目標値	実績値	13,768	15,940	
	指標の説明		就労継続支援B型利用者の作業工賃月額平均	↗		目標達成率	78.1%	88.2%	
8	就労支援による被保護者の就労者数の割合	%	56 (H30)	72 (R4)	就労者を前年度比1名増とすることを目標とする	実績値	44	38.9	就労経験が少ないことや希望に合わないことなどの理由から、継続した就労に繋がらなかったため。
	指標の説明		支援対象者に対する就労者数の割合(年度末現在)	↗		目標達成率	64.7%	54.0%	
9	就労支援による保護廃止件数	件	1 (H30)	2 (R4)	現況値よりも1~2件増を目標とする	実績値	0	0	就労経験が少ないことや希望に合わないことなどの理由から、継続した就労に繋がらなかったため。
	指標の説明		就労支援による就労をきっかけとした保護廃止件数	↗		目標達成率	0.0%	0.0%	
10	支援プラン作成件数に対する就労者数の割合	%	50 (H30)	67 (R4)	前年度比2名程度増を目標とする(就労者数)	実績値	50	34.6	相談者の希望に沿った就労先を見つけることが難しいため。
	指標の説明		生活困窮者等自立支援事業における支援プラン作成件数に対する就労者数の割合	↗		目標達成率	80.6%	51.6%	

### 3 施策を構成する主な事業

No.	(事業通番)	関連する 指標No.	R4年度事務事業の事後評価			
	事業名		評価	評価理由		
1	(96480)	1,2	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●介護予防の拠点となる、通所型サービスC(筋力向上型・短期集中型)については、利用前後の体力測定結果比較において、改善率が非常に高く、介護予防に対する効果があった。また、効果的な介護予防に資するケアプラン点検を行い、要介護認定率についても低下傾向に繋がった。R4年度から移動支援サービスを行い、教室卒業後においても介護予防を継続してもらえるよう努めた。</li> <li>●介護予防利用者の増加を図るため、各機関訪問・通所リハビリ、短期集中型サービス、民間運動施設、地域の茶の間の連携による循環の仕組みを構築する必要がある。</li> </ul>		
	介護予防・生活支援サービス事業			R4予算額(千円)	97,010	R4決算額(千円)
2	(96483)	1,3	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●R3年度・R4年度介護予防健康調査対象者のうち、閉じこもり該当者を対象に訪問を実施し、個々の生活状況や身体状況の把握、教室勧奨に繋げることができた。</li> <li>●地域の茶の間について、参加者の高齢化や主催側の人材不足により、活動が縮小しているため、主催者との対話や専門職の派遣による出前講座等の働きかけにより、再開に向けた取組を行う必要がある。</li> </ul>		
	一般介護予防事業			R4予算額(千円)	6,886	R4決算額(千円)
3	(70090)	4	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高齢者や障がい者への見守り支援、災害ボランティアの研修、生活支援ボランティアや相談支援等、社会福祉協議会への助成を通じ、地域福祉の向上に繋げることができた。</li> <li>●定年後の働き方の変化、趣味活動の充実等高齢者の生活様式や考え方が多様化しており、見守り支援の新規利用者やボランティア支援者の確保について検討していく必要がある。</li> </ul>		
	社会福祉協議会助成事業			R4予算額(千円)	39,420	R4決算額(千円)
4	(71062)	5	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●面談等により障がい者等の安否確認や不安解消に努めた。また、地域活動支援センターの余暇活動においては、感染予防対策を徹底しながらプログラムを実施した。</li> <li>●2年ぶりに、「こころのままのアート展」を開催し、作品の展示だけでなく、新井高校社会科クラブと連携した取組を実施する中で、障がい者への理解促進が図られた。</li> <li>●成人・児童ともに福祉サービスの利用希望者が増え続けているため、障がい者相談室相談員が事業所見学へ同行するなど幅広い対応が必要である。</li> </ul>		
	障がい者相談支援事業			R4予算額(千円)	15,411	R4決算額(千円)
5	(71060)	6,7	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●相談支援専門員や受け皿となる事業所と連携を図りながら、居住支援の場や体制等の機能充実に取り組んだ。また、手話奉仕員養成講座を実施し、受講者が前年より12人増加したほか、市職員への手話講座を実施するなど手話言語への理解・普及に努めた。</li> <li>●障がい者の工賃アップに向けて、先進地事例などの情報収集し、就労支援事業所と情報を共有しながら、検討していく必要がある。</li> </ul>		
	障がい者日常生活支援事業			R4予算額(千円)	15,350	R4決算額(千円)
6	(71580)	8,9	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●相談業務が効果的に作用し、就労支援対象者18人のうち、8人の就労につながった。</li> <li>●就労者を長期継続させることや、対象者のうち未就労者の早期就労に向けた支援が必要である。</li> </ul>		
	被保護者就労支援事業			R4予算額(千円)	1,400	R4決算額(千円)
7	(93801)	10	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新規で24人の相談を受け付けたほか、必要な方には支援プランの作成を行った。ひきこもり支援の検討に向け、先進地である十日町市の状況の視察を行った。</li> <li>●生活困窮相談支援員が相談者の悩みに寄り添い、個々の状況に応じた支援を継続していく必要がある。また、ひきこもり支援を行おうとしている市内団体と連携し、支援策を検討していく。</li> </ul>		
	生活困窮者自立支援事業			R4予算額(千円)	5,289	R4決算額(千円)

4 施策評価		
区分	選択区分	評価理由
A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>●介護予防における通所型サービスC(筋力向上型・短期集中型)の実施やケアプラン点検により、要介護認定率が低下した。また、R4年度から移動支援サービスを行い、教室卒業後においても介護予防を継続してもらえよう努めた。</li> <li>●面談等により障がい者等の安否確認や不安解消に努めた。また、2年ぶりに、「こころのままのアート展」を開催し、作品の展示のほか、新井高校社会科クラブと連携した取組を実施する中で、障がい者への理解促進が図られた。</li> <li>●障がい者相談支援専門員や受け皿となる事業所と連携を図りながら、居住支援の場や体制等の機能充実に取り組んだ。</li> <li>●被保護者への就労支援について、相談業務が効果的に作用し、就労支援対象者18人のうち、8人の就労につながった。</li> </ul>

5 今後の方向性		
区分	選択区分	今後の方向性
庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	II	<ul style="list-style-type: none"> <li>●介護予防利用者の増加を図るため、各機関訪問・通所リハビリ、短期集中型サービス、民間運動施設、地域の茶の間との連携による循環の仕組みを構築すること。</li> <li>●高齢者の運動習慣の定着やeスポーツの普及などにより、介護予防の取組強化を図っていくこと。</li> <li>●障がい者の工賃アップに向けて、就労支援事業所とともに関係各所を訪問し、受注拡大を図ること。</li> <li>●生活困窮者の悩みに寄り添い、個々の状況に応じた支援を継続していくこと。また、ひきこもりの把握に努め、課題に応じた支援を継続していくこと。</li> </ul>
審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了		

# 令和4年度施策評価(第3次総合計画)

1 施策の概要			
まちづくりの大綱	4	全ての人々が元気に活躍できるまちづくり	
基本施策	3	住民主体の地域づくり【地域づくり】	
関係課	地域共生課		
主要施策	1 地域コミュニティの維持・再生 2 移住・定住による地域の維持		
  			
R4予算額(千円)		119,904	R4決算額(千円) 94,519

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。

2 施策目標の達成状況									
指標名		単位	現況値	目標値	目標値の根拠	区分	R3年度	R4年度	目標達成率が70%未満の要因等
1	地域運営組織の設立・運営数	組織	4	10	毎年2組織の設立を目標とする	実績値	4	4	地域づくりの専門家などを入れながら組織化を進めているが、地域が主体となった組織化には時間を要するため。
	指標の説明		地域住民が中心となって地域の課題解決に向けた取組を始めた組織数	↑					
2	全住民アンケート等、地域の課題把握を行った地区数	地区	3	10	毎年2地区の増を目標とする	実績値	7	7	
	指標の説明		地域課題を把握するために活動した地区数	↑					
3	課題解決のための将来ビジョンを策定した地区数	地区	1	10	毎年2地区の増を目標とする	実績値	1	1	アンケート調査は、地域の将来を考えるきっかけであり、結果を踏まえて、将来の地域づくりの方向性を共有する必要があるが、ビジョン策定までは至っていないため。
	指標の説明		課題解決に向け、今後の方向性を明確にした地区数	↑					
4	地域づくりコーディネーターの数	人	3	15	53の地域づくり協議会の半数以上にリーダーがいる状態を目指す	実績値	7	7	少子高齢化等によるコミュニティの希薄化により、地域づくりに関心を持つ人材が少なくなっているため。
	指標の説明		地域活動のリーダーであるコーディネーターの数	↑					
5	市内で活動する市民活動団体の数	法人	23	26	認可された組織化を目指し、継続的な活動につなげる	実績値	24	25	
	指標の説明		市内で活動するNPO法人数	↑					
6	移住支援窓口を通じた移住者数	人	437	870	毎年110人の移住を目標とする	実績値	842	959	
	指標の説明		住宅取得等の支援により移住した人数(H26年度からの累計)	↑					
7	移住・定住を目的とした空き家等の活用数	件	116	240	毎年30件の空き家活用を目標とする	実績値	223	253	
	指標の説明		空き家登録制度に登録された空き家が利用(売却)された件数(H21年度からの累計)	↑					

3 施策を構成する主な事業				
No.	(事業通番)	関連する 指標No.	R4年度事務事業の事後評価	
	事業名		評価	評価理由
1	(101200)	1	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●矢代地区に配置した2年目を迎える協力隊が退任することとなったが、これまでの間、地域行事で地元の食材を使った外国料理を振舞ったり、料理教室を開催するなど、地域と一緒に積極的に活動を行った。</li> <li>●協力隊制度は定住が目的ではあるが、定住するために協力隊になる人は少ない。3年間の活動の中で、地域に溶け込み、住民と一緒に活動しながら、その地域を気に入ってもらおうとともに、任期終了後の受け皿となる仕組みづくりについて検討が必要である。</li> </ul>
	地域のこし協力隊活動推進事業			R4予算額(千円)
2	(101201)	1~5	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新井南部地区に地区担当職員を配置したことで、防災訓練や災害時要援護者の台帳整備、移動窓口号の運行など、万が一に備えた体制を再構築するとともに、住民同士で安心・安全を再確認することができた。</li> <li>●地域づくりの専門家と地域運営組織づくりについて協議を進め、モデルとなる2地区(水上地区、新井南部地区)の選定を行うことができた。</li> <li>●小水力発電に関する地域役員向け勉強会の開催や地域内の発電所候補地情報の募集を行い、小水力発電の関心を高めるとともに、地域からは20か所の候補地情報の提供があった。</li> <li>●地域から寄せられた発電所候補地情報を含め、市内の候補地情報の洗い出しが必要である。また、地域が自ら事業に取り組むための意識啓発や機運の醸成が必要である。</li> </ul>
	地域づくり応援事業			R4予算額(千円)
3	(94044・96210)	6	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●転入者の減少により住宅取得等支援制度の利用件数も減少したものの、市民による制度利用件数が昨年度を上回り、40歳未満の若者の市内定住につながった。</li> <li>●UIターン促進住宅支援事業が浸透してきており、毎年約15件の申請件数となっている。</li> <li>●各種制度について、市内企業や市内の若者などに、この制度を広く周知していくことが必要である一方で、制度における市の負担が大きく、対応を検討する必要がある。</li> </ul>
	住宅取得等支援事業 UIターン促進住宅支援事業			R4予算額(千円)
4	(50406)	7	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●移住支援員を1名増員し、市公式のHPやSNSのほか、移住専門HPを活用し、情報発信の強化を図った。また、空き家バンクへの物件登録を促進し、内容が充実したことで、昨年度を上回る成約件数となった。</li> <li>●空き家の実態把握を進める中で、利活用可能な物件については、所有者等に引き続き空き家バンクへの物件登録を促していく必要がある。</li> </ul>
	妙高ふるさと暮らし応援事業			R4予算額(千円)

4 施策評価		
区分	選択区分	評価理由
A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新井南部地区に地区担当職員を配置したことで、防災訓練や災害時要援護者の台帳整備など、万が一に備えた体制を再構築するとともに、移動窓口号の運行などにより住民同士で安心・安全を再確認することができた。</li> <li>●地域づくりの専門家と地域運営組織づくりについて協議を進め、モデルとなる2地区(水上地区、新井南部地区)の選定を行うことができた。</li> <li>●地域が自らの地域資源を活用し、安定的な地域運営を確保するため、小水力発電に関する地域役員向け勉強会の開催や地域内の発電所候補地情報の募集を行い、小水力発電への関心を高めるとともに、地域からは20か所の候補地情報の提供があった。</li> <li>●住宅取得等支援制度による転入者の利用件数は減少したものの、R4年度で117人の移住者を獲得できたとともに、同制度の市民の利用件数が昨年度を上回り、40歳未満の若者の市内定住につながった。また、UIターン促進住宅支援事業が浸透してきており、毎年約15件の申請件数となっている。</li> </ul>

5 今後の方向性		
区分	選択区分	今後の方向性
庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	I	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域のこし協力隊の活動の活性化と定住に向け、協力隊OBとも連携しながら、日々の活動をサポートしていくこと。また、隊員配置の当初から、特定地域づくり事業協同組合を含め、任期終了後の受け皿となる仕組みづくりを進めること。</li> <li>●地域主体の小水力発電に関する意識啓発と機運醸成を図るとともに、可能性のある候補地を洗い出し、成功事例づくりに努めること。</li> <li>●住民が主体となった地域運営の仕組みづくりに向けて、市内の先進的な事例の横展開を図っていくこと。</li> <li>●さらなる移住・定住を促進するため、妙高市の魅力発信と住宅取得等への支援の拡充を検討するとともに、国庫補助金など財源確保に努めること。</li> </ul>
審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了		

# 令和4年度施策評価(第3次総合計画)

1 施策の概要			
まちづくりの大綱	4	全ての人が元気に活躍できるまちづくり	
基本施策	4	全ての人が平等な地域社会づくり【人権】	
関係課	市民税務課、生涯学習課、総務課、こども教育課		
主要施策	1 人権意識の向上		
   			
R4予算額(千円)		5,267	R4決算額(千円) 4,928

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。

2 施策目標の達成状況									
指標名		単位	現況値	目標値	目標値の根拠	区分	R3年度	R4年度	目標達成率が70%未満の要因等
1	人権講演会等の参加者数	人	830 (H30)	935 (R4)	現況値から毎年度約35人増を目標とする	実績値	530	660	
	指標の説明 人権講演会等の参加者数		↗			目標達成率	58.9%	70.6%	
2	審議会等への女性登用率	%	31.1 (H30)	38.3 (R4)	現況値から毎年度約1.5%増を目標とする	実績値	28.8	31.0	
	指標の説明 審議会等への女性登用率		↗			目標達成率	78.3%	80.9%	
3	いじめが解消された割合	%	100.0 (H30)	100.0 (R4)	発生したいじめの完全解消、発生抑制を目指す	実績値	80.5	72.3	
	指標の説明 学校調査によるいじめ発生件数に対する3カ月以上観察後の解消件数の割合		→			目標達成率	80.5%	72.3%	

3 施策を構成する主な事業										
No.	(事業通番)	関連する 指標No.	R4年度事務事業の事後評価							
	事業名		評価	評価理由						
1	(90082)	1	一	<ul style="list-style-type: none"> <li>●県事業を活用した講演会や子どもへの暴力防止プログラムの実施など教育現場とのタイアップによる人権教育事業に取り組み、小・中学校において児童生徒の人権に対する意識を高めた。</li> <li>●新型コロナウイルス感染者やその家族、医療従事者等への誹謗中傷等の差別根絶のため、インターネット上に誹謗中傷の書き込みが無いが定期的にネットパトロールを行った。</li> <li>●第4次妙高市人権教育・啓発基本計画の策定にあたり、LGBTQIA+等の新たな課題に関しても計画に位置づけていく必要がある。</li> </ul>			R4予算額(千円)	692	R4決算額(千円)	440
	人権啓発活動事業									
2	(30311)	2	一	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ジェンダー平等や男性の育児休業促進に向け、市報、ホームページを活用して情報発信のほか、講演会等を実施し男女共同参画に対する理解の促進を図った。</li> <li>●審議会等への女性登用率をはじめ男女の社会参画を実現するため、誰一人取り残さないというSDGsの理念のもと、ゴールの一つであるジェンダー平等の実現に向けて、より多くの女性が活躍できる環境づくりが必要である。</li> </ul>			R4予算額(千円)	202	R4決算額(千円)	141
	男女共同参画推進事業									
3	(150090)	3	見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スクールロイヤーによる教職員向けのいじめ防止講演会を実施するなど、いじめ防止の指導方法等の知識習得を図った。</li> <li>●スクールソーシャルワーカーが関わる児童生徒への支援が長期化し、現在の勤務時間では対応が困難となっている。また、不登校事案への対応に時間を要し、いじめや虐待などの問題への対応ができていないため、令和5年度から週3日勤務から週5日勤務に拡大することで解決を図る。</li> </ul>			R4予算額(千円)	4,373	R4決算額(千円)	4,347
	いじめ・不登校対策推進事業									

4 施策評価		
区分	選択区分	評価理由
A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>●県事業を活用した講演会や子どもへの暴力防止プログラムの実施など教育現場とのタイアップによる人権教育事業に取り組み、小・中学校において児童生徒の人権に対する意識を高めたほか、コロナ禍における誹謗中傷等の差別根絶のためインターネットパトロールを行った。</li> <li>●ジェンダー平等や男性の育児休業促進に向け、市報、ホームページを活用して情報発信のほか、講演会等を実施し男女共同参画に対する理解の促進を図った。</li> <li>●スクールロイヤーによる教職員向けのいじめ防止講演会を実施するなど、いじめ防止の指導方法等の知識習得を図った。</li> </ul>

5 今後の方向性		
区分	選択区分	今後の方向性
庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	I	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人権問題が複雑・多様化しており、第4次妙高市人権教育・啓発基本計画の策定にあたっては、LGBTQIA+等の新たな課題に関しても計画に位置づけていくこと。</li> <li>●パートナーシップ制度(事実婚を含む)の創設に向けて、準備を進めること。</li> <li>●誰一人取り残さないというSDGsの理念のもと、女性の社会参加と地位向上を含め、全ての人が自身の能力を最大限発揮できる環境づくりに努めること。</li> <li>●スクールソーシャルワーカーとの連携により、いじめ防止に対する意識を高め、いじめ解消率の向上に努めること。</li> <li>●これまでの取組を評価・検証し、その結果を活かした施策に改善していくこと。</li> </ul>
審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了		

# 令和4年度施策評価(第3次総合計画)

1 施策の概要	
まちづくりの大綱	5 郷土を築く人と文化を育むまちづくり
基本施策	1 安心して子どもを育てられる環境づくり【子育て】
関係課	地域共生課、健康保険課、こども教育課
主要施策	1 結婚・出産・子育て支援の充実 2 幼児の教育・保育環境の充実
R4予算額(千円)	1,017,160
R4決算額(千円)	904,793

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。  
 ※指標9は目標達成率がマイナスとなるため、0%と表記しています。

2 施策目標の達成状況								
指標名	単位	現況値	目標値	目標値の根拠	区分	R3年度	R4年度	目標達成率が70%未満の要因等
1 市の事業を通じての成婚数	組	—	12	年間4組の成婚数を目標とする	実績値	8	13	
		(H30)	(R4)		目標達成率	100.0%	108.3%	
指標の説明	マッチング支援等の市の事業を利用したかたの成婚数	↗						
2 安心して妊娠・出産を迎えられる妊婦の割合	%	—	100	出産した妊婦全員が安心してという結果を目指す	実績値	86.1	86.4	
		(H30)	(R4)		目標達成率	86.1%	86.4%	
指標の説明	出生届出時のアンケートによる回答の割合	↗						
3 ファミリー・サポート・センターのサービス提供会員数	人	165	188	毎年度約4%の増加を目指す	実績値	179	186	
		(H30)	(R4)		目標達成率	98.4%	98.9%	
指標の説明	ファミリー・サポート・センターのサービスを提供できる会員数	↗						
4 虐待案件の解決数	%	13	17	現況値から毎年度約1%増を目標とする	実績値	24	32	
		(H30)	(R4)		目標達成率	150.0%	188.2%	
指標の説明	要保護児童対策地域協議会の虐待案件の解決数	↗						
5 園運営に満足している保護者の割合	%	96.8	100	保護者全員の満足を目指す	実績値	97.8	95.7	
		(H30)	(R4)		目標達成率	97.8%	95.7%	
指標の説明	保護者アンケートにおける回答の割合	↗						
6 園舎整備率	%	70	100	R6までの幼稚園・保育園整備構想に基づく新設の統合園を3園とすることを目標とする	実績値	70	100	
		(H30)	(R4)		目標達成率	100.0%	100.0%	
指標の説明	幼稚園・保育園整備構想に基づく園舎整備率	↗						
7 待機児童の発生人数	人	0	0	待機児童を発生させないことを目指す(0人を維持する)	実績値	0	0	
		(H30)	(R4)		目標達成率	100.0%	100.0%	
指標の説明	待機児童の発生人数	→						
8 標準的な体格の園児の割合	%	94.9	96	現況値から毎年度約0.5%増を目標とする	実績値	93.9	93.1	
		(H30)	(R4)		目標達成率	98.3%	97.0%	
指標の説明	肥満度-15%~+15%の園児の割合	↗						
9 朝食の欠食率	%	1	1	現況値以下を目標とする	実績値	1.7	1.8	「家族が食べない家庭が多いこと」や「夜に食べ過ぎてしまう子」という児童が多いため。
		(H30)	(R4)		目標達成率	0.0%	0.0%	
指標の説明	3~5歳児の朝食の欠食率	→						

3 施策を構成する主な事業						
No.	(事業通番)	関連する 指標No.	R4年度事務事業の事後評価			
	事業名		評価	評価理由		
1	(90084)	1	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●女性限定のイベントの実施などにより、徐々にではあるが女性会員の増加につながっている。</li> <li>●これまでのイベントやマッチング通信の効果もあり、事業開始以来最高の5組の成婚に繋がった。</li> <li>●会員数や成婚数は増加傾向にあるが、今後は参加者のエリアを拡大し近隣市との連携や共同開催など、より効果的な婚活イベントの実施も必要である。</li> </ul>		
	妙高出会いサポート事業			R4予算額(千円)	1,580	R4決算額(千円)
2	(71271)	4	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●臨床心理士や家庭児童支援専門員、保健師等が状況に応じてSNS等を利用しながら丁寧に対象者に関わることで、子育てに関する悩みの解消や軽減に繋がった。</li> <li>●虐待の早期発見や予防に向け、すべての妊産婦と子ども、保護者を支援するため「子育て世代包括支援センター」と連携した「こども家庭センター」の設置を進める必要がある。</li> </ul>		
	子どもの家庭総合支援拠点運営事業 (旧:家庭児童相談・子どもの虐待防止事業)			R4予算額(千円)	98,159	R4決算額(千円)
3	(71282)	2,3	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子育て不安の早期解消するプログラムや子育て広場やファミリー・サポート・センター事業を通して、子育ての悩み解消、保護者同士の交流に繋がった。</li> <li>●ファミリー・サポート・センター事業については、利用者が固定化しており、新たな利用者が増加していないことから、1歳児家庭訪問や健診時など、保護者と接する機会に保護者のニーズに応じた情報提供することで、利用者の拡充を図る必要がある。</li> </ul>		
	みんなで子育て応援事業			R4予算額(千円)	11,660	R4決算額(千円)
4	(96865)	5,7 8,9	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保育支援システムの導入により、保護者及び保育士の負担軽減・利便性向上(園だより等のペーパーレス化含む)につながった。</li> <li>●未満児の増加や多様な働き方に対応するため、有資格保育士、調理員の確保や人材育成に取り組むことにより質の高い保育サービスを提供することができた。</li> <li>●子どもたち対象の食育推進教室の実施や給食だよりに食育推進に係る情報を発信するなど子どもたちの食育推進に繋がった。(各年齢・全園実施)</li> <li>●和田にじいるこども園敷地への園舎増設について、客観的なデータに基づいて費用対効果を考慮し、実施の可否を決定する必要がある。</li> <li>●コロナ禍により3歳児の保護者が食育推進教室に参加できていないことから次年度以降保護者も参加できるようにする必要がある。</li> </ul>		
	認定こども園・保育園運営事業			R4予算額(千円)	601,050	R4決算額(千円)
5	(96868)	6	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●遊休施設の解体・撤去による地域の環境美化や将来的な維持管理コストの削減を図った。</li> <li>●老朽化が進んでいる園に対する対策工事や乳児を含む未満児の増加による施設機能の確保が必要である。</li> </ul>		
	認定こども園・保育園園舎等整備事業			R4予算額(千円)	217,831	R4決算額(千円)
6	(71970)	2	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国や他市町村の動向や妊産婦の声を聞きながら、不妊治療費用助成の制度の見直しや産後ケア事業等次年度開始に向けた各関係機関との調整を行い、安心して出産できる環境づくりにつながった。</li> <li>●伴走型相談支援及び出産・子育て応援給付金の一体的実施事業の実施によって、妊娠中からの支援を強化することができた。</li> <li>●今後も妊産婦の健康確保と安心して出産できる環境を提供していく必要がある。また、令和4年度の出生数は118人と前年比8人の減と少子化に歯止めがかけられていないことから、安心して子どもを産み育てることができる環境の充実を図る必要がある。</li> </ul>		
	すくすく親子健康づくり事業			R4予算額(千円)	86,880	R4決算額(千円)

4 施策評価		
区分	選択区分	評価理由
A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>●独身者のニーズをとらえた出会いの機会を提供したことにより、事業開始以来最高の5組の成婚につながった。</li> <li>●臨床心理士や家庭児童支援専門員、保健師等が状況に応じてSNS等を利用しながら丁寧に関わることで、子育てに関する悩みの解消や軽減につながった。</li> <li>●子育て不安の早期解消するプログラムや子育て広場やファミリー・サポート・センター事業を通して、子育てに悩む親の悩み解消や、保護者同士の交流につながった。</li> <li>●保育支援システム導入により、保護者及び保育士の負担軽減・利便性向上(園だより等のペーパーレス化含む)を実現した。</li> <li>●相談支援や助成制度の見直しなどにより妊産婦全員や不妊等に悩む夫婦等が安心して出産・産後を迎えられるような環境を整えた。</li> </ul>

5 今後の方向性		
区分	選択区分	今後の方向性
庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	I	<ul style="list-style-type: none"> <li>●少子化に歯止めがかけられていないことから、結婚、妊娠、出産、子育てを安心して行うことができるための支援を国・県の動向と合わせて充実するとともに必要な環境を整備すること。</li> <li>●全ての妊産婦、子育て世帯、子供へ切れ目のない支援を実施するために、虐待や貧困など問題を抱えた子どもや保護者を含めた子育て世帯を包括的に支援する機能を備えた「こども家庭センター」の設置を進めること。</li> <li>●安心して出産できるよう、出産に係る宿泊費などの支援制度の拡充を図ること。</li> </ul>
審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了		

# 令和4年度施策評価(第3次総合計画)

1 施策の概要			
まちづくりの大綱	5	郷土を築く人と文化を育むまちづくり	
基本施策	2	質の高い教育環境づくり【教育】	
関係課	こども教育課		
主要施策	1 健やかな心と体の育成 2 確かな学力の定着に向けた支援 3 学習環境の整備		
R4予算額(千円)		262,362	R4決算額(千円) 247,612

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。

※指標2は目標達成率がマイナスとなるため、0%と表記しています。

2 施策目標の達成状況									
指標名		単位	現況値	目標値	目標値の根拠	区分	R3年度	R4年度	目標達成率が70%未満の要因等
1	いじめが解消された割合	%	97.3 (H30)	100 (R4)	発生したいじめの完全解消、発生抑制を目指す	実績値	83.1	72.3	指導継続事案(観察期間中の案件)が多くあるため。
	指標の説明 学校調査によるいじめ発生件数に対する3カ月以上観察後の解消件数の割合		↗	目標達成率		83.1%	72.3%		
2	肥満度が20%以上の児童生徒の割合	%	7.4 (H30)	7.1 (R4)	現況値から0.4%減を目標とする	実績値	8.2	9.0	コロナの影響により部活動の休止や外で遊ぶことが自粛されたため。
	指標の説明 学校健診による肥満度20%以上の児童生徒の割合		↘	目標達成率		0.0%	0.0%		
3	全国標準学力検査(NRT)の得点率が全国平均を超えた割合(国語)	%	100 (H30)	100 (R4)	100%の維持を目指す	実績値	100	90.9	
	指標の説明 全国標準学力検査の観点別集計で全国平均を上回った割合(国語)		→	目標達成率		100.0%	90.9%		
4	全国標準学力検査(NRT)の得点率が全国平均を超えた割合(算数・数学)	%	100 (H30)	100 (R4)	100%の維持を目指す	実績値	90.9	54.5	学校間で差が出ているため
	指標の説明 全国標準学力検査の観点別集計で全国平均を上回った割合(算数・数学)		→	目標達成率		90.9%	54.5%		
5	全国標準学力検査(NRT)の得点率が全国平均を超えた割合(英語)	%	100 (H30)	100 (R4)	100%の維持を目指す	実績値	0	67	学校間で差が出ているため
	指標の説明 全国標準学力検査の観点別集計で全国平均を上回った割合(英語)		→	目標達成率		0%	66.7%		
6	外国人と関わる活動に参加した児童生徒の割合	%	13 (H30)	19 (R4)	年2%の増を目標とする	実績値	5	3	オンライン等を活用して海外の学校等と交流を実施したが、海外宿泊体験学習はコロナにより実施できなかった。
	指標の説明 外国人と関わる活動に参加した児童生徒数が全児童生徒数に占める割合		↗	目標達成率		29.4%	15.8%		
7	長寿命化改修・大規模改造工事の実施校数	校	— (H30)	11 (R4)	学校施設長寿命化計画より	実績値	4	4	緊急性の高い他の工事を優先したことや、計画していた施設の経年劣化の状況を見極め、工事を先送りしたため。
	指標の説明 学校施設長寿命化計画に基づく改修・改造工事延べ実施校数		↗	目標達成率		66.7%	36.4%		
8	特別教室への冷房設備設置工事の実施校数	校	— (H30)	11 (R4)	学校施設長寿命化計画より	実績値	11	11	
	指標の説明 整備計画に基づく設置工事の実施校数		↗	目標達成率		100.0%	100.0%		

3 施策を構成する主な事業						
No.	(事業通番)	関連する 指標No.	R4年度事務事業の事後評価			
	事業名		評価	評価理由		
1	(150090)	1	見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スクールロイヤーによる教職員向けのいじめ防止講演会を実施したほか教育支援センター(適応指導教室)にインターネット環境を整備し、オンライン学習ができる環境を確保することができた。</li> <li>●不登校児童生徒数は、年々増加傾向にあるほか、スクールソーシャルワーカーが関わる児童生徒への支援が長期化しているため、次年度から勤務日数を拡大することで、いじめ解消率を向上させる必要がある。</li> </ul>		
	いじめ・不登校対策推進事業			R4予算額(千円)	4,373	R4決算額(千円)
2	(150360・150780)	3,4	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●クラウド型学習支援アプリ(ロイロノート)を活用することで1人1台タブレット端末の利活用が進み、協働的な学習を実施することができた。各教科で読解力の実態把握と各学校で授業改善の計画作成を行い授業実践につなげている。</li> <li>●リーディングスキルテストの結果から全校で読解力が低い状況となっていることから、各校での授業改善の継続と読解力向上について指導できる講師による教員研修の場を設定する必要がある。</li> </ul>		
	基礎学力向上支援事業			R4予算額(千円)	33,478	R4決算額(千円)
3	(150890)	5,6	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全園での英語活動にALTを派遣し、ネイティブな英語に触れる機会を創出したほか、新たに指導主事(英語教育)を配置し、英語指導方法の改善に努めている。</li> <li>●ALTを5名から8名体制に増員しているが経験を積んだALTが帰国した場合、経験年数の浅いALTが増えることとなり、英語指導の質の低下が懸念されるため、経験の浅いALTへの指導や希望する者を市で直接雇用し、英語教育の質を維持する必要がある。</li> </ul>		
	英語教育支援事業			R4予算額(千円)	48,743	R4決算額(千円)
4	(150340・150760)	7,8	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●斐太北小学校校舎屋上防水工事、新井中学校校舎屋上防水工事を計画的に実施することにより、安全・安心で快適な教育環境を整備することができた。</li> <li>●建物の経年劣化等の進行状況を的確に把握し、計画的に改修工事や設備の更新を行い、長寿命化を図る必要がある。</li> </ul>		
	小学校大規模改修事業・中学校大規模改修事業			R4予算額(千円)	13,700	R4決算額(千円)
5	(150209)	2	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●身体測定の結果を基に、肥満の対象となる子・保護者と面談を実施することにより、生活改善や肥満の問題の解消につなげている。</li> <li>●肥満の対象となる子が多くなり、個人・家庭に任せてしまい、改善が難しくなるため、状況を的確に把握し、対応する必要がある。</li> </ul>		
	学校給食運営・食育推進事業			R4予算額(千円)	162,068	R4決算額(千円)

4 施策評価		
区分	選択区分	評価理由
A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった	<b>B</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スクールロイヤーによる教職員向けのいじめ防止講演会を実施したことで、いじめに対する知識・意識が高まったことにより、今で以上にいじめに発展しそうな小さな案件でも対応することで、早期に対処できる体制の構築につながった。</li> <li>●教育支援センター(適応指導教室)にインターネット環境を整備し、通室する生徒と学校との間でオンライン学習ができる環境を確保したことにより、生徒のニーズに沿った対応が可能になり、学習機会の確保につながった。</li> <li>●クラウド型学習支援アプリ(ロイロノート)の導入を開始し、協働的な学習を実施につながった。</li> <li>●新たに指導主事(英語教育)を配置したことにより、英語の指導体制の充実を図ることができた。</li> </ul>

5 今後の方向性		
区分	選択区分	今後の方向性
庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	<b>II</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●不登校児童生徒数は年々増加傾向にあり、支援が長期化しているため、いじめなど様々な問題の早期解消を図る体制の拡充等を検討すること。</li> <li>●全校で読解力が低い状況となっていることから、各校での授業改善の継続と教員研修に取り組む教員の指導力向上に取り組むこと。</li> <li>●クラウド型学習支援アプリ(ロイロノート)を活用し、個別最適な学びを推進するため、デジタルドリルの試験度導入を実施し、本格的な導入を検討すること。</li> <li>●中学校の英語力低下への対応のため、英語の指導体制や指導方法の改善を継続し、幼児や児童生徒の英語力とコミュニケーション力を高めること。</li> <li>●ギガスクール構想の目指すべきビジョンを明確にするとともに、タブレットの活用を拡充しデジタルによる新たな学習機会の拡充を図ること。</li> </ul>
審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了		

# 令和4年度施策評価(第3次総合計画)

1 施策の概要				
まちづくりの大綱	5	郷土を築く人と文化を育むまちづくり		
基本施策	3	豊かな心身をつくる環境づくり【生涯学習・スポーツ】		
関係課	生涯学習課			
主要施策	1 人生100年時代の生涯学習の推進 2 生涯を通じたスポーツ活動の推進			
   				
R4予算額(千円)		280,523	R4決算額(千円)	256,508

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。

2 施策目標の達成状況									
指標名		単位	現況値	目標値	目標値の根拠	区分	R3年度	R4年度	目標達成率が70%未満の要因等
1	社会教育施設利用者数	人	165,812 (H30)	168,311 (R4)	現況値から毎年約0.5%増とし、170,000人を目標とする	実績値	93,150	165,541	
	指標の説明		社会教育施設の年間延べ利用者数	↗					
2	「オール妙高あいさつ運動」の参加者数	人	777 (H30)	850 (R4)	毎年25人増とし、900人を目標とする	実績値	603	525	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、参加者数が減少した。
	指標の説明		あいさつ運動の1日あたりの参加者数	↗					
3	「妙高市民の心」推進応援事業所の登録件数	件	121 (H30)	151 (R4)	毎年10件増とし、170件を目標とする	実績値	144	145	
	指標の説明		事業所の登録件数	↗					
4	生涯学習講座「まなびの杜」の参加者数	人	1,001 (H30)	1,460 (R4)	毎年概ね1割増とし、1,800人を目標とする	実績値	145	681	コロナ禍における自粛及び、年に1回の募集で学習者のニーズに対応できていない。
	指標の説明		生涯学習講座の年間延べ受講者数	↗					
5	地域活動人材登録者数	人	326 (H30)	370 (R4)	毎年15人増を目標とする	実績値	244	300	
	指標の説明		地域活動人材の登録者数	↗					
6	図書館の貸出利用者数	人	27,477 (H30)	27,800 (R4)	現況値の概ね1.5倍の利用者数を目標とする	実績値	23,215	23,368	
	指標の説明		図書館の年間延べ貸出利用者数	↗					
7	成人における週1回以上のスポーツや運動の実施率	%	27.4 (H30)	- (R4)	市民の2人に1人が実施することを目標とする	実績値	-	-	
	指標の説明		市民意識調査における回答の割合	↗					
8	総合型地域スポーツクラブの利用者数	人	4,342 (H30)	4,510 (R4)	市民の運動習慣の定着やスポーツ実施率の向上により、毎年約1.0%の増を目標とする	実績値	2,191	2,443	コロナ禍による施設の休館などによる利用者の減少から、施設再開後も利用者が自粛等により完全には戻らないため。
	指標の説明		総合型地域スポーツクラブの年間延べ利用者数	↗					
9	ジュニア競技者の大会出場率	%	10 (H30)	10.8 (R4)	現況の県大会以上の出場者数(219人)を維持していくことを目標とする	実績値	12.5	5.97	競技スポーツ人口の減少等により、県大会に出場した個人やチームが減少したことによるもの。
	指標の説明		市内小中学生のうち県大会以上の大会に出場した者の割合	↗					
10	スポーツ施設の利用者数	人	326,712 (H30)	335,000 (R4)	施設の市民利用を現行0.4%/年から0.5%/年に増加させるほか、合宿利用を計画期間内で3,000人程度の増を目標とする	実績値	175,947	235,765	
	指標の説明		スポーツ施設の年間延べ利用者数	↗					

3 施策を構成する主な事業				
No.	(事業通番)	関連する 指標No.	R4年度事務事業の事後評価	
	事業名		評価	評価理由
1	(160130)	6	拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>●図書館整備構想や新図書館等複合施設整備計画に基づき、施設整備に向けて、市民等との意見交換等を重ねながら施設の実施設計に反映することができた。</li> <li>●施設のオープンに向けて、市民ボランティアの育成やサービスやソフトの充実を図る必要がある。</li> </ul>
	新図書館等複合施設整備事業			R4予算額(千円)
2	(93567)	1,4,5	拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オンラインでの講座を取り入れながSDGsを基本テーマに市民の理解を深めるとともに、保育や介護をテーマにリカレント講座を開催し、資格取得や就業への意識を高めた。</li> <li>●生涯学習講座の参加者が高齢化しているため、子育て世代など新たな参加者拡大を図る必要がある。</li> </ul>
	生涯学習推進事業			R4予算額(千円)
3	(170070)	7,8,10	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多種多様な運動機会を提供するため、新型コロナウイルスの感染対策を施し、障がいのある人、ない人が一緒に楽しめるポッチャ講習会等の各種教室やジュニアスポーツクラブの活動を実施したほか、4年ぶりに越後妙高コシヒカリマラソンを開催し、1,000人を超えるランナーが参加した。</li> <li>●県アプリを活用した事業所の歩数対抗戦を新たに実施し、運動習慣の定着に取り組んだ。</li> <li>●市民の運動習慣の定着に向け、総合型地域スポーツクラブ等と協議・連携をし、新たな取り組みの構築を検討する必要がある。</li> </ul>
	スポーツタウンづくり推進事業			R4予算額(千円)
4	(170090)	9,10	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ジュニアスポーツ競技力向上事業のため、上越教育大学から講師を招聘し、指導者を対象とした研修会を3回行い、指導者の資質向上を図ったほか、競技別資格の取得に対し支援を行った。(計8人)</li> <li>●休日における運動部活動の地域移行に向け、市としての取り組み状況等を競技団体や関係団体に説明し、理解を得ながら、体制づくりを進める必要がある。</li> </ul>
	競技スポーツ推進事業			R4予算額(千円)
5	(170150)	9,10	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コロナ禍の影響により活動が制限されている中で、感染防止対策を徹底した活動を行った結果、全国中学校スキー大会に強化指定選手21人中11人が出場、信越学童親善スキー大会では、165人の選手が出場したほか、ジュニアスキー育成団体と意見交換し、補助金交付要綱を見直し、スキー競技力向上に寄与することができた。</li> <li>●少子化や協議の多種多様化の影響により、競技スキー人口の減少とともにジュニア選手数が減少、また、スキー関係団体の高齢化等による指導者不足が進行しており、選手の発掘・育成・強化とともに、安定した指導体制を支援する必要がある。</li> </ul>
	スキーのまち妙高推進事業			R4予算額(千円)
6	(170212)	10	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●陸上競技場や赤倉体育センターなどの計画的な改修の実施や妙高高原体育館内のトレーニング機器の整備により、利用者にとって安心安全で快適なスポーツ活動を実施できる環境の確保が図られた。</li> <li>●体育施設の老朽化が進んでおり、適切な維持管理をはじめ、計画的な修繕や改修等を行い、幅広い年齢層の運動習慣の定着とスポーツ施設の利用促進を図る必要がある。</li> </ul>
	スポーツ施設整備事業			R4予算額(千円)

4 施策評価		
区分	選択区分	評価理由
A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>●図書館整備構想や新図書館等複合施設整備計画に基づき、施設整備に向けて、市民等との意見交換等を重ねながら施設の実施設計を完了した。</li> <li>●「まなびの社」にオンラインでの講座を取り入れながら、SDGsのほか、保育や介護をテーマにリカレント講座を開催し、資格取得や就業への意識を高めることができた。</li> <li>●感染対策を施し、4年ぶりに越後妙高コシヒカリマラソンを開催し、1,000人を超えるランナーが参加したほか、新たに障がいのある人、ない人が一緒に楽しめるポッチャ講習会など 多種多様な運動機会を提供することで、運動習慣の定着に寄与した。</li> <li>●ジュニアスキー育成団体と意見交換し、補助金交付要綱の内容を実態に近づけるよう見直したことにより、スキー競技の競技力努めた。</li> </ul>

5 今後の方向性		
区分	選択区分	今後の方向性
庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	II	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「まなびの社」の参加者が固定化し、若い世代の参加者や妙高高原・妙高地域の参加者が少ないことから、新たな参加者層の拡大に取り組むこと。</li> <li>●休日における運動部活動の段階的な地域移行に向け、競技団体や関係団体の状況を引き続き把握し、体制の構築を進めること。</li> <li>●体育施設等の修繕や改修等を計画的に行い、利用者が安心安全で快適に活動できる環境づくりを進めること。</li> <li>●新図書館等複合施設のオープンに向け、管理者体制の検討を進めるとともに、「知の拠点」としてどのような運営をしていくのか戦略をまとめること。</li> </ul>
審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了		

# 令和4年度施策評価(第3次総合計画)

1 施策の概要			
まちづくりの大綱	5	郷土を築く人と文化を育むまちづくり	
基本施策	4	郷土愛を育む文化のまちづくり【文化】	
関係課	生涯学習課		
主要施策	1 歴史文化資源の保存と活用		
  			
R4予算額(千円)		8,678	R4決算額(千円) 6,003

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。

2 施策目標の達成状況									
指標名		単位	現況値	目標値	目標値の根拠	区分	R3年度	R4年度	目標達成率が70%未満の要因等
1	歴史・芸術文化拠点の来場者数	人	33,886 (H30)	35,800 (R4)	現況値から概ね10%増を目標とする	実績値	22,292	47,716	
	指標の説明 道の歴史館、妻太歴史の里、妙高芸術祭における来場者数		↗			目標達成率	63.3%	133.3%	
2	歴史文化保存活用計画を策定し、地域活性化事業に取り組む地区数	地区	— (H30)	3 (R4)	R3年までに重点3地区の計画を策定し、R6年までに新たに1地区の計画を策定する	実績値	2	3	
	指標の説明 歴史文化保存活用計画を策定し地域活性化事業に取り組む地区数		↗			目標達成率	66.7%	100.0%	
3	指定・登録文化財数	件	85 (H30)	88 (R4)	毎年1物件増を目標とする	実績値	88	89	
	指標の説明 国・県・市指定文化財数と国登録有形文化財数		↗			目標達成率	101.1%	101.1%	
4	美術展覧会の出品数	点	272 (H30)	290 (R4)	現況値から概ね10%増を目標とする	実績値	219	329	
	指標の説明 四季彩展・市展の出品数		↗			目標達成率	76.8%	113.4%	

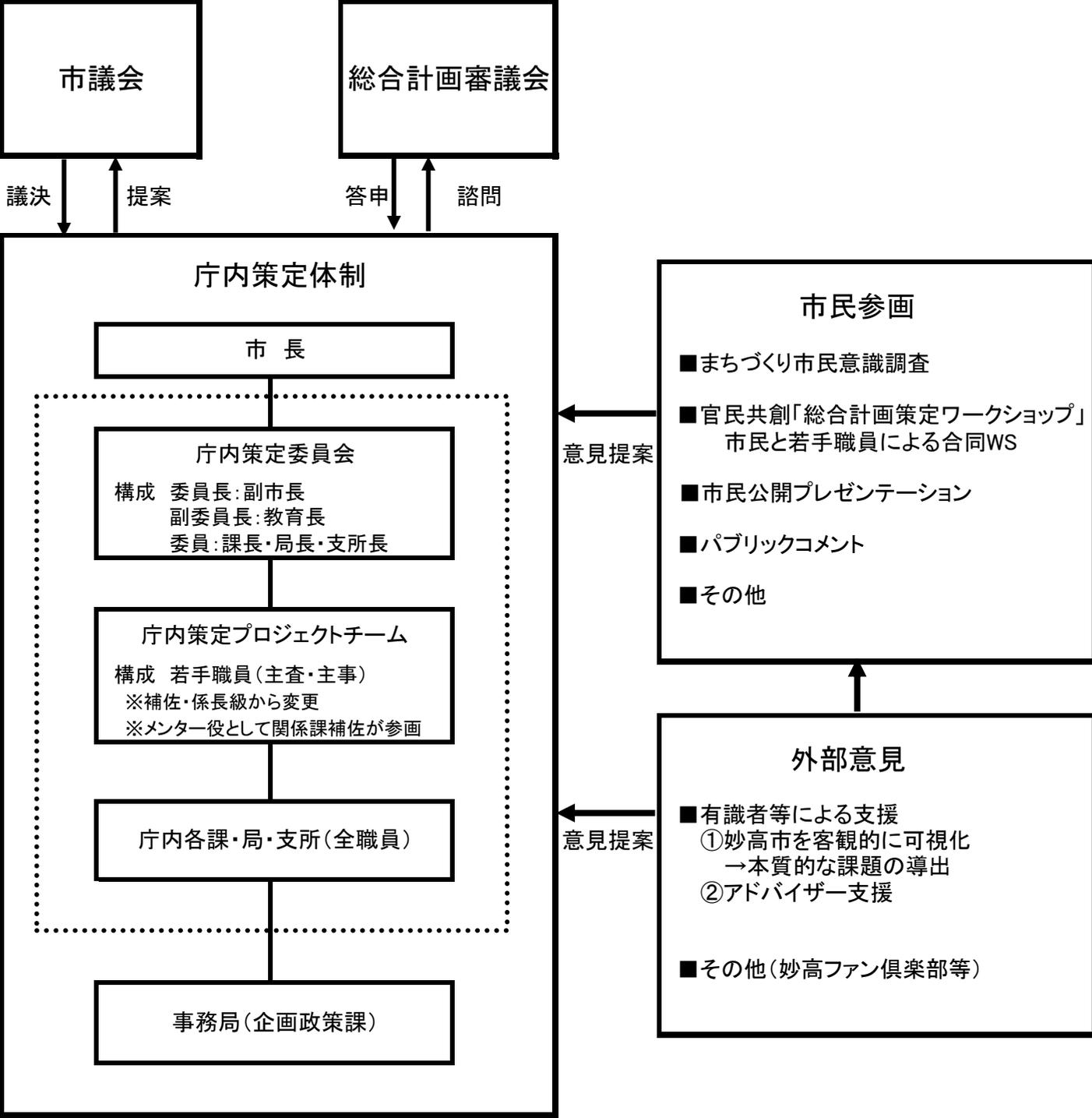
3 施策を構成する主な事業				
No.	(事業通番)	関連する 指標No.	R4年度事務事業の事後評価	
	事業名		評価	評価理由
1	(160355)	1~3	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●枝打ちによって旧関山宝蔵院庭園から神社への見通しが良くなり、歴史的景観としての魅力が大きく向上した。また、散策路がわかりやすくなり、周遊しやすくなったことで、関山神社秘仏御開帳が円滑かつ盛況のうちに終了し、今後、善光寺御開帳と同時期に定期開催されることとなり、地域活性化の起爆剤として期待される存在となった。</li> <li>●今後定期開催される見通しとなった御開帳行事については、観光事業者にも早くから情報を周知し、妙高ツーリズムマネジメント等と連携し、地元経済の活性化につながる取組を増やしていく必要がある。</li> </ul>
	妙高歴史遺産活用推進事業 (旧:関山神社周辺文化財総合調査・整備事業)			R4予算額(千円)
2	(160336)	1,4	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コロナ禍ではあったが、感染防止対策を徹底し、妙高市展、ジュニア芸術展等の展覧会事業の実施や、NHKの公開収録番組である「新・BS日本のうた」を誘致したほか、四季彩芸術展では、通常の四季彩展の他に入賞作品を集めた秀作展を妙高高原ビジターセンターで開催し、15,000人以上の来場者があり、市民の芸術鑑賞や活動成果発表の機会の充実につながった。</li> <li>●少子高齢化により、近年文化芸術団体が減少しており(H22:119⇒R4:77)、コロナ禍もあいまって団体の活動も停滞化しつつあることから、妙高文化振興事業団や文化芸術団体と連携しながら、文化ホール開館40周年記念事業の市民音楽祭を開催し、団体の活動発表の機会を創出する。</li> </ul>
	アートステージ妙高推進事業			R4予算額(千円)

4 施策評価		
区分	選択区分	評価理由
A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>●旧関山宝蔵院庭園が関山地区のシンボルとなり、今後、善光寺御開帳と同時期に関山神社秘仏御開帳が定期開催されることとなり、地域活性化の起爆剤として期待される存在となった。</li> <li>●通常の四季彩芸術展の他に、入賞作品を集めた秀作展を妙高高原ビジターセンターで開催したところ、15,000人以上の来場者(通常の四季彩展来場者1,247人)があり、市民の芸術鑑賞や活動成果発表の機会の充実につながった。</li> </ul>

5 今後の方向性		
区分	選択区分	今後の方向性
庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	II	<ul style="list-style-type: none"> <li>●歴史文化現地ガイドや妙高ツーリズムマネジメントと連携し、妙高の特徴的な歴史文化資源の磨き上げと更なる魅力の掘り起こしを進め、地域経済の活性化につながる取組を増やしていくこと。</li> <li>●宝蔵院御膳を活用した宿坊の里づくりを進めていくこと。</li> <li>●R5年度は文化ホール開館40周年記念にあたることから、妙高文化振興事業団や文化芸術団体と連携しながら記念事業を実施するなど、団体の活動発表の機会を創出し、文化芸術活動の活性化を図ること。</li> </ul>
審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了		

# 第4次妙高市総合計画の策定体制

第3次総合計画がスタートして以降、コロナ禍により、時代の潮流、社会の価値観が大きく転換していることを踏まえつつ、人口減少に挑戦するべく新たな政策立案が求められていることから、下図のとおり、策定体制を構築する。



## 第4次妙高市総合計画 庁内策定委員会委員名簿

役職	職名	氏名
委員長	副市長	西澤 澄男
副委員長	教育長	塚田 賢
委員	総務課長	吉越 哲也
	財務課長	大野 敏宏
	地域共生課長	高橋 正一
	市民税務課長	岩澤 正明
	建設課長	丸山 敏行
	環境生活課長	岡田 雅美
	福祉介護課長	田中かおる
	健康保険課長	松橋 守
	農林課長兼 農業委員会事務局長	西條 保
	観光商工課長	丸山 豊
	妙高高原支所長	横田 晃悦
	妙高支所長	東條 義博
	会計課長	植木 淳
	上下水道局長	松木 博文
	こども教育課長	小林あゆみ
	生涯学習課長	鴨井 敏英
	議会事務局長	阿部 光洋
監査委員事務局長	山本 慎二	
事務局	企画政策課長	岡田 豊

◎第4次妙高市総合計画・デジタル田園都市構想総合戦略 策定スケジュール 資料2-3

項目	R4年度						R5年度												R6年度													
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
策定目標・計画検討事項等						○第3次総合計画の進捗状況・達成度確認	○第3次総合計画の評価・分析 (市民意識調査、基本・主要施策評価、課題の協議と対応策の検討、将来推計人口の検証と次期計画における目標人口設定)												○第4次総合計画の策定 (将来像・基本理念、体系・施策構成、重点プロジェクト等)						第4次総合計画の策定(個別計画、土地利用計画、財政計画等)	議会全協報告	議員意見交換会	パブリックコメント	議会議決	冊子印刷委託	総合計画完成	
庁内策定PT 主査、主事、メンター、補佐、事務局:企画政策課 ①移住・定住、交通・生活環境、地域づくり、克雪 ②産業振興、デジタル活用 ③脱炭素、再エネ、自然環境、資源循環、防災 ④教育、子育て、健康・福祉の増進							庁内PTメンバー選考	第1回庁内PT会議 ※全体会 ・策定体制、役割、スケジュール説明 ・アンケート結果(速報)の確認	第2回庁内PT会議 ※4部会 ・アンケート結果分析 ・第3次計画の評価(現状把握と課題認識、今後の方向性の検討)	第3回庁内PT会議 ※4部会 ・ワークショップの進め方の検討 ・専門家による基礎調査及び数値分析結果の共有	ワークショップ(9月～10月に3回) ①移住・定住、交通・生活環境、地域づくり、克雪 ②産業振興、デジタル活用 ③脱炭素、再エネ、自然環境、資源循環、防災 ④教育、子育て、健康・福祉の増進  <検討事項> ・将来像の検討(ありがたい姿やどんな市になってほしいか)	第4回庁内PT会議 ※4部会 ・ワークショップのまとめと計画への反映の検討	第5回庁内PT会議 ※4部会 ・第4次総合計画の将来像と基本理念、体系と施策構成、重点プロジェクト等の検討	第6回庁内PT会議 ※4部会 ・第4次総合計画素案の検討	第7回庁内PT会議 ※4部会 ・第4次総合計画素案の検討	第8回庁内PT会議 ※4部会 ・第4次総合計画素案の検討	第9回庁内PT会議 ※4部会 ・第4次総合計画素案の検討	第10回庁内PT会議 ※全体会 ・議員意見交換会、パブコメ、市民説明会等の意見に対する修正案の検討														
市民参画 (意識調査・官民共創「総合計画策定ワークショップ」)				アンケート項目検討 庁内照会・取りまとめ			市民意識調査(市民・アンケート ※必要に応じてLINE)	アンケート結果分析	配布	結果入力	結果分析	ワークショップ市民委員選考・選任依頼	ワークショップの進め方説明(資料共有を含む)	物事変革マインド講和(ワークショップ参加者、庁内PT、審議会委員等)	・住民や行政の課題の受け止めや解決策の方向について検討 ・新しい発想による施策検討(アイデア出し)								市民説明会									
庁内策定委員会 (副市長、教育長、課長・局長・支所長)							第1回庁内策定委員会 ・策定体制、役割、スケジュール説明、庁内PT選任依頼 ・アンケート結果(速報)の確認 ・R2～R4主要施策評価等の依頼	第2回庁内策定委員会 ・アンケート分析、専門業者の基礎調査及び数値分析結果の共有 ・第3次計画の評価(課題協議等)	第3回庁内策定委員会 ・ワークショップのまとめと計画への反映の協議 ・第3次総合計画の評価 ・課題に対応した施策の協議	第4回庁内策定委員会 ・第4次総合計画の将来像と基本理念、体系と施策構成、重点プロジェクト等の協議	第5回庁内策定委員会 ・第4次総合計画の将来像と基本理念、体系と施策構成、重点プロジェクト等の協議	第6回庁内策定委員会 ・第4次総合計画の将来像、基本理念、体系と施策構成、重点プロジェクト等の協議	第7回庁内策定委員会 ・第4次総合計画素案の協議	第8、9、10回庁内策定委員会 ・第4次総合計画素案の協議	第11回庁内策定委員会 ・議員意見交換会、パブコメ、市民説明会等の意見に対する修正案の協議																	
総合計画審議会							第1回、第2回総合計画審議会 ・R4施策評価	第3回総合計画審議会 ・第4次総合計画の諮問 ・策定体制、役割、スケジュール説明 ・アンケート結果の報告 ・第3次計画の評価(課題協議等)	第4回総合計画審議会 ・ワークショップのまとめと計画への反映の協議 ・第3次総合計画の評価 ・課題に対応した施策の協議	第5回総合計画審議会 ・第4次総合計画の将来像と基本理念、体系と施策構成、重点プロジェクト等の協議	第6回総合計画審議会 ・第4次総合計画の将来像と基本理念、体系と施策構成、重点プロジェクト等の協議	第7回総合計画審議会 ・第4次総合計画素案の協議	第8、9回総合計画審議会 ・第4次総合計画素案の協議 ・R5施策評価	第10、11回総合計画審議会 ・第4次総合計画素案の協議	第12回総合計画審議会 ・議員意見交換会、パブコメ、市民説明会等の意見に対する修正案の協議 ・答申																	
専門業者による支援(基礎調査・数値分析、官民共創「総合計画策定ワークショップ」及び総合計画審議会の運営支援)				○専門業者による支援の検討・予算計上等			・専門業者公募 ・参加表明資格審査通知 ・企画提案書の提出	・参加表明者のプロポーザルヒアリング ・優先交渉権者の選定と契約	・受託業者との打合せ ・基礎調査及び数値分析	受託業者によるワークショップ運営支援 ①移住・定住、交通・生活環境、地域づくり、克雪 ②産業振興、デジタル活用 ③脱炭素、再エネ、自然環境、資源循環、防災 ④教育、子育て、健康・福祉の増進	受託業者との協議 ・ワークショップ意見の計画への反映 ・第3次総合計画の評価 ・課題に対応した施策の協議	受託業者との協議 ・第4次総合計画の将来像と基本理念、体系と施策構成、重点プロジェクト等の協議	受託業者との協議 ・第4次総合計画の将来像と基本理念、体系と施策構成、重点プロジェクト等の協議	○受託業者との継続的な相談等																		

## 官民共創「第4次総合計画策定ワークショップ」市民委員について

部 会	庁内策定PTメンバー (主査、主事)	市民委員・選出母体等
① 移住・定住、交通・生活環境、地域づくり、克雪	地共/環境/建設/市税/企画 ■小島千香世 ■石川千花子 ■手塚 亮 ■峯村 孟瑠 ◇今井 英幸 ◇小山 祥 □齊藤 誠	■山崎健太郎 (特定地域づくり事業協同組合) ■蔡 紋如 (公募) ■町田 涼太 (移住者)
② 産業振興、デジタル活用	農林/観光/総務/企画 ■笹井 赳夫 ■田中 里実 ■竹内 風吹 ◇岸本 学 ◇丸山 大樹 □池田 潤	■鈴木 陽一 (商工会議所) ■池田 裕章 (㈱アイケーテック) ■岡本 旭美 (にいがたコスメプロダクト合名会社) ■村越 洋一 (公募)
③ 脱炭素、再エネ、自然環境、資源循環、防災	環境/農林/総務/企画 ■西山 祐貴 ■関 聡美 ■市川 大地 ◇小山 祥 ◇岸本 学 □長谷川賢治	■向 滉 (国際自然環境アウトドア専門学校) ■小林 敬明 (妙高高原ビジターセンター) ■西脇 直也 (西脇建設(株))
④ 教育、子育て、健康・福祉の増進	健康/福祉/こ教/生涯/企画 ■丸山 仁美 ■原田 浩成 ■岡田 祐樹 ■宮本あゆみ ■吉田 涼 ■齊木 直樹 ◇丸山 大樹 ◇今井 英幸 □保坂あかね □余野 等	■浅岡 哲也 (公募) ■児玉久美子 (ゆめキャンパス) ■江口 香代 (公募) ■田地野晶男 (国際スノーボード&スケートボード専門学校) ■宮尾 雅人 (公募)

## 【庁内策定PTの役割等】

- ・第3次総合計画の評価（現状把握と課題認識、今後の方向性の検討）を踏まえ、市民等と合同で開催する官民共創「総合計画策定ワークショップ」と協働し、庁内策定委員会で検討する計画の素案を作成する。

## 【具体的な検討事項等】

- ① 基本施策・主要施策別評価シート確認 ※現状と課題認識、今後の方向性の検討
- ② 官民共創「総合計画策定ワークショップ」での「将来像」「現状と課題」「施策」の検討
- ③ 官民共創「総合計画策定ワークショップ」での「検討結果を政策として整理」し、庁内策定委員会（副市長・教育長・各所属長）で検討する計画の素案を作成

第4次妙高市総合計画策定基礎資料

## 令和5年度 妙高市まちづくり市民意識調査結果報告書

(市民向けアンケート調査の結果)



令和5年7月

新潟県妙高市

# < 目 次 >

<b>1. 調査の概要</b> .....	<b>3</b>
<b>2. 基本的属性等</b> .....	<b>4～8</b>
(1) あなた自身のことをお伺いします (問1)	
性別、年齢 .....	4
職業、居住年数 .....	5
居住地域 (全体、地域別) .....	6
世帯構成、住まい .....	7
通勤・勤務先 .....	8
<b>3. 妙高市の魅力と住みよさ、幸福度について</b> .....	<b>8～18</b>
(1) あなたは、どんなところに妙高市の魅力を感じていますか (問2) .....	8～11
①全体	
②クロス集計 (魅力×年代別)	
③クロス集計 (魅力×地域別)	
(2) 「自分のまち」として、妙高市に愛着がありますか (問3) .....	12～13
①全体	
②クロス集計 (愛着×年代別)	
③クロス集計 (愛着×地域別)	
(3) あなたにとって妙高市は住みやすいところだと思いますか (問4) .....	13～14
①全体	
②クロス集計 (住みやすさ×年代別)	
③クロス集計 (住みやすさ×地域別)	
(4) あなたは、今後も、妙高市に住み続けたいと思いますか (問5) .....	15～16
①全体	
②クロス集計 (定住意向×年代別)	
③クロス集計 (定住意向×地域別)	
(5) あなたが移り住みたいと考える理由は何ですか (問6) .....	16
(6) 市政全般について、どの程度満足していますか (問8) .....	17
(7) 幸福感についてあなたはどの程度幸せですか (問25) .....	17
(8) 自分の幸福感を判断する際に重視した「事項」は何ですか (問26) .....	18
<b>4. 妙高市が目指すべき「将来像」のイメージについて</b> .....	<b>19～21</b>
(1) どの分野が充実した都市を目指したらよいと思いますか (問7) .....	19～21
①全体	
②クロス集計 (将来像×年代別)	
③クロス集計 (将来像×地域別)	

<b>5. 妙高市の「まちづくりの満足度・重要度」について</b> .....	<b>22～35</b>
(1) まちづくりの満足度について（主要施策別） .....	22～24
①主要施策別の満足度ランキング（上位）	
②主要施策別の満足度ランキング（下位）	
③クロス集計（主要施策（満足度）×年代別）	
④クロス集計（主要施策（満足度）×地域別）	
(2) まちづくりの満足度について（基本施策別） .....	25～26
①基本施策別の満足度の比較	
②基本施策別の満足度ランキング	
③クロス集計（基本施策（満足度）×年代別）	
④クロス集計（基本施策（満足度）×地域別）	
(3) 今後のまちづくりの重要度について（主要施策別） .....	27～29
①主要施策別の重要度ランキング（値1.00以上掲載）	
②クロス集計（主要施策（重要度）×年代別）	
③クロス集計（主要施策（重要度）×地域別）	
(4) 今後のまちづくりの重要度について（基本施策別） .....	30～31
①基本施策別の重要度の比較	
②基本施策別の重要度ランキング	
③クロス集計（基本施策（重要度）×年代別）	
④クロス集計（基本施策（重要度）×地域別）	
(5) 満足度と重要度の一覧表 .....	32～33
①主要施策別	
②基本施策別	
(6) ポートフォリオ分析 .....	34～35
<b>《参考》</b>	
平成30年度 ポートフォリオ分析 .....	36～37

# 1. 調査の概要

## (1) 目的

次期の第4次妙高市総合計画（R7～R11：5カ年間）の策定にあたり、市政の満足度や重点を置くべき政策分野などについて、市民ニーズを把握するため、まちづくり市民意識調査を実施した。

## (2) 実施期間：令和5年4月6日（木）～5月10日（水）

## (3) 調査内容

- ①調査対象：市内在住の15歳以上の市民1,000人（無作為抽出）
- ②調査方法：郵送によりアンケート用紙を送付し、郵送またはウェブによる回答
- ③調査項目
  - ・ 基本的属性等（性別、年齢、職業等）
  - ・ 市の「魅力」と「住みよさ」
  - ・ 市が目指すべき「将来像」
  - ・ 総合計画の施策別（細分類31項目）の満足度と重要度等
  - ・ その他（各課の取り組み等）

## (4) 回答状況

- ・ 配付数：1,000人
- ・ 回答人数：386人
- ・ 回答率：38.6%

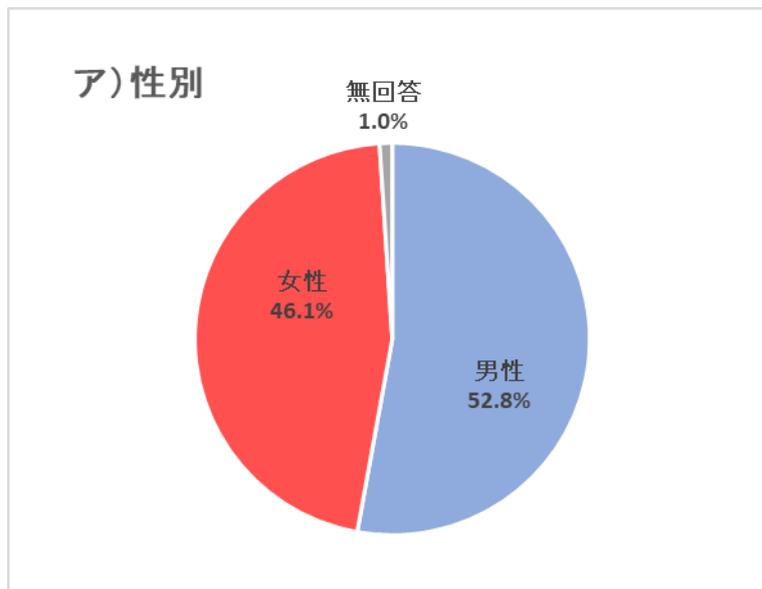
## (5) その他

- ・ 集計表は、小数第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答比率を合計しても100%にならない場合がある。

## 2. 基本的属性等

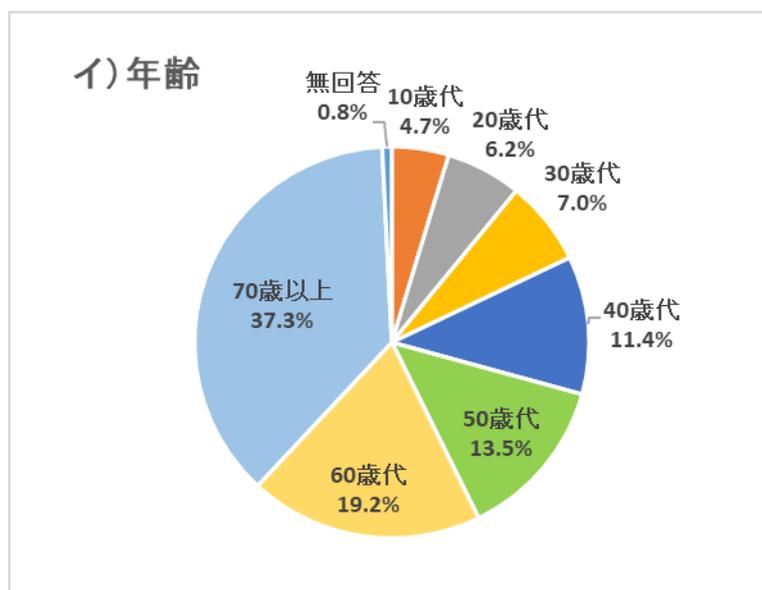
(1) あなた自身のことをお伺いします。(問1)

ア) 性別



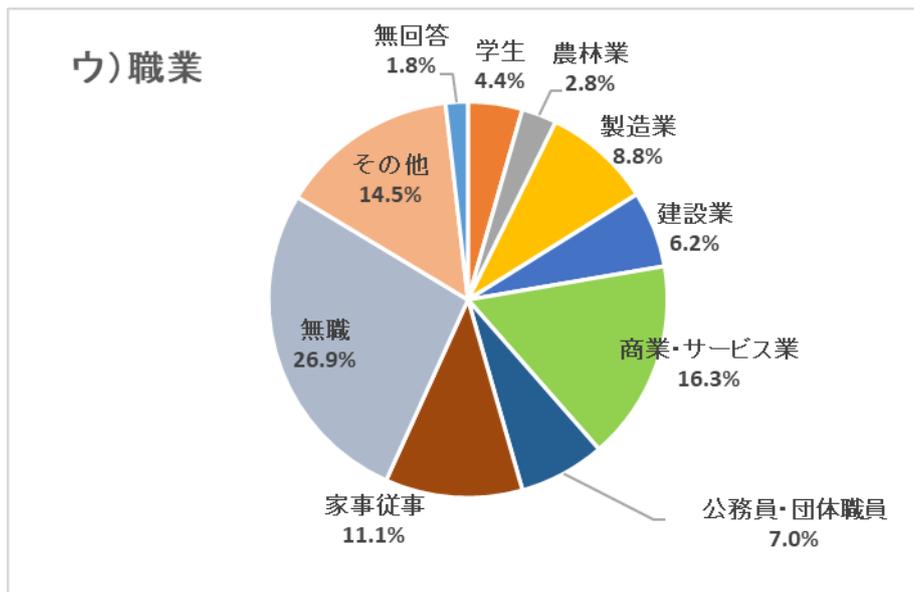
・「男性」が52.8%、「女性」が46.1%で「男性」の割合が高くなっている。

イ) 年齢



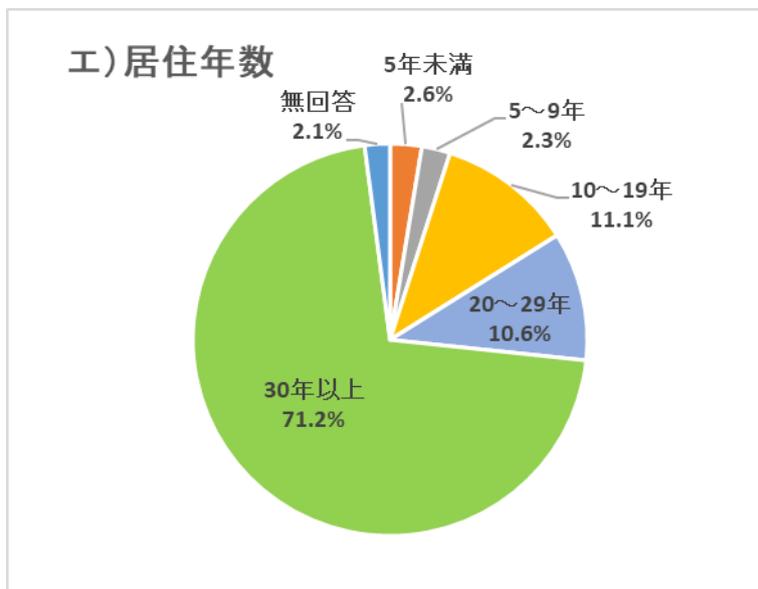
・年齢構成をみると「60歳代」が19.2%、「70歳以上」が37.3%となっており、60歳代・70歳以上の回答率が高くなっている。

## ウ) 職業



- ・主な職業は「無職」が26.9%と最も割合が高く、次いで「商業・サービス業」が16.3%、「家事従事」が11.1%の順となっている。

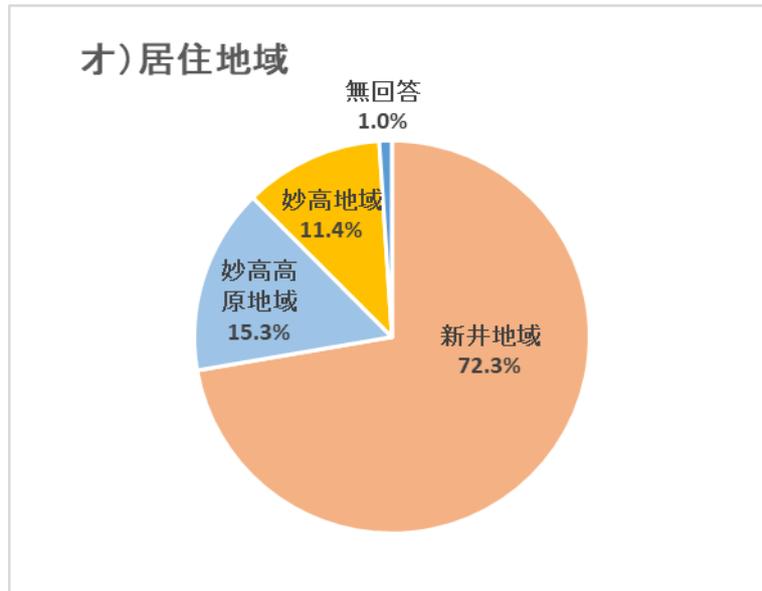
## エ) 居住年数



- ・居住年数は「30年以上」が71.2%と最も割合が高く、次いで「10～19年」が11.1%、「20～29年」が10.6%の順となっている。

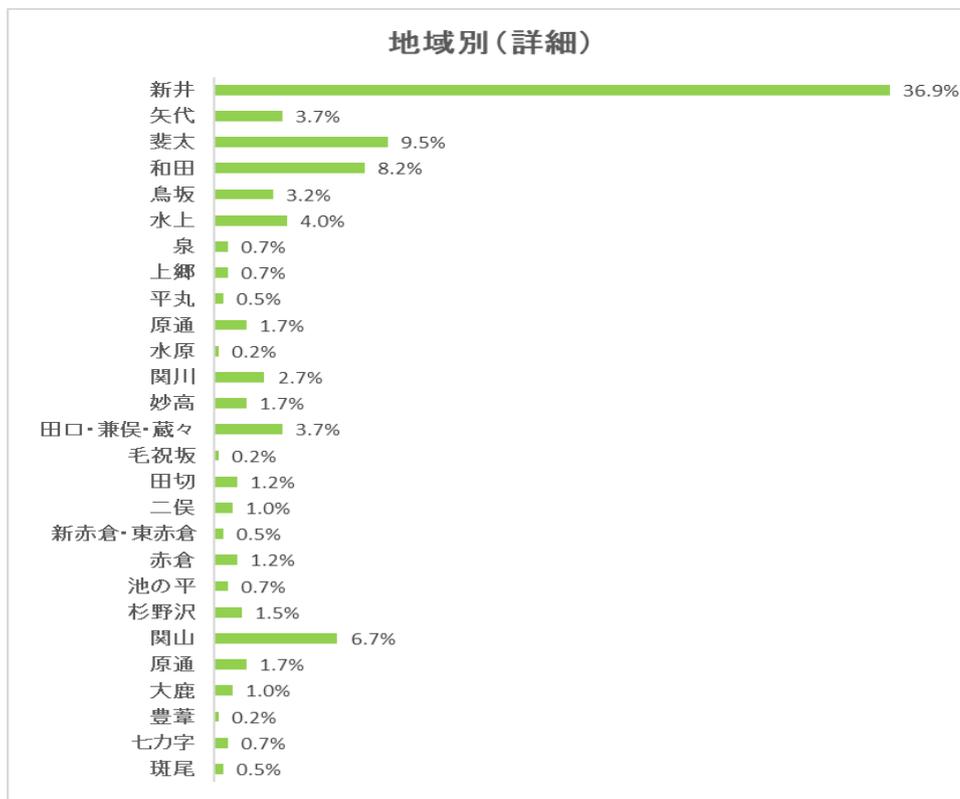
## オ) 居住地域

### ①全体



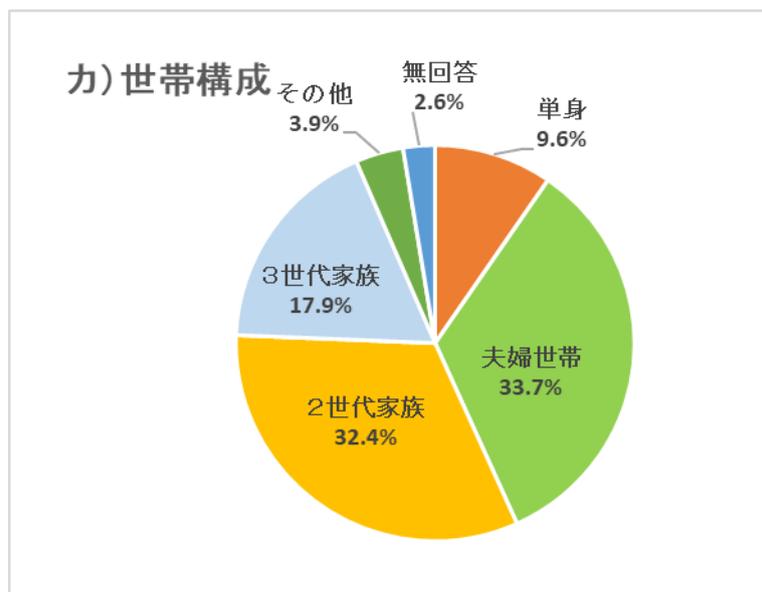
- ・ 居住地域は「新井地域」が72.3%、「妙高高原地域」が15.3%、「妙高地域」が11.4%となっている。

### ②地域別（詳細）



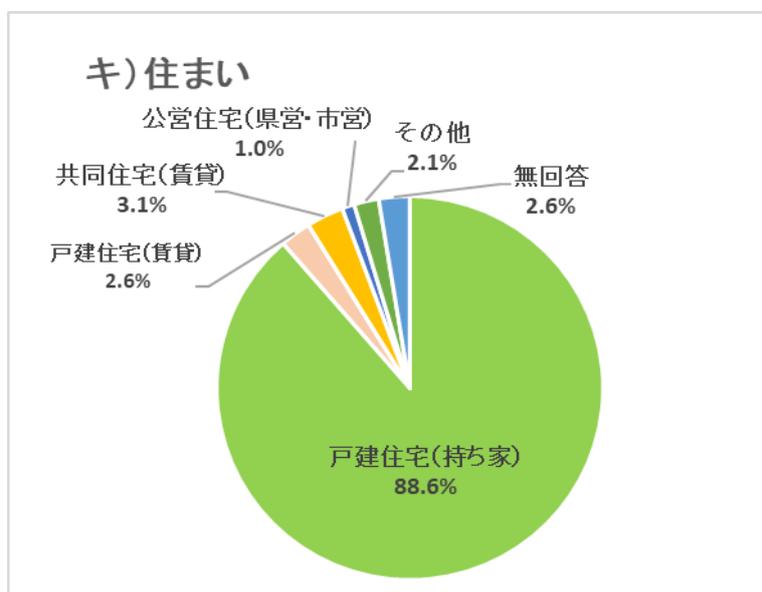
- ・ 地域別で回答率が高かったのは、新井地域では「新井」が36.9%、妙高高原地域では「田口・兼俣・蔵々」が3.7%、妙高地域では「関山」が6.7%となっている。

## 力) 世帯構成



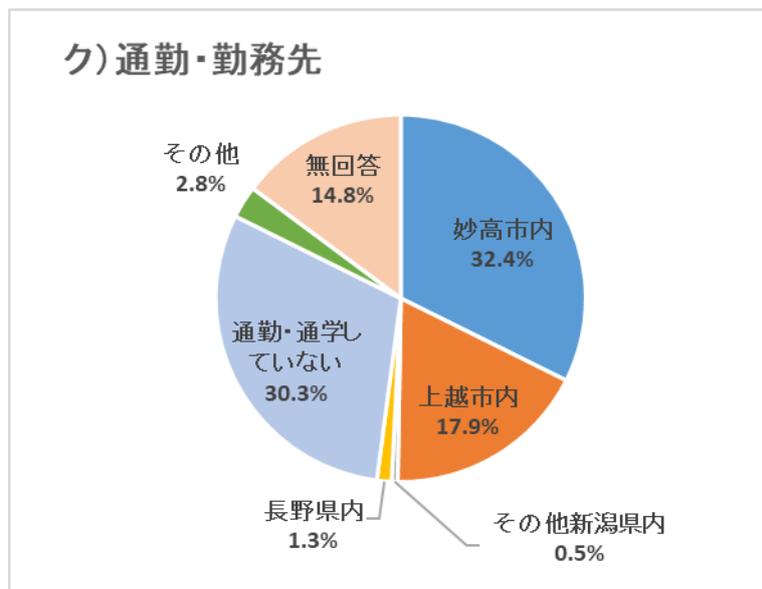
- ・世帯構成は「夫婦世帯」が33.7%と最も割合が高く、次いで「2世代家族」が32.4%、「3世代家族」が17.9%の順となっている。

## キ) 住まい



- ・住まいは「戸建住宅(持ち家)」が88.6%と最も割合が高く、次いで「共同住宅(賃貸)」が3.1%の順となっている。

## ク) 通勤・勤務先

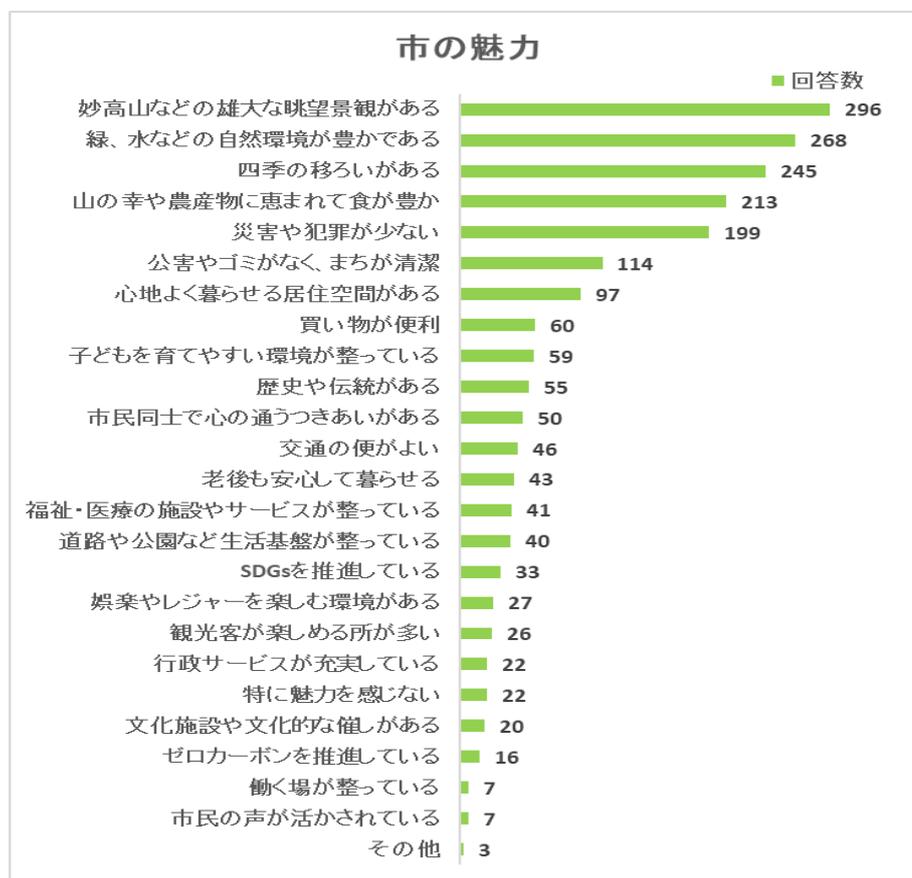


- ・通勤・勤務先は「妙高市内」が32.4%と最も割合が高く、次いで、「通勤・通学していない」が30.3%、「上越市内」が17.9%の順となっている。

## 3. 妙高市の「魅力」と「住みよさ」などについてお伺いします。

(1) あなたは、どんなところに妙高市の魅力を感じていますか。(問2)

### ①全体



## 《回答数のランキング》

順位	回答項目	回答数	回答率
1	妙高山などの雄大な眺望景観がある	296	14.7%
2	緑、水などの自然環境が豊かである	268	13.3%
3	四季の移ろいがある	245	12.2%
4	山の幸や農産物に恵まれて食が豊か	213	10.6%
5	災害や犯罪が少ない	199	9.9%
6	公害やゴミがなく、まちが清潔	114	5.7%
7	心地よく暮らせる居住空間がある	97	4.8%
8	買い物が便利	60	3.0%
9	子どもを育てやすい環境が整っている	59	2.9%
10	歴史や伝統がある	55	2.7%
11	市民同士で心の通うつきあいがある	50	2.5%
12	交通の便がよい	46	2.3%
13	老後も安心して暮らせる	43	2.1%
14	福祉・医療の施設やサービスが整っている	41	2.0%
15	道路や公園など生活基盤が整っている	40	2.0%
16	SDGsを推進している	33	1.6%
17	娯楽やレジャーを楽しむ環境がある	27	1.3%
18	観光客が楽しめる所が多い	26	1.3%
19	行政サービスが充実している	22	1.1%
20	特に魅力を感じない	22	1.1%
21	文化施設や文化的な催しがある	20	1.0%
22	ゼロカーボンを推進している	16	0.8%
23	働く場が整っている	7	0.3%
24	市民の声が活かされている	7	0.3%
25	その他	3	0.1%

- ・市の魅力についての上位は、「妙高山などの雄大な眺望景観がある」が最も多く、次いで「緑、水などの自然環境が豊かである」、「四季の移ろいがある」の順となっている。
- ・下位については、「働く場が整っている」と「市民の声が活かされている」が最も少なく、次いで「ゼロカーボンを推進している」、「文化施設や文化的な催しがある」の順となっている。

## ②クロス集計（魅力×年代別）

■「魅力」と「年代」別とのクロス集計結果（順位）

回答項目	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
子どもを育てやすい環境が整っている	7	18	6	7	7	9	15
公害やゴミがなく、まちが清潔	6	7	8	6	6	6	6
災害や犯罪が少ない	8	4	4	3	5	5	5
買い物が便利	9	8	20	9	10	10	8
交通の便がよい	16	9	15	10	12	11	13
福祉・医療の施設やサービスが整っている	20	19	16	13	11	13	12
老後も安心して暮らせる	17	10	25	15	17	14	10
心地よく暮らせる居住空間がある	5	5	7	8	8	7	7
道路や公園など生活基盤が整っている	12	11	9	12	13	12	16
妙高山などの雄大な眺望景観がある	1	2	1	1	1	1	1
緑、水などの自然環境が豊かである	2	1	2	2	2	3	3
四季の移ろいがある	4	3	3	4	4	2	2
歴史や伝統がある	13	13	10	11	14	8	11
文化施設や文化的な催しがある	10	14	17	18	24	22	19
娯楽やレジャーを楽しむ環境がある	11	20	11	16	15	16	20
市民同士で心の通うつきあいがある	14	15	18	17	9	17	9
働く場が整っている	21	21	19	21	19	24	24
山の幸や農産物に恵まれて食が豊か	3	6	5	5	3	4	4
観光客が楽しめる所が多い	15	12	12	19	20	18	18
市民の声が活かされている	22	23	21	25	25	23	23
行政サービスが充実している	23	24	13	22	18	19	17
SDGsを推進している	18	16	22	20	16	15	14
ゼロカーボンを推進している	24	17	23	23	21	21	21
特に魅力を感じない	19	22	14	14	22	20	22
その他	25	25	24	24	23	25	25

- ・年代別にみると「妙高山などの雄大な眺望景観がある」が20歳代以外は1位となっており、「緑、水などの自然環境が豊かである」、「四季の移ろいがある」についても全ての年代で高い順位となっている。
- ・また、全ての年代において、「山の幸や農産物に恵まれて食が豊か」、「心地よく暮らせる居住空間がある」、「災害や犯罪が少ない」の順位が高くなっている。
- ・下位をみると「働く場が整っている」、「市民の声が活かされている」、「ゼロカーボンを推進している」が全ての年代で低くなっている。
- ・「買い物が便利」、「老後も安心して暮らせる」については、30歳代が他の年代に比べて、低い順位となっている。

### ③クロス集計（魅力×地域別）

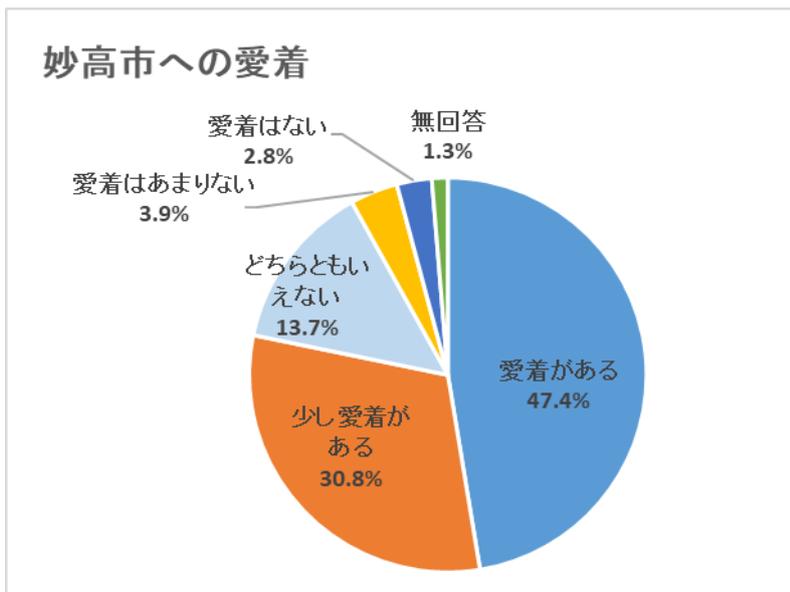
■「魅力」と「地域」別とのクロス集計結果（順位）

設 問	新井地域	妙高高原地域	妙高地域
子どもを育てやすい環境が整っている	9	13	11
公害やゴミがなく、まちが清潔	6	6	7
災害や犯罪が少ない	5	5	4
買い物が便利	8	20	9
交通の便がよい	10	17	14
福祉・医療の施設やサービスが整っている	14	14	12
老後も安心して暮らせる	12	15	10
心地よく暮らせる居住空間がある	7	7	8
道路や公園など生活基盤が整っている	13	16	15
妙高山などの雄大な眺望景観がある	1	1	1
緑、水などの自然環境が豊かである	2	2	2
四季の移ろいがある	3	3	3
歴史や伝統がある	15	9	6
文化施設や文化的な催しがある	19	18	19
娯楽やレジャーを楽しむ環境がある	22	10	16
市民同士で心の通うつきあいがある	11	8	13
働く場が整っている	24	21	23
山の幸や農産物に恵まれて食が豊か	4	4	5
観光客が楽しめる所が多い	20	11	17
市民の声が活かされている	23	25	24
行政サービスが充実している	18	19	20
SDGsを推進している	16	12	18
ゼロカーボンを推進している	21	23	21
特に魅力を感じない	17	22	22
その他	25	24	25

- ・地域別にみると、全ての地域に共通して1位が「妙高山などの雄大な眺望景観がある」、2位が「緑、水などの自然環境が豊かである」、3位が「四季の移ろいがある」となっている。
- ・新井地域では「娯楽やレジャーを楽しむ環境がある」、「観光客が楽しめる所が多い」の順位が低く、妙高高原地域では、「買い物が便利」の順位が低くなっている。
- ・下位をみると「働く場が整っている」、「市民の声が活かされている」、「行政サービスが充実している」が全ての地域で低くなっている。

(2)「自分のまち」として、妙高市に愛着がありますか。(問3)

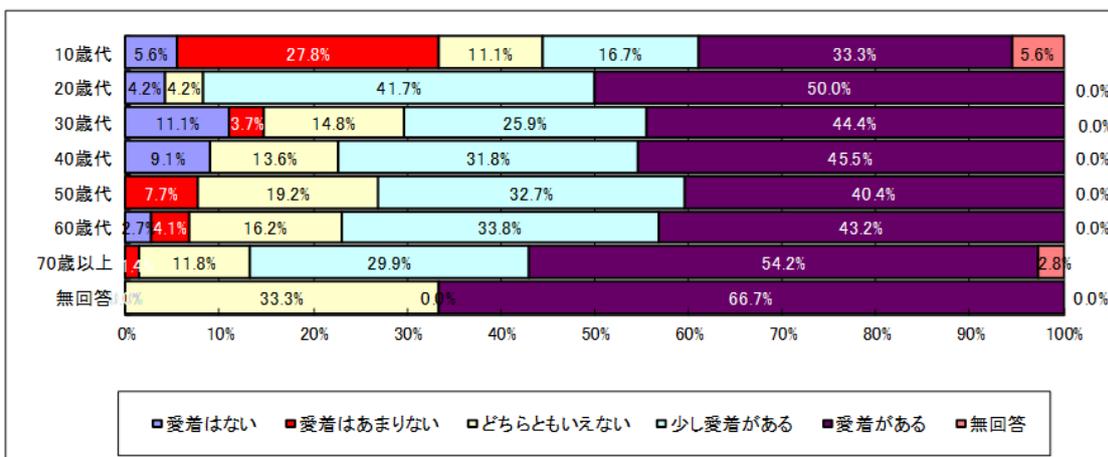
①全体



・妙高市への愛着については、市全体でみると、「愛着がある」が47.4%で、「愛着はない」が2.8%となっている。

②クロス集計 (愛着×年代別)

■「愛着」と「年代別」とのクロス集計結果

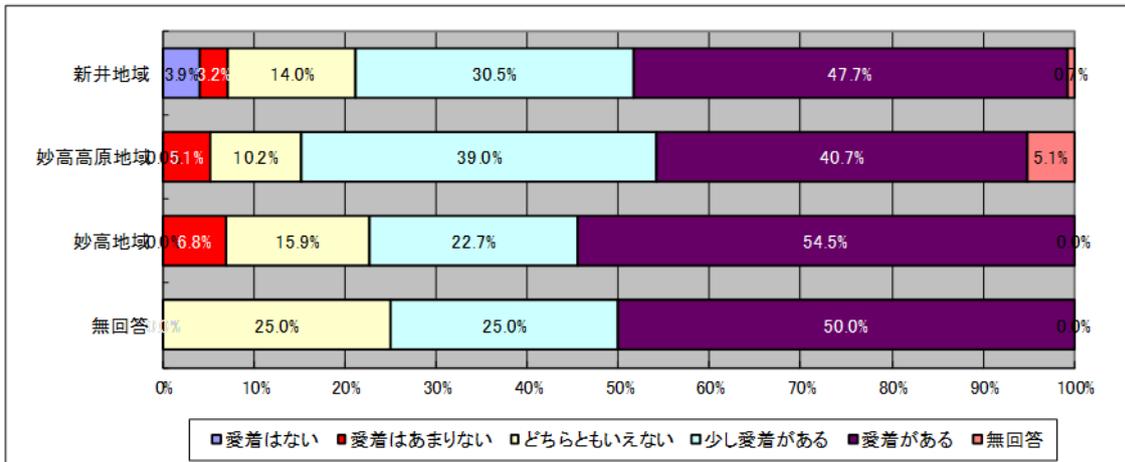


	愛着はない	愛着はあまりない	どちらともいえない	少し愛着がある	愛着がある	無回答	総数
10歳代	5.6%	27.8%	11.1%	16.7%	33.3%	5.6%	100.0%
20歳代	4.2%	0.0%	4.2%	41.7%	50.0%	0.0%	100.0%
30歳代	11.1%	3.7%	14.8%	25.9%	44.4%	0.0%	100.0%
40歳代	9.1%	0.0%	13.6%	31.8%	45.5%	0.0%	100.0%
50歳代	0.0%	7.7%	19.2%	32.7%	40.4%	0.0%	100.0%
60歳代	2.7%	4.1%	16.2%	33.8%	43.2%	0.0%	100.0%
70歳以上	0.0%	1.4%	11.8%	29.9%	54.2%	2.8%	100.0%
無回答	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	100.0%

- ・年代別にみると「愛着がある」と答えた割合が一番高かった年代は、「70歳以上」で54.2%となっており、「愛着はない」と答えた割合が一番高かった年代は「30歳代」で11.1%となっている。
- ・「愛着がある」「少し愛着がある」を合計すると「20歳代」の割合が一番高く、「愛着はない」「愛着はあまりない」を合計すると「10歳代」の割合が一番高くなる。

### ③クロス集計（愛着×地域別）

■「愛着」と「地域」別とのクロス集計結果

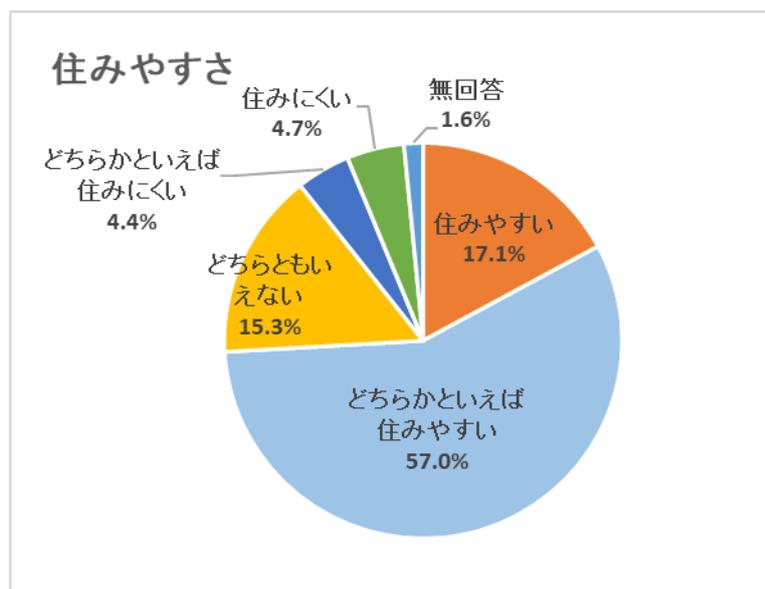


	愛着はない	愛着はあまりない	どちらともいえない	少し愛着がある	愛着がある	無回答	総数
新井地域	3.9%	3.2%	14.0%	30.5%	47.7%	0.7%	100.0%
妙高高原地域	0.0%	5.1%	10.2%	39.0%	40.7%	5.1%	100.0%
妙高地域	0.0%	6.8%	15.9%	22.7%	54.5%	0.0%	100.0%
無回答	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	100.0%

- ・地域別にみると「愛着がある」と答えた割合が一番高かった地域は「妙高地域」で、54.5%となっており、「愛着はない」と答えた割合が一番高かった地域は、「新井地域」で3.9%となっている。
- ・「愛着がある」「少し愛着がある」を合計すると、「妙高高原地域」の割合が一番高くなっている。

### (3) あなたにとって妙高市は住みやすいところだと思いますか。(問4)

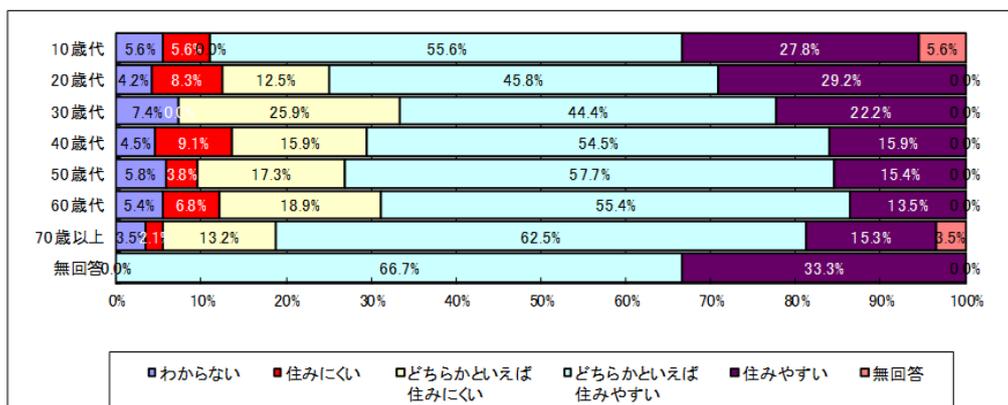
#### ①全体



- ・住みやすさについては、市全体でみると、「住みやすい」が17.1%となっており、「住みにくい」が、4.7%となっている。

## ②クロス集計（住みやすさ×年代別）

■「住みやすさ」と「年代別」とのクロス集計結果

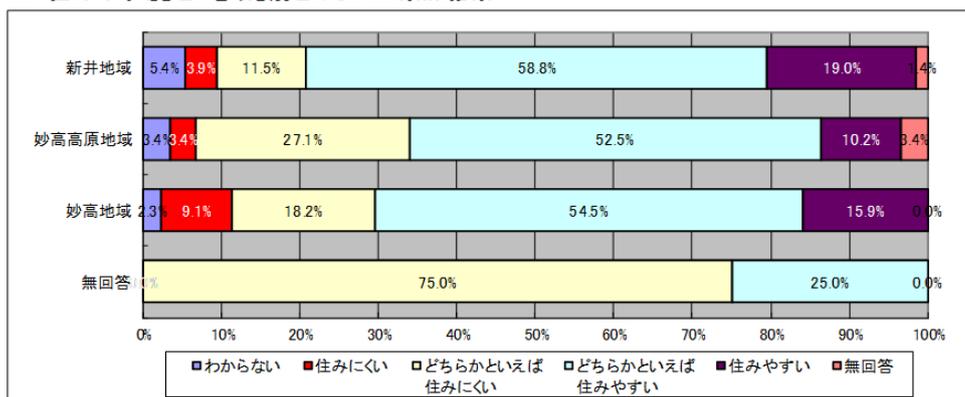


	わからない	住みにくい	どちらかといえば住みにくい	どちらかといえば住みやすい	住みやすい	無回答	総数
10歳代	5.6%	5.6%	0.0%	55.6%	27.8%	5.6%	100.0%
20歳代	4.2%	8.3%	12.5%	45.8%	29.2%	0.0%	100.0%
30歳代	7.4%	0.0%	25.9%	44.4%	22.2%	0.0%	100.0%
40歳代	4.5%	9.1%	15.9%	54.5%	15.9%	0.0%	100.0%
50歳代	5.8%	3.8%	17.3%	57.7%	15.4%	0.0%	100.0%
60歳代	5.4%	6.8%	18.9%	55.4%	13.5%	0.0%	100.0%
70歳以上	3.5%	2.1%	13.2%	62.5%	15.3%	3.5%	100.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%

- ・年代別にみると「住みやすい」と答えた割合が一番高かった年代は「20歳代」で29.2%となっており、「住みにくい」と答えた割合が一番高かった年代が「40歳代」で9.1%となっている。
- ・「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合計すると「10歳代」の割合が一番高く、「住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」を合計すると「30歳代」の割合が一番高くなっている。

## ③クロス集計（住みやすさ×地域別）

■「住みやすさ」と「地域」別のクロス集計結果

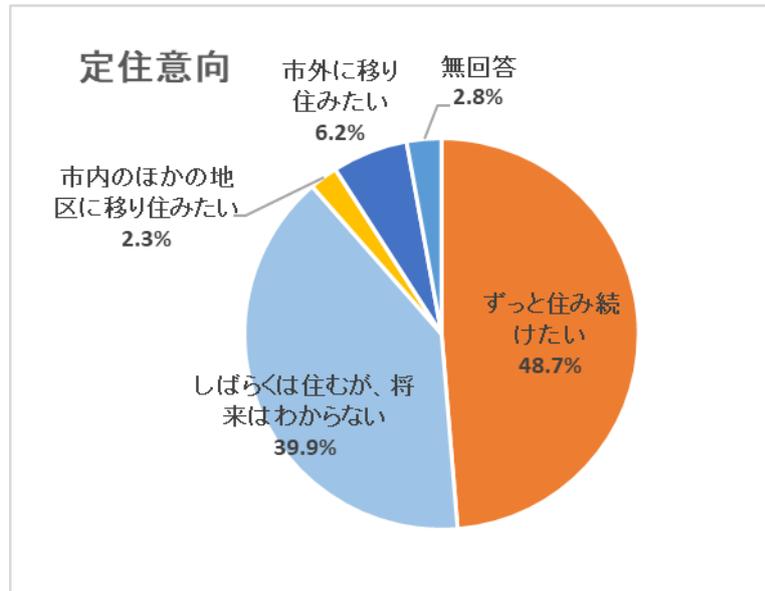


	わからない	住みにくい	どちらかといえば住みにくい	どちらかといえば住みやすい	住みやすい	無回答	総数
新井地域	5.4%	3.9%	11.5%	58.8%	19.0%	1.4%	100.0%
妙高高原地域	3.4%	3.4%	27.1%	52.5%	10.2%	3.4%	100.0%
妙高地域	2.3%	9.1%	18.2%	54.5%	15.9%	0.0%	100.0%
無回答	0.0%	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	100.0%

- ・地域別にみると、「住みやすい」と答えた割合が一番高かった地域は「新井地域」で19.0%となっており、「住みにくい」と答えた割合が一番高かった地域は「妙高地域」で9.1%となっている。
- ・「住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」を合計すると、「妙高高原地域」の割合が一番高くなっている。

(4) あなたは、今後も、妙高市に住み続けたいと思いますか。(問5)

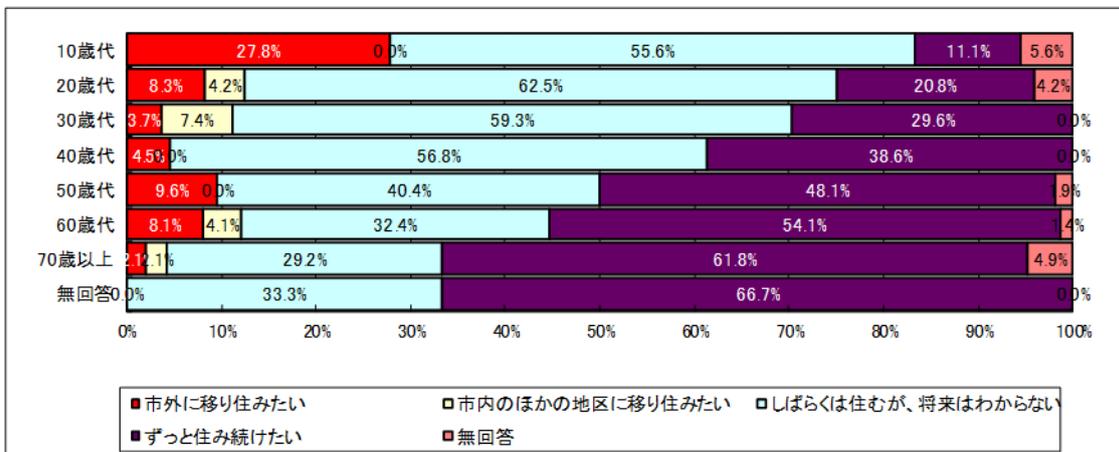
①全体



・定住意向については、市全体で見ると「ずっと住み続けたい」が48.7%で、「市外に移り住みたい」が6.2%となっている。

②クロス集計 (定住意向×年代別)

■「今後も住み続けたいか」と「年代別」とのクロス集計結果

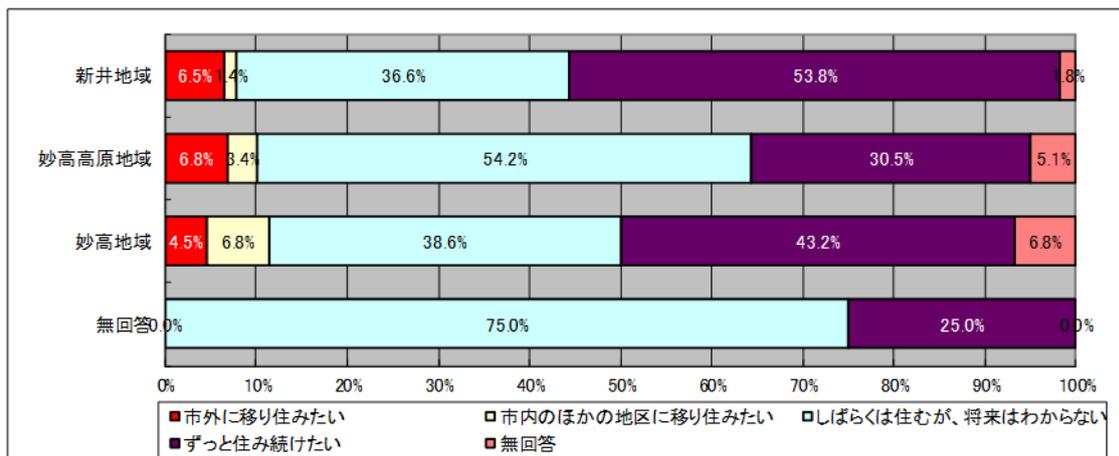


	市外に移り住みたい	市内のほかの地区に移り住みたい	しばらくは住むが、将来はわからない	ずっと住み続けたい	無回答	総数
10歳代	27.8%	0.0%	55.6%	11.1%	5.6%	100.0%
20歳代	8.3%	4.2%	62.5%	20.8%	4.2%	100.0%
30歳代	3.7%	7.4%	59.3%	29.6%	0.0%	100.0%
40歳代	4.5%	0.0%	56.8%	38.6%	0.0%	100.0%
50歳代	9.6%	0.0%	40.4%	48.1%	1.9%	100.0%
60歳代	8.1%	4.1%	32.4%	54.1%	1.4%	100.0%
70歳以上	2.1%	2.1%	29.2%	61.8%	4.9%	100.0%
無回答	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%

・年代別にみると、「ずっと住み続けたい」と答えた割合が一番高かった年代は「70歳以上」で、61.8%となっており、「市外に移り住みたい」と答えた割合が一番高かった年代は「10歳代」で27.8%となっている。

### ③クロス集計（定住意向×地域別）

■「今後も住み続けたいか」と「地域」別とのクロス集計結果

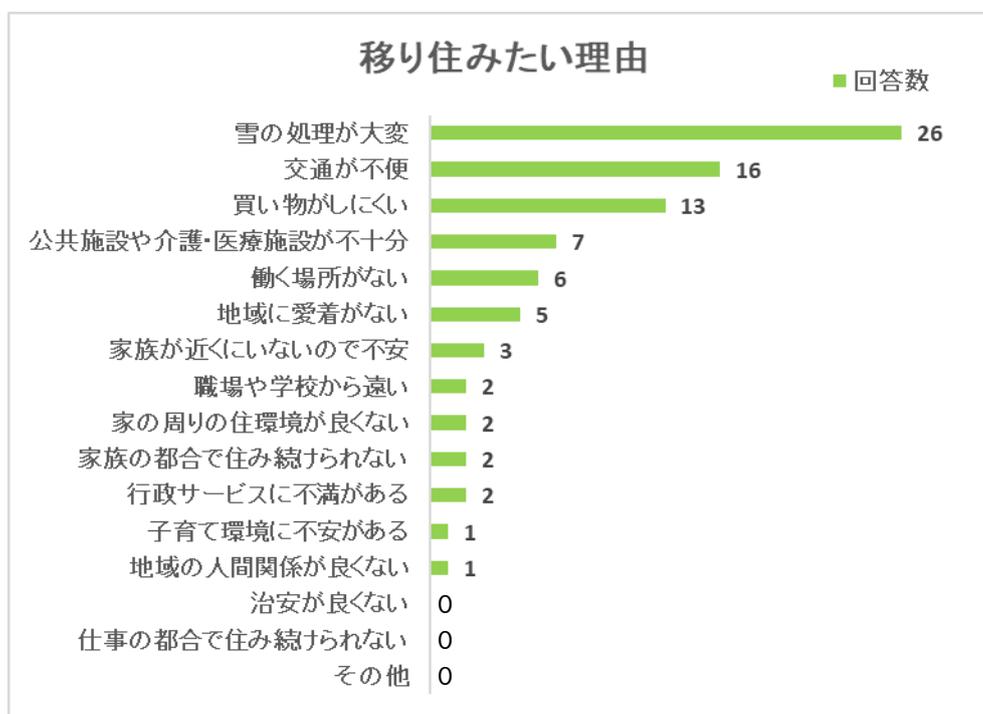


	市外に移り住みたい	市内のほかの地区に移り住みたい	しばらくは住むが、将来はわからない	ずっと住み続けたい	無回答	総数
新井地域	6.5%	1.4%	36.6%	53.8%	1.8%	100.0%
妙高高原地域	6.8%	3.4%	54.2%	30.5%	5.1%	100.0%
妙高地域	4.5%	6.8%	38.6%	43.2%	6.8%	100.0%
無回答	0.0%	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%

- ・地域別にみると、「ずっと住み続けたい」と答えた割合が一番高かった地域は「新井地域」で53.8%となっており、「市外に移り住みたい」と答えた割合が一番高かった地域は「妙高高原地域」で6.8%となっている。

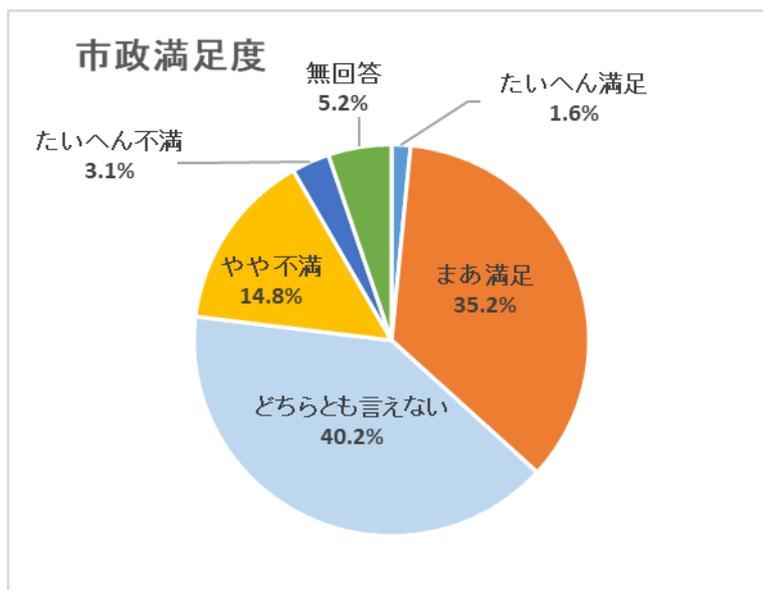
### (5) あなたが移り住みたいと考える理由は何ですか。(問6)

※この質問は、(4)で「市外又は市内に移り住みたい」を選んだ方のみ回答。



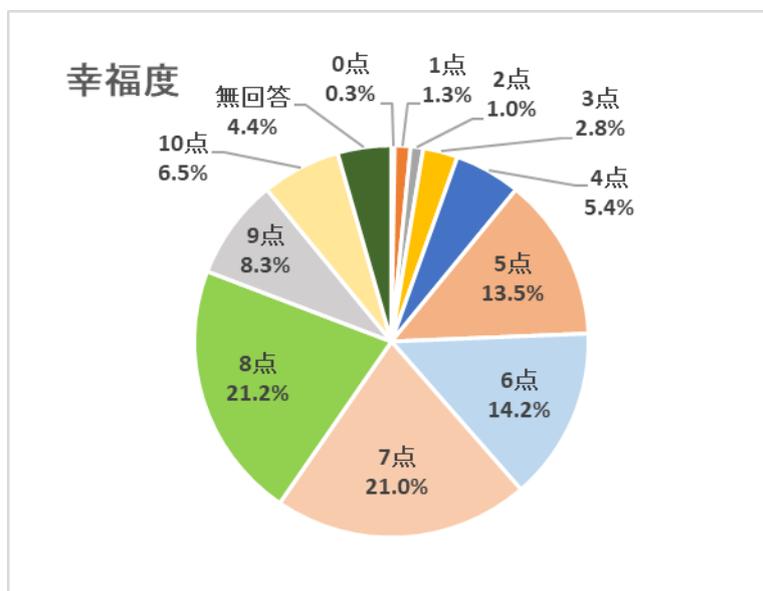
- ・移住したい理由は、「雪の処理が大変」が最も多く、次いで、「交通が不便」、「買い物がしにくい」の順となっている。

(6) 市政全般について、どの程度満足していますか（問8）



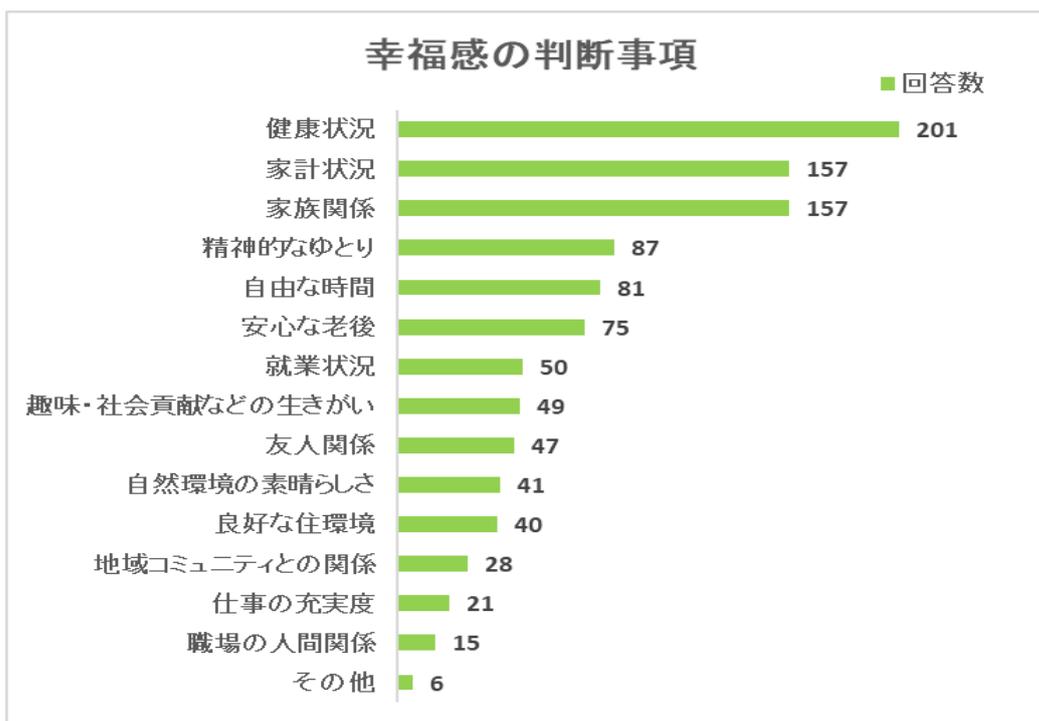
- ・ 市政全般の満足度については「たいへん満足」「まあ満足」が合計で36.8%、「たいへん不満」「やや不満」が合計で17.9%となっている。

(7) あなた自身の幸福感について、あなたはどの程度幸せですか。（問25）  
※「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として回答



- ・ 幸福度は「8点」が最も多く、次いで、「7点」、「6点」、「5点」、「9点」の順となっている。

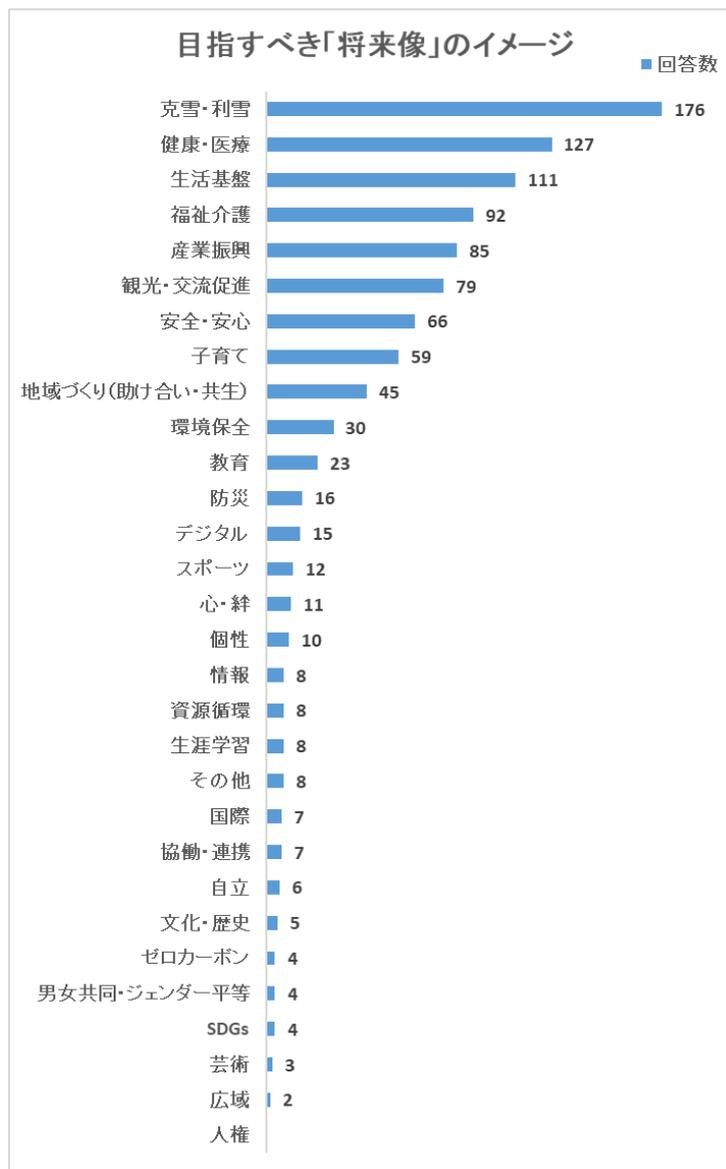
(8) 幸福感を判断する際に重視した「事項」は何ですか。(問26)



- ・ 幸福度の判断事項は、「健康状況」が最も多く、次いで、「家計状況」、「家族関係」、「精神的なゆとり」、「自由な時間」の順となっている。

4. 妙高市が目指すべき「将来像」のイメージについてお伺いします。  
 (1) どの分野が充実した都市を目指したらよいと思いますか。(問7)

①全体



《回答数のランキング》

順位	回答項目	回答数	順位	回答項目	回答数	順位	回答項目	回答数
1	克雪・利雪	176	11	教育	23	21	国際	7
2	健康・医療	127	12	防災	16	22	協働・連携	7
3	生活基盤	111	13	デジタル	15	23	自立	6
4	福祉介護	92	14	スポーツ	12	24	文化・歴史	5
5	産業振興	85	15	心・絆	11	25	ゼロカーボン	4
6	観光・交流促進	79	16	個性	10	26	男女共同・ジェンダー平等	4
7	安全・安心	66	17	情報	8	27	SDGs	4
8	子育て	59	18	資源循環	8	28	芸術	3
9	地域づくり(助け合い・共生)	45	19	生涯学習	8	29	広域	2
10	環境保全	30	20	その他	8	30	人権	0

・どの分野の充実を目指したらよいかについては、「克雪・利雪」が最も多く、次いで「健康・医療」、「生活基盤」、「福祉介護」、「産業振興」の順となっている。

## ②クロス集計（将来像×年代別）

■「将来像」と「年代」別のクロス集計結果（順位）

回答項目	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
生活基盤	2	1	6	2	5	3	4
克雪・利雪	1	3	2	1	1	1	1
情報	19	21	17	18	19	16	13
デジタル	6	10	9	12	16	17	19
安全・安心	10	7	10	7	2	6	6
防災	20	12	14	26	10	11	12
環境保全	14	13	15	9	11	9	9
ゼロカーボン	21	14	18	19	20	25	20
資源循環	22	22	13	14	21	18	16
観光・交流促進	3	5	4	3	4	7	7
国際	15	15	11	27	13	26	26
協働・連携	23	23	19	20	22	19	14
産業振興	4	4	8	5	7	5	5
健康・医療	7	6	3	4	3	2	2
福祉介護	8	16	5	8	6	4	3
地域づくり(助け合い・共生)	11	8	12	15	9	10	8
人権	24	24	20	28	23	27	27
男女共同・ジェンダー平等	16	11	21	29	24	20	28
子育て	5	2	1	6	8	8	10
教育	9	9	7	10	12	12	17
生涯学習	25	25	22	21	17	21	15
スポーツ	12	17	23	13	14	13	21
文化・歴史	17	26	24	22	25	28	18
芸術	26	18	25	23	26	22	29
自立	27	19	26	24	27	14	22
個性	13	20	27	25	15	15	23
広域	28	27	28	30	28	23	25
心・絆	29	28	29	16	29	29	11
SDGs	30	29	16	17	18	30	30
その他	18	30	30	11	30	24	24

- ・年代別にみると「克雪・利雪」が全ての年代で高い順位となっている。
- ・「健康・医療」は30歳代以上の年代で高い順位となっている。
- ・下位をみると「人権」、「広域」が全ての年代で低くなっている。
- ・30歳代から50歳代を除く年代で「SDGs」が低い順位となっている。

### ③クロス集計（将来像×地域別）

■「将来像」と「地域」別とのクロス集計結果（順位）

回答項目	新井地域	妙高高原地域	妙高地域
生活基盤	3	2	4
克雪・利雪	1	1	1
情報	18	16	13
デジタル	13	12	14
安全・安心	7	8	8
防災	12	17	24
環境保全	10	9	15
ゼロカーボン	27	13	25
資源循環	20	18	16
観光・交流促進	6	3	5
国際	23	14	17
協働・連携	21	19	18
産業振興	5	6	6
健康・医療	2	4	2
福祉介護	4	5	3
地域づくり(助け合い・共生)	9	7	9
人権	30	25	26
男女共同・ジェンダー平等	25	20	27
子育て	8	10	7
教育	11	21	10
生涯学習	15	26	19
スポーツ	19	11	11
文化・歴史	26	22	20
芸術	28	27	21
自立	22	23	28
個性	16	15	22
広域	29	28	29
心・絆	14	24	12
SDGs	24	29	30
その他	17	30	23

- ・地域別にみると「克雪・利雪」が全ての地域で高い順位となっており、「生活基盤」、「健康・医療」についても高い順位となっている。
- ・妙高高原地域では「ゼロカーボン」の順位が他の地域と比べて高くなっている。また新井地域・妙高地域で「教育」の順位が高い一方で、妙高高原地域では低くなっている。
- ・下位をみると「人権」、「広域」、「SDGs」が全ての地域で低くなっている。

## 5. 妙高市の「まちづくりの満足度・重要度」についてお伺いします（問8）

※31の主要施策と13の基本施策の満足度・重要度を数値化して比較する。  
 ※たいへん満足・たいへん重要が2点、まあ満足・ある程度重要が1点、どちらともいえないが0点、やや不満・あまり重要でないが-1点、たいへん不満・全く重要でないが-2点として計算。（無回答は除外）

### （1）まちづくりの満足度について（主要施策別）

#### ①主要施策別の満足度ランキング（上位）

順位	項目	満足度
1	安全で安定したガス上下水道の維持	0.673854
2	安全な市民生活の確保	0.552561
3	防災体制の確立	0.514825
4	自然環境の保全と活用	0.420765
5	健康づくりの推進	0.326087
6	健やかな心と体の育成	0.276836
7	雪に強いまちづくりの推進	0.238482
8	道路ネットワークの強化	0.233983
9	幼児の教育・保育環境の充実	0.220963
10	資源循環のまちづくりの推進	0.214876

- ・ 主要施策別の満足度の上位については「安全で安定したガス上下水道の維持」が最も高く、次いで「安全な市民生活の確保」、「防災体制の確立」、「自然環境の保全と活用」、「健康づくりの推進」の順となっている。

#### ②主要施策別の満足度ランキング（下位）

順位	項目	満足度
1	商工業の振興と中心市街地の賑わいの創出	-0.6274
2	安定して働きやすい雇用の創出	-0.47541
3	コンパクトなまちづくりの推進	-0.35616
4	スマートシティ妙高の推進	-0.24148
5	地域医療体制の確保	-0.20755
6	持続可能な農業の振興	-0.18033
7	国際観光都市としての基盤整備	-0.15746
8	観光地域づくりの実践	-0.06011
9	生活困窮者等の自立支援	-0.05163
10	結婚・出産・子育て支援の充実	-0.03107

- ・ 下位については「商工業の振興と中心市街地の賑わいの創出」が最も満足度が低く、次いで「安定して働きやすい雇用の創出」、「コンパクトなまちづくりの推進」、「スマートシティ妙高の推進」、「地域医療体制の確保」の順となっている。

### ③クロス集計（主要施策（満足度）×年代別）

■「主要施策（満足度）」×「年代」別のクロス集計結果(順位)

項目	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
	順位						
コンパクトなまちづくりの推進	29	30	31	29	30	29	27
スマートシティ妙高の推進	28	27	27	30	28	25	26
道路ネットワークの強化	13	17	8	7	9	8	7
雪に強いまちづくりの推進	1	14	7	8	12	9	10
安全で安定したガス上下水道の維持	8	3	4	1	1	1	1
防災体制の確立	3	2	2	3	3	3	3
安全な市民生活の確保	2	1	3	2	2	2	2
自然環境の保全と活用	4	4	1	4	4	4	5
地球温暖化対策の推進	11	8	5	14	13	12	13
資源循環のまちづくりの推進	6	7	6	15	6	13	14
観光地域づくりの実践	9	24	24	25	22	24	23
国際観光都市としての基盤整備	18	26	26	26	25	26	28
商工業の振興と中心市街地の賑わいの創出	30	29	30	31	31	31	31
安定して働きやすい雇用の創出	31	31	29	28	29	30	30
持続可能な農業の振興	26	16	21	22	26	28	29
健康づくりの推進	19	5	16	17	5	7	4
地域医療体制の確保	16	28	28	27	27	27	24
介護予防・高齢者福祉の充実	12	25	25	9	17	16	6
障がい者福祉の充実	20	18	22	21	16	20	11
生活困窮者等の自立支援	23	21	19	23	23	22	22
地域コミュニティの維持・再生	22	20	18	20	19	19	20
移住・定住による地域の維持	24	22	20	24	20	23	21
人権意識の向上	10	10	9	16	14	18	18
結婚・出産・子育て支援の充実	25	23	23	11	24	21	25
幼児の教育・保育環境の充実	27	19	17	6	7	5	9
健やかな心と体の育成	5	6	12	5	8	6	8
確かな学力の定着に向けた支援	14	15	11	12	10	11	12
学習環境の整備	17	12	14	13	11	14	15
人生100年時代の生涯学習の推進	21	13	15	19	18	17	19
生涯を通じたスポーツ活動の推進	15	11	10	18	15	10	16
歴史文化資源の保存と活用	7	9	13	10	21	15	17

- ・年代別にみると「安全で安定したガス上下水道の維持」が40歳代以上の年代で1位となっている。また、「防災体制の確立」、「安全な市民生活の確保」についても全ての世代で高い順位となっている。
- ・10歳代では「雪に強いまちづくりの推進」、30歳代では「自然環境の保全と活用」や「地球温暖化対策の推進」の順位が他の年代と比べて高くなっている。
- ・40歳代と70歳以上においては、「介護予防・高齢者福祉の充実」が高い順位となっている。
- ・下位をみると「商工業の振興と中心市街地の賑わいの創出」、「安定して働きやすい雇用の創出」、「コンパクトなまちづくりの推進」が全ての年代で低くなっている。

#### ④クロス集計（主要施策（満足度）×地域別）

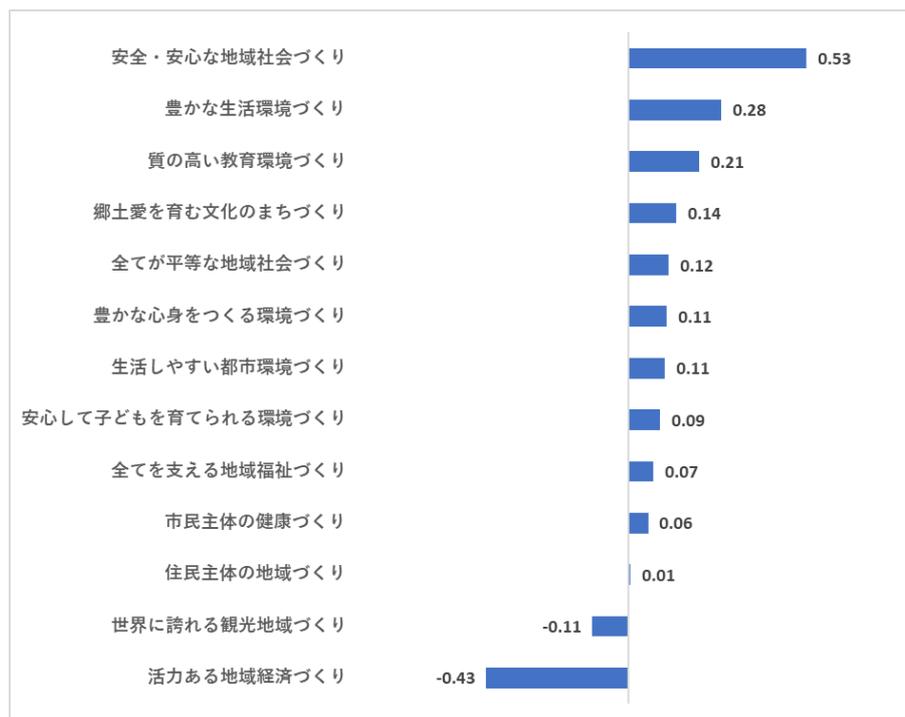
■「主要施策（満足度）」×「地域」別のクロス集計結果(順位)

項目	新井地域	妙高高原地域	妙高地域
	順位	順位	順位
コンパクトなまちづくりの推進	29	31	28
スマートシティ妙高の推進	27	28	26
道路ネットワークの強化	9	7	8
雪に強いまちづくりの推進	8	21	11
安全で安定したガス上下水道の維持	1	1	1
防災体制の確立	3	4	3
安全な市民生活の確保	2	3	2
自然環境の保全と活用	4	2	4
地球温暖化対策の推進	12	11	6
資源循環のまちづくりの推進	10	10	5
観光地域づくりの実践	24	19	20
国際観光都市としての基盤整備	25	27	21
商工業の振興と中心市街地の賑わいの創出	31	29	31
安定して働きやすい雇用の創出	30	30	30
持続可能な農業の振興	26	26	27
健康づくりの推進	5	5	7
地域医療体制の確保	28	25	24
介護予防・高齢者福祉の充実	14	16	10
障がい者福祉の充実	19	18	17
生活困窮者等の自立支援	23	23	22
地域コミュニティの維持・再生	20	20	19
移住・定住による地域の維持	22	22	18
人権意識の向上	18	15	9
結婚・出産・子育て支援の充実	21	24	29
幼児の教育・保育環境の充実	6	13	25
健やかな心と体の育成	7	6	12
確かな学力の定着に向けた支援	11	8	15
学習環境の整備	13	14	13
人生100年時代の生涯学習の推進	17	17	23
生涯を通じたスポーツ活動の推進	16	9	16
歴史文化資源の保存と活用	15	12	14

- ・地域別にみると「安全で安定したガス上下水道の維持」、「安全な市民生活の確保」が全ての地域で高い順位となっている。
- ・新井地域、妙高地域で「雪に強いまちづくりの推進」の順位が高い一方で、妙高高原地域では低くなっている。
- ・下位をみると「商工業の振興と中心市街地の賑わいの創出」、「安定して働きやすい雇用の創出」が全ての地域で低くなっている。

## (2) まちづくりの満足度について（基本施策別）

### ①基本施策別の満足度の比較



### ②基本施策別の満足度ランキング

順位	項目	満足度
1	安全・安心な地域社会づくり	0.53
2	豊かな生活環境づくり	0.28
3	質の高い教育環境づくり	0.21
4	郷土愛を育む文化のまちづくり	0.14
5	全てが平等な地域社会づくり	0.12
6	豊かな心身をつくる環境づくり	0.11
7	生活しやすい都市環境づくり	0.11
8	安心して子どもを育てられる環境づくり	0.09
9	全てを支える地域福祉づくり	0.07
10	市民主体の健康づくり	0.06
11	住民主体の地域づくり	0.01
12	世界に誇れる観光地域づくり	-0.11
13	活力ある地域経済づくり	-0.43

- ・基本施策別の満足度の上位については「安全・安心な地域社会づくり」が最も高く、次いで「豊かな生活環境づくり」、「質の高い教育環境づくり」の順となっている。
- ・下位については「活力ある地域経済づくり」が最も満足度が低く、次いで「世界に誇れる観光地域づくり」、「住民主体の地域づくり」の順となっている。

### ③クロス集計（基本施策（満足度）×年代別）

■「基本施策（満足度）」×「年代」別のクロス集計結果(順位)

項目	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
	順位						
生活しやすい都市環境づくり	9	8	7	8	9	8	5
安全・安心な地域社会づくり	1	1	1	1	1	1	1
豊かな生活環境づくり	3	2	2	4	2	2	2
世界に誇れる観光地域づくり	6	12	11	12	12	12	12
活力ある地域経済づくり	13	13	13	13	13	13	13
市民主体の健康づくり	8	7	12	11	11	11	3
全てを支える地域福祉づくり	10	10	10	9	8	9	6
住民主体の地域づくり	11	11	8	10	7	10	11
全てが平等な地域社会づくり	4	5	3	6	4	7	9
安心して子どもを育てられる環境づくり	12	9	9	2	6	6	10
質の高い教育環境づくり	5	3	5	3	3	3	4
豊かな心身をつくる環境づくり	7	6	4	7	5	4	8
郷土愛を育む文化のまちづくり	2	4	6	5	10	5	7

- ・年代別にみると「安全・安心な地域社会づくり」が全ての年代で高い順位となっている。
- ・40歳代では「安心して子どもを育てられる環境づくり」、70歳以上では「市民主体の健康づくり」が他の年代と比べて高い順位となっている。
- ・下位をみると「活力ある地域経済づくり」が全ての年代で低くなっている。また、「世界に誇れる観光地域づくり」は、10歳代以外の年代で低い順位となっている。

### ④クロス集計（基本施策（満足度）×地域別）

■「基本施策（満足度）」×「地域」別のクロス集計結果(順位)

項目	新井地域	妙高高原地域	妙高地域
	順位	順位	順位
生活しやすい都市環境づくり	6	11	4
安全・安心な地域社会づくり	1	1	1
豊かな生活環境づくり	2	2	2
世界に誇れる観光地域づくり	12	12	11
活力ある地域経済づくり	13	13	13
市民主体の健康づくり	10	4	7
全てを支える地域福祉づくり	9	8	8
住民主体の地域づくり	11	10	9
全てが平等な地域社会づくり	8	7	3
安心して子どもを育てられる環境づくり	4	9	12
質の高い教育環境づくり	3	3	5
豊かな心身をつくる環境づくり	7	5	10
郷土愛を育む文化のまちづくり	5	6	6

- ・地域別にみると「安全・安心な地域社会づくり」、「豊かな生活環境づくり」が全ての地域で高い順位となっている。
- ・新井地域、妙高地域では「生活しやすい都市環境づくり」の順位が高く、妙高高原地域では「市民主体の健康づくり」の順位が高くなっている。
- ・下位をみると「世界に誇れる観光地域づくり」、「活気ある地域経済づくり」が全ての地域で低くなっている。

### (3) 今後のまちづくりの重要度について（主要施策別）

#### ①主要施策別の重要度ランキング（値1.00以上掲載）

順位	項目	重要度
1	雪に強いまちづくりの推進	1.56
2	地域医療体制の確保	1.53
3	安定して働きやすい雇用の創出	1.37
4	結婚・出産・子育て支援の充実	1.31
5	介護予防・高齢者福祉の充実	1.30
6	安全な市民生活の確保	1.27
7	幼児の教育・保育環境の充実	1.26
8	防災体制の確立	1.25
9	安全で安定したガス上下水道の維持	1.25
10	健やかな心と体の育成	1.13
11	学習環境の整備	1.13
12	障がい者福祉の充実	1.12
13	持続可能な農業の振興	1.12
14	確かな学力の定着に向けた支援	1.10
15	健康づくりの推進	1.09
16	自然環境の保全と活用	1.06
17	地球温暖化対策の推進	1.03
18	道路ネットワークの強化	1.03

- ・主要施策別の重要度の上位については「雪に強いまちづくりの推進」が最も高く、次いで「地域医療体制の確保」、「安定して働きやすい雇用の創出」、「結婚・出産・子育て支援の充実」、「介護予防・高齢者福祉の充実」の順となっている。

## ②クロス集計（主要施策（重要度）×年代別）

■「主要施策（重要度）」×「年代」別のクロス集計結果(順位)

項 目	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
	順位						
コンパクトなまちづくりの推進	26	24	12	21	18	22	21
スマートシティ妙高の推進	18	20	17	23	24	25	31
道路ネットワークの強化	27	16	16	22	20	18	16
雪に強いまちづくりの推進	7	2	1	3	1	2	2
安全で安定したガス上下水道の維持	22	12	10	9	10	9	3
防災体制の確立	12	9	9	15	12	8	4
安全な市民生活の確保	13	5	8	6	7	4	8
自然環境の保全と活用	10	18	11	8	14	15	17
地球温暖化対策の推進	19	21	22	26	8	16	15
資源循環のまちづくりの推進	14	25	23	24	19	20	23
観光地域づくりの実践	20	14	19	18	11	21	22
国際観光都市としての基盤整備	23	28	25	30	23	31	30
商工業の振興と中心市街地の賑わいの創出	30	17	20	25	22	17	20
安定して働きやすい雇用の創出	4	3	4	4	2	3	7
持続可能な農業の振興	15	7	18	7	9	10	18
健康づくりの推進	21	15	15	14	25	13	9
地域医療体制の確保	5	6	2	1	3	1	1
介護予防・高齢者福祉の充実	8	22	13	2	6	5	6
障がい者福祉の充実	16	19	21	5	15	12	11
生活困窮者等の自立支援	24	27	28	13	21	23	19
地域コミュニティの維持・再生	25	23	29	20	27	26	24
移住・定住による地域の維持	17	13	24	16	26	24	25
人権意識の向上	9	26	27	31	30	29	26
結婚・出産・子育て支援の充実	11	4	3	11	4	7	5
幼児の教育・保育環境の充実	6	1	5	10	5	6	10
健やかな心と体の育成	1	10	14	17	17	11	12
確かな学力の定着に向けた支援	2	8	7	19	13	19	14
学習環境の整備	3	11	6	12	16	14	13
人生100年時代の生涯学習の推進	29	29	26	27	28	27	27
生涯を通じたスポーツ活動の推進	28	31	31	29	31	30	29
歴史文化資源の保存と活用	31	30	30	28	29	28	28

- ・年代別にみると「雪に強いまちづくりの推進」が、10歳代以外の年代で高い順位となっている。
- ・10歳代では「健やかな心と体の育成」、「確かな学力の定着に向けた支援」、「学習環境の整備」の順位が高くなっている。
- ・40歳代では「介護予防・高齢者福祉の充実」、「障がい者福祉の充実」が他の年代に比べて高い順位となっている。
- ・下位をみると「生涯を通じたスポーツ活動の推進」、「歴史文化資源の保存と活用」が全ての年代で低くなっている。

### ③クロス集計（主要施策（重要度）×地域別）

■「主要施策（重要度）」×「地域」別のクロス集計結果(順位)

項目	新井地域	妙高高原地域	妙高地域
	順位	順位	順位
コンパクトなまちづくりの推進	18	25	27
スマートシティ妙高の推進	25	26	28
道路ネットワークの強化	16	21	16
雪に強いまちづくりの推進	1	3	1
安全で安定したガス上下水道の維持	8	11	8
防災体制の確立	5	13	7
安全な市民生活の確保	9	7	5
自然環境の保全と活用	17	5	17
地球温暖化対策の推進	19	9	21
資源循環のまちづくりの推進	23	19	24
観光地域づくりの実践	20	17	19
国際観光都市としての基盤整備	30	23	26
商工業の振興と中心市街地の賑わいの創出	21	22	25
安定して働きやすい雇用の創出	3	2	4
持続可能な農業の振興	10	18	11
健康づくりの推進	14	16	12
地域医療体制の確保	2	1	2
介護予防・高齢者福祉の充実	6	4	3
障がい者福祉の充実	12	14	15
生活困窮者等の自立支援	22	20	22
地域コミュニティの維持・再生	31	31	31
移住・定住による地域の維持	24	24	18
人権意識の向上	27	28	20
結婚・出産・子育て支援の充実	4	8	6
幼児の教育・保育環境の充実	7	6	13
健やかな心と体の育成	13	10	14
確かな学力の定着に向けた支援	15	12	9
学習環境の整備	11	15	10
人生100年時代の生涯学習の推進	26	27	29
生涯を通じたスポーツ活動の推進	29	29	30
歴史文化資源の保存と活用	28	30	23

- ・地域別にみると「雪に強いまちづくりの推進」、「地域医療体制の確保」が全ての地域で高い順位となっている。
- ・新井地域、妙高地域で「防災体制の確立」の順位が高い一方で、妙高高原地域では低くなっている。
- ・妙高高原地域では「自然環境の保全と活用」、「地球温暖化対策の推進」の順位が他の地域と比べて高くなっている。
- ・下位をみると、「地域コミュニティの維持・再生」、「生涯を通じたスポーツ活動の推進」の順位が低くなっている。

#### (4) 今後のまちづくりの重要度について（基本施策別）

##### ①基本施策別の重要度の比較



##### ②基本施策別の重要度ランキング

順位	項目	重要度
1	市民主体の健康づくり	1.31
2	安心して子どもを育てられる環境づくり	1.28
3	安全・安心な地域社会づくり	1.26
4	活力ある地域経済づくり	1.14
5	生活しやすい都市環境づくり	1.12
6	全てを支える地域福祉づくり	1.12
7	質の高い教育環境づくり	1.12
8	豊かな生活環境づくり	1.00
9	世界に誇れる観光地域づくり	0.82
10	住民主体の地域づくり	0.82
11	全てが平等な地域社会づくり	0.69
12	豊かな心身をつくる環境づくり	0.66
13	郷土愛を育む文化のまちづくり	0.65

- ・基本施策別の重要度の上位については「市民主体の健康づくり」が最も高く、次いで「安心して子どもを育てられる環境づくり」、「安全・安心な地域社会づくり」の順となっている。
- ・下位については「郷土愛を育む文化のまちづくり」が最も低く、次いで「豊かな心身をつくる環境づくり」、「全てが平等な地域社会づくり」の順となっている。

### ③クロス集計（基本施策（重要度）×年代別）

■「基本施策（重要度）」×「年代」別のクロス集計結果(順位)

項目	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
	順位						
生活しやすい都市環境づくり	9	6	3	6	4	6	5
安全・安心な地域社会づくり	5	2	5	3	2	3	2
豊かな生活環境づくり	6	8	7	9	7	8	8
世界に誇れる観光地域づくり	11	9	9	10	8	10	10
活力ある地域経済づくり	8	4	6	4	3	4	7
市民主体の健康づくり	4	5	2	1	6	1	1
全てを支える地域福祉づくり	7	10	8	2	5	5	4
住民主体の地域づくり	10	7	12	8	10	9	9
全てが平等な地域社会づくり	3	11	11	13	12	12	11
安心して子どもを育てられる環境づくり	2	1	1	5	1	2	3
質の高い教育環境づくり	1	3	4	7	9	7	6
豊かな心身をつくる環境づくり	12	13	10	11	13	13	13
郷土愛を育む文化のまちづくり	13	12	13	12	11	11	12

- ・年代別にみると「安心して子どもを育てられる環境づくり」が40歳代以外の年代で高い順位となっている。
- ・10歳代では「質の高い教育環境づくり」、「全てが平等な地域社会づくり」の順位が他の年代と比べて高くなっている。
- ・下位をみると「豊かな心身をつくる環境づくり」、「郷土愛を育む文化のまちづくり」が全ての年代で低くなっている。

### ④クロス集計（基本施策（重要度）×地域別）

■「基本施策（重要度）」×「地域」別のクロス集計結果(順位)

項目	新井地域	妙高高原地域	妙高地域
	順位	順位	順位
生活しやすい都市環境づくり	5	8	7
安全・安心な地域社会づくり	3	3	2
豊かな生活環境づくり	8	4	9
世界に誇れる観光地域づくり	9	9	10
活力ある地域経済づくり	4	7	6
市民主体の健康づくり	1	1	1
全てを支える地域福祉づくり	6	5	5
住民主体の地域づくり	13	13	13
全てが平等な地域社会づくり	10	10	8
安心して子どもを育てられる環境づくり	2	2	3
質の高い教育環境づくり	7	6	4
豊かな心身をつくる環境づくり	11	11	12
郷土愛を育む文化のまちづくり	12	12	11

- ・地域別にみると、「市民主体の健康づくり」、「安心して子どもを育てられる環境づくり」が全ての地域で高い順位となっている。
- ・下位をみると「住民主体の地域づくり」、「郷土愛を育む文化のまちづくり」が全ての地域で低くなっている。

(5) 満足度と重要度の一覧表

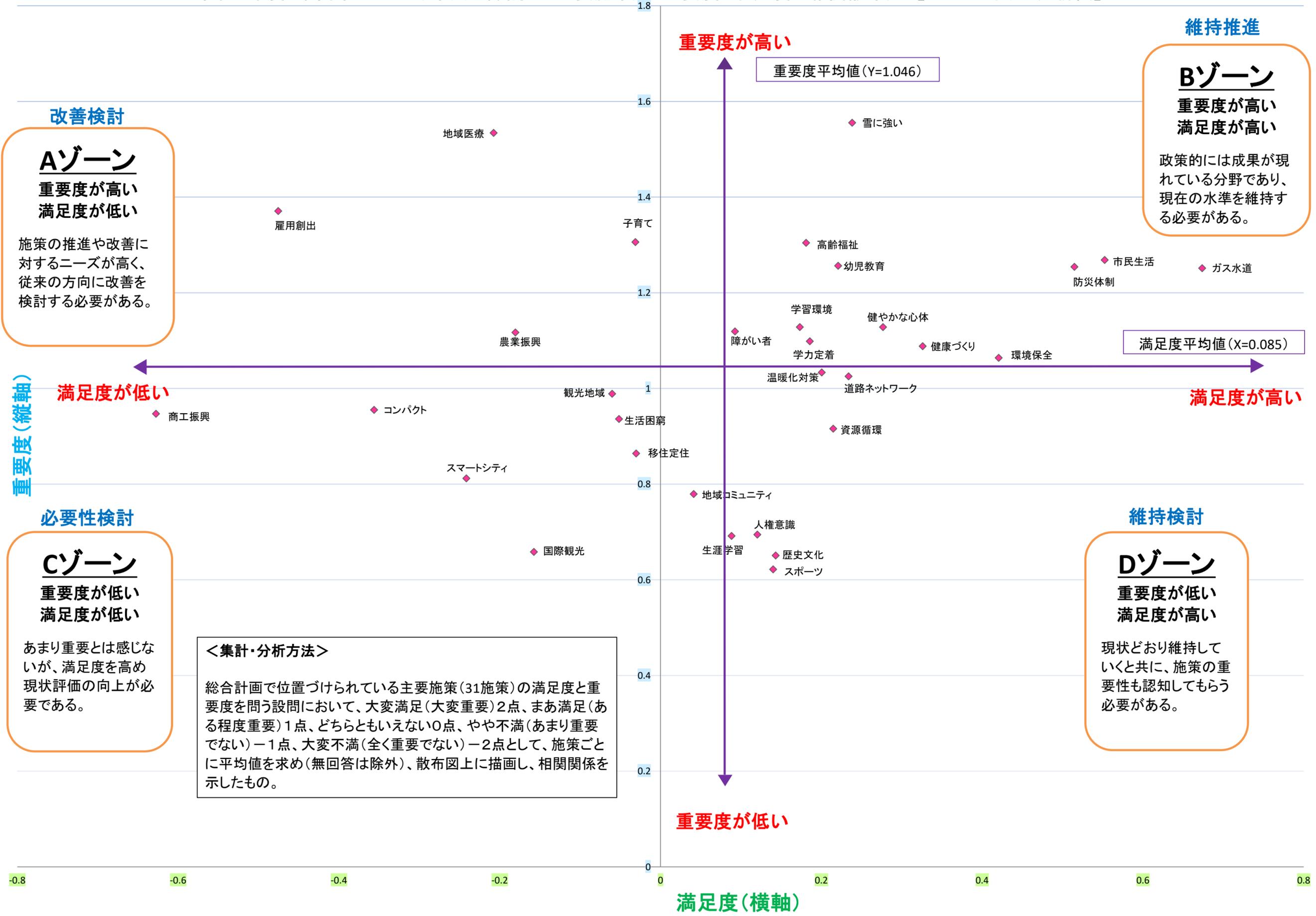
①主要施策別

項目	満足度		重要度	
	平均値	順位	平均値	順位
コンパクトなまちづくり※1の推進	-0.36	29	0.96	20
スマートシティ※2 妙高の推進	-0.24	28	0.81	25
道路ネットワークの強化	0.23	8	1.03	18
雪に強いまちづくりの推進	0.24	7	1.56	1
安全で安定したガス上下水道の維持	0.67	1	1.25	9
防災体制の確立	0.51	3	1.25	8
安全な市民生活の確保	0.55	2	1.27	6
自然環境の保全と活用	0.42	4	1.06	16
地球温暖化対策の推進	0.20	11	1.03	17
資源循環のまちづくりの推進	0.21	10	0.92	23
観光地域づくりの実践	-0.06	24	0.99	19
国際観光都市としての基盤整備	-0.16	25	0.66	29
商工業の振興と中心市街地の賑わいの創出	-0.63	30	0.95	21
安定して働きやすい雇用の創出	-0.48	31	1.37	3
持続可能な農業の振興	-0.18	26	1.12	13
健康づくりの推進	0.33	5	1.09	15
地域医療体制の確保	-0.21	27	1.53	2
介護予防・高齢者福祉の充実	0.18	13	1.30	5
障がい者福祉の充実	0.09	18	1.12	12
生活困窮者等の自立支援	-0.05	23	0.94	22
地域コミュニティの維持・再生	0.04	20	0.78	26
移住・定住による地域の維持	-0.03	21	0.86	24
人権意識の向上	0.12	17	0.69	27
結婚・出産・子育て支援の充実	-0.03	22	1.31	4
幼児の教育・保育環境の充実	0.22	9	1.26	7
健やかな心と体の育成	0.28	6	1.13	10
確かな学力の定着に向けた支援	0.19	12	1.10	14
学習環境の整備	0.17	14	1.13	11
人生100年時代の生涯学習の推進	0.09	19	0.69	28
生涯を通じたスポーツ活動の推進	0.14	16	0.62	31
歴史文化資源の保存と活用	0.14	15	0.65	30

## ②基本施策別

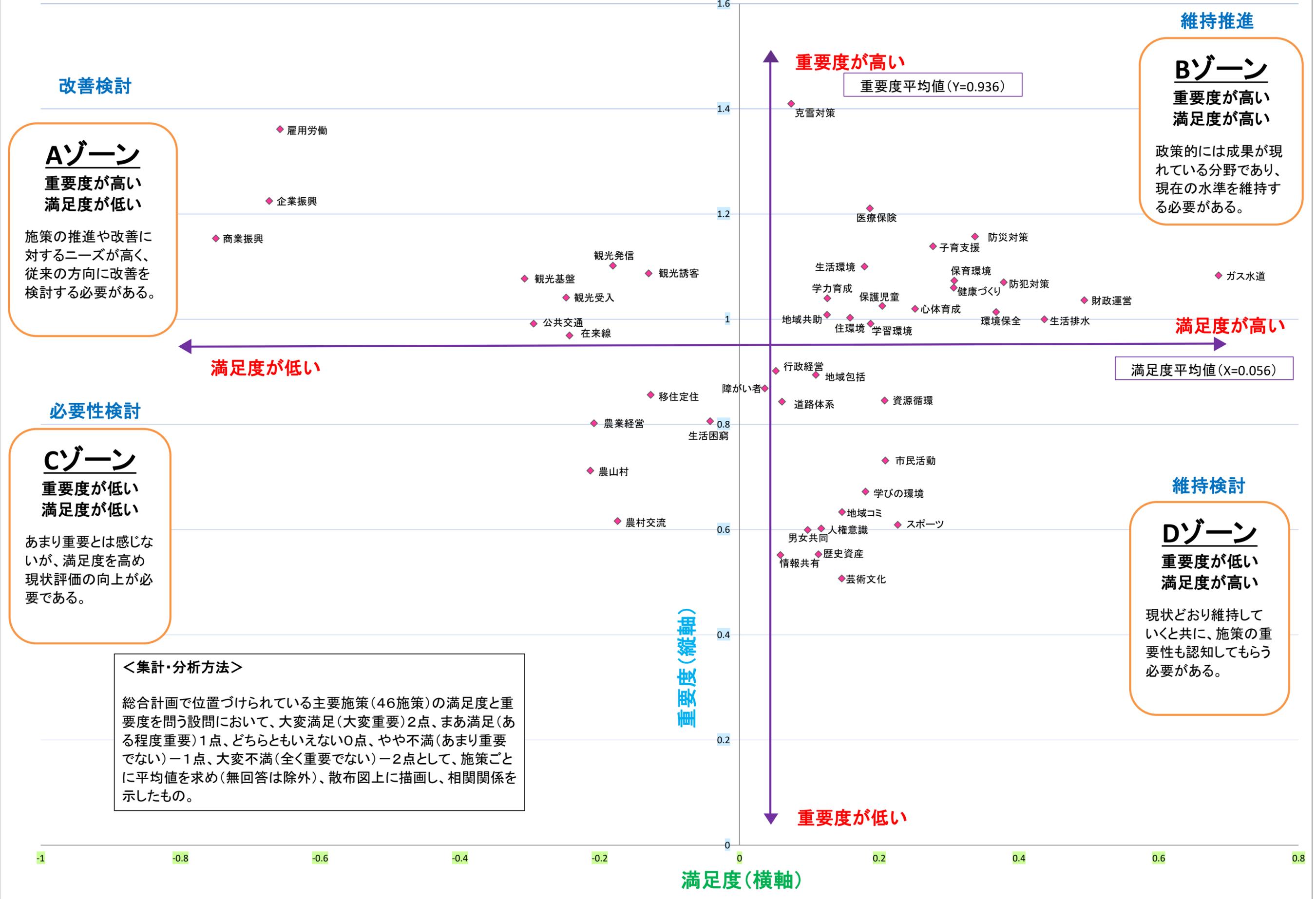
項目	満足度		重要度	
	平均値	順位	平均値	順位
生活しやすい都市環境づくり	0.11	7	1.12	5
安全・安心な地域社会づくり	0.53	1	1.26	3
豊かな生活環境づくり	0.28	2	1.00	8
世界に誇れる観光地域づくり	-0.11	12	0.82	9
活力ある地域経済づくり	-0.43	13	1.14	4
市民主体の健康づくり	0.06	10	1.31	1
全てを支える地域福祉づくり	0.07	9	1.12	6
住民主体の地域づくり	0.01	11	0.82	10
全てが平等な地域社会づくり	0.12	5	0.69	11
安心して子どもを育てられる環境づくり	0.09	8	1.28	2
質の高い教育環境づくり	0.21	3	1.12	7
豊かな心身をつくる環境づくり	0.11	6	0.66	12
郷土愛を育む文化のまちづくり	0.14	4	0.65	13

令和5年度 妙高市まちづくり市民意識調査 主要施策別 重要度と満足度の相関散布図【ポートフォリオ分析表】



**<集計・分析方法>**  
 総合計画で位置づけられている主要施策(31施策)の満足度と重要度を問う設問において、大変満足(大変重要)2点、まあ満足(ある程度重要)1点、どちらともいえない0点、やや不満(あまり重要でない)-1点、大変不満(全く重要でない)-2点として、施策ごとに平均値を求め(無回答は除外)、散布図上に描画し、相関関係を示したものを。

平成30年度 妙高市まちづくり市民意識調査 主要施策別 重要度と満足度の相関散布図【ポートフォリオ分析表】



**<集計・分析方法>**

総合計画で位置づけられている主要施策(46施策)の満足度と重要度を問う設問において、大変満足(大変重要)2点、まあ満足(ある程度重要)1点、どちらともいえない0点、やや不満(あまり重要でない)-1点、大変不満(全く重要でない)-2点として、施策ごとに平均値を求め(無回答は除外)、散布図上に描画し、相関関係を示したもの。